工事名 (仮称)肴町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体) 工事特記仕様書

Ⅰ. 工事概要

1. 工事場所　盛岡市肴町 200-2 200-3 200-4 200-5 (用途地域 近隣商業地域　防火地域 準防火地域)
2. 敷地面積　[illegible]
3. 工事種別　新築
4. 工事規模　鉄骨造2階建　1F 1234.44 / 2F 1215.74
5. 工事内容　建築工事 一式
   外構工事 一式

別途工事

Ⅱ. 建築工事仕様

1. 共通仕様

図面、特記仕様書及び現場説明事項に記載されていない事項は、全て建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書(平成9年版)」(以下「共仕」という。)による。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
　⊙印の付かない場合は、○印の付いたものを適用する。
　⊙印と◎印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特記事項に記載の ( ) 内表示番号は、共仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	1. 適用基準	・建築工事標準詳細図　建設大臣官房官庁営繕部監修　(平成5年版) ・敷地調査共通仕様書　建設大臣官房官庁営繕部監修　(平成5年版) ・ ・ ・ ・
	2. 工事実績情報の登録(工事カルテ)	⊙ 適用する　(1.1.4)
	3. 発生材の処理等	・引渡しを要するもの (　)　(1.1.13) ・特別管理産業廃棄物 (　) 　処理方法 (　) ・現場において再利用を図るもの (　) ・再生資源化を図るもの 　・コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材 　受入施設名 (　) 　受入場所 (　) 　仮置場所 (　) ・その他再生資源化を図るもの 　受入施設名 (　) 　受入場所 (　) 　仮置場所 (　) ⊙ 自由処分
	4. 現場技術員等	現場には下記の現場技術員等を置く。(1.3.2) ⊙ 監理技術者又は主任技術者：建設業法第26条による有資格者を専任又は常駐させること。 ⊙ 現場技術員　：適正な技術員を専任又は常駐させること。
	5. 電気保安技術者	・適用する　(1.3.3)
	6. 技術士	(1.5.2) 技能検定の職種 / 作業の種別 鉄筋工事 ⊙鉄筋施工 / ⊙全て ・ コンクリート工事 ⊙左官 ⊙型枠施工 / ⊙全て ・ 鉄骨工事 ⊙とび / ⊙全て ・ ブロック・ALCパネル工事・PCカーテンウォール工事(・ブロック建築・ALCパネル施工・カーテンウォール施工) / ・全て ・ 防水工事 ⊙防水施工 / ・全て ・ 石工事 ・石材施工 / ・全て ・ タイル工事 ⊙タイル張り / ⊙全て ・ 木工事 ⊙建築大工 / ⊙全て ・ 屋根・とい工事 ⊙建築板金 ・スレート施工 / ⊙全て ・ 金属工事 ⊙内装仕上げ施工(鋼製下地) / ⊙全て ・ 左官工事 ⊙左官 / ⊙全て ・ 塗装工事 ⊙サッシ施工 ⊙ガラス施工 / ⊙全て ・ 吹付工事 ⊙吹付 / ⊙全て ・ 内装工事 ⊙内装仕上げ施工(床、天井仕上げ等)・表装 / ⊙全て ・ 機械工事 ・造作機 / ・全て ・
	7. 施工条件	・　(1.3.5)
	8. 建築材料等	本工事に使用する材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。 木材その他主要材料等は、可能な限り県産品を使用するとともに、建設資材は県内販売業者から調達するよう努めること。
	9. 特別な材料の工法	共仕に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定する工法とする。
	10. 提出図書	請負契約に定められている書類 (契約後) ⊙工事着手届 ⊙工事工程表 ⊙現場代理人、主任技術者等届 / ⊙火災保険加入契約書(写) ⊙下請調書 (工事中) ・出来高検査願 (完成後) ・工事完成届 ⊙工事完成引渡書(引渡図書目録添付) 共通、特記仕様書等に定められている書類 (契約後) ⊙製造所等承認願 ⊙工事総合施工計画書 ⊙現場技術員届 / ⊙各種工事施工計画書 ⊙各種工事施工届 ⊙工事作業日報 (工事中) ⊙主要資材規格又は品質証明書 ⊙各種検査試験書又は報告書 / ⊙主要資材搬入検査簿 ⊙技術士合格証明書 (完成後) ・完成図(修正設計図) ⊙責任施工申証書 ⊙各種届出書等 / ⊙官公署許認可及び検査済書 ⊙瑕疵管理申請書(瑕疵補修証明含む)

章	項目	特記事項
①-2 一般共通事項	11. 施工図及び施工計画書	施工図等の提出について　(1.7.2) (a) 共仕に定める施工図及び施工計画書として、次のものを提出する。 (1) 鉄筋配筋図(納まり図含む) (2) コンクリート組体図 (3) 鉄骨製作図 (4) カーテンウォール製作図 (5) カーテンウォール施工計画書 (b) 施工図の記載内容及び配図水準は、建設大臣官房官庁営繕部監修「建築・設備工事施工図の描き方(平成元年)」に準ずるものとする。 (c) 本工事に係る施工図及び施工計画書の著作権の権利は、当該建物における使用に限り、発注者に譲渡するものとする。 (d) 提出部数は、施工図の原図及びその陽画焼写図(1部)とする。ただし、製作図等で原図として提出が出来ないものは、原図に代わるものとしてよい。
	12. 工事・完成写真	下記のものを監督員に提出する。 区分 / 分類 / 規格 / 撮影箇所数 / 部数 / 備考 着工前 / ⊙カラー / ⊙サービス版 / 監督員の指示による。(撮影計画を提出する) / 2部 工事施工状況 / ⊙カラー / ⊙サービス版 / 1部 完成時 / ⊙カラー / ⊙キャビネ版・⊙サービス版 / 2部
	13. 設備工事との取合い	施工箇所 ・図示した貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ・図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び下地材の補強 ・建物躯体が電柱による建具類の2次配線及び操作スイッチ ・自動制御装置取付けの箱所の切り込み及び補強 ・ 施工図 設備機器の位置、取合い等が検討される施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。
	14. 経年検査	本工事完成一年後の経年検査　・なし　⊙あり
② 仮設工事	1. 監督員事務所	⊙ 設ける　(2.3.3)(表2.3.1) 規模　⊙1号 ・2号 ・3号 ・4号 ・5号 ・ ・設けない
	2. 監督員事務所の備品等	(2.3.3) 備品の種類 / 机、椅子 / 書棚 / 黒板 / 製図板 / 掛時計 数量 / 1組 / 台 / 個 / 台 / 個 備品の種類 / 温度計 / ゴム長靴 / 雨がっぱ / 保護帽 / 懐中電灯 数量 / 個 / 足 / 着 / 個 / 個 備品の種類 / 掃除具 / 表札ロッカー / 冷暖房機器 / 消火器 / 湯沸器 数量 / 個 / 人用 / 台 / 個 / 台 備品の種類 / 加入電話の付属電話機 / テレビ 数量 / 1台 / 台
	3. 工事用水	構内既存の施設 ・利用できる(・有償 ・無償)　⊙ 利用できない
	4. 工事用電力	構内既存の施設 ・利用できる(・有償 ・無償)　⊙ 利用できない
	5. 足場等	定置する足場、機械の類は、別現約の関係請負者に無償で使用させる。　(2.2.4)
③ 土工事	1. 埋戻し及び盛土	種別 ・A種 ⊙B種 ・C種 ・D種　(3.2.3)(表3.2.1) C種の場合(建設発生土受入量　㎥　発生場所：　)
	2. 建設発生土の処理	(3.2.5) ※ 構外搬出道路処理 ・構内指定場所に敷き均し ・構内指定場所にたい積 ・構外指定場所に処分(搬出調書等を提出する) 　受入施設名 (　) 　受入場所 (　) 　仮置場所 (　)
	3. 騒音振動の防止	低騒音型、低振動型建設機械指定要項に基づき指定された建設機械を使用する。
④ 地業工事	1. 既製コンクリート杭の材料	材料　(4.2.2)(表4.2.1) 種類 / 規格名称等 / 区分等 ・RC杭(遠心力鉄筋コンクリート杭) / ・JIS A 5310(遠心力鉄筋コンクリート杭) / ※1種 ・2種A ・2種 ・PHC杭(高強度プレストレストコンクリート杭) / ・JIS A 5337(プレテンション遠心力高強度プレストレストコンクリート杭) ・㈳日本建築センターの評価又は評価基準 ・㈳コンクリートパイル建設技術協会の評価基準 / ・A種 ・B種 ・C種 ・SC杭(外殻鋼管付きコンクリート杭) / ・㈳日本建築センターの評価又は評価基準 ・㈳コンクリートパイル建設技術協会の評価基準 / ・ ・PRC杭(鉄筋又は平鋼を入れた杭) / ・㈳日本建築センターの評価又は評価基準 / ・1種 ・II種 ・III種 ・IV種 ・ST杭(拡径断面を有する遠心力高強度プレストレストコンクリート杭) / ・㈳日本建築センターの評価又は評価基準 ・㈳コンクリートパイル建設技術協会の評価基準 / ・A種 ・B種 ・C種
	2. 既製コンクリート杭地業の工法	寸法及び継手　(4.2.2)(4.2.6) 種類 / 規格 / 区分 / 断面寸法 / 長さ / 継手箇所数 / 継手工法 ・評価品 / 種 / ※アーク溶接 ・JIS規格品 先端形状　(4.2.2) ※ 開放形　・閉そく平たん形　・ 適用工法　(4.2.1)(4.2.3)(4.2.4)(4.2.5) 工法 / 工法の分類 / 許容支持力を定める方法 ・打込み工法 / ・打撃(直打)工法 ・プレボーリング併用打撃工法 ・中掘打撃工法 / 昭和48年1月29日付建告第1111号 ・セメントミルク工法 / ・プレボーリング根固め工法 / 昭和48年1月29日付建告第1111号 ・超定埋込み工法 / ・プレボーリング拡大根固め工法 ・中掘拡大根固め工法 ・回転根固め工法 ・プレボーリング最終打撃工法 / 建設基準法第38条の規定に基づく建設大臣の認定を受けたもの 上記の昭和48年1月29日付建告第1111号「地盤の許容応力度及び基礎ぐいの許容応力度を求めるための地盤調査の方法並びにその結果に基づき地盤の許容応力度及び基礎ぐいの許容支持力を定める方法」は、昭和63年12月20日付建告第1633号により改正されているものである。

章	項目	特記事項
④-2 地業工事	3. 打込み工法	設計支持力　(4.2.3) プレボーリングの制限(プレボーリング併用打撃工法の場合)　(4.2.3) プレボーリングの深さ　・本杭-2.0mの長さ　・ プレボーリングの径　・本杭-50mm程度の径　・ 杭打機　(4.2.3) ハンマーの種類 ※ 油圧パイルハンマー「建築技術評価基準に基づく技術評価を受けた杭打機」又は、低騒音型油圧パイルハンマー施工研究報告書に記載されたもの。 ・ディーゼルハンマー ・ パイルドライバーの指定 ・ 騒音、振動の測定 ・行う　※ 行わない
	4. 地盤の載荷試験	地盤の載荷試験の種別　(4.6.3) ※平板載荷試験　・ 試験箇所及び試験位置　(4.6.3) 試験位置 ※図示　・ 試験孔 ※不要　・深さGL-　m径　cm　・ 試験深さ(m) ※地盤底面位置　・試験孔底　・設計GLより　m　・ 試験対象土質 ※支持層　・ ・ 平板載荷試験の方法　(4.6.3) 試験の方法 ※「敷地調査共通仕様書」4章9節による　・ 最大荷重(t) 荷重制御 ※1サイクル法　・多サイクル法　・
	5. 砂及び砂利地業	砂及び砂利地業の材料　(4.5.4) 地業 / 材料 / 適用事項 砂利地業 / ・再生クラッシャラン ⊙切込み砂利又は切込み砕石 ・ / ・ 砂地業 / ※川砂又は砕砂 ・ / ・
	6. 床下防湿層	防湿層の材料及び施工場所　(4.5.6) 材料 / 施工箇所 ※ ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm 重ね幅、横幅共250mm以上 / ※ 図示 ・建物内土間床版及び土間コンクリート下地(ピット下を除く)
⑤ 鉄筋工事	1. 鉄筋	鉄筋の種類　(5.2.1)(表5.2.1) 規格 / 種別 / 径(mm) ※ JIS G 3112 鉄筋コンクリート用棒鋼 / ⊙SD295A ⊙SD345 / ⊙D10 ⊙D13 ・D16 ・ ⊙D19 ⊙D22 ・D25 ・D29 ・D32 ・
	2. 溶接金網	網目の形状寸法及び鉄線の径　(5.2.3) 規格 / 網目の形状寸法 / 鉄線の径 ※ JIS G 3551 / ・ / ・
	3. 加工及び組立て一般事項	鉄筋の種類に応じた継手工法　(5.3.1)(表5.3.1) 部位 / 接合方法 / 径(mm) ※ 柱・梁の主筋 / ※ ガス圧接 ・重ね継手 ・特殊な鉄筋継手SA級 / ・ ※ その他 / ※ 重ね継手 ・
		隣合う継手の位置　(5.3.1)(表5.3.5) ※ 表5.3.5 ・先組み工法等で同一箇所に設ける場合： 特殊な鉄筋継手の場合の鉄筋相互のあき　(5.3.2) ・5.3.2(d)　・
	4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ　(5.3.2)(表5.3.6) ※ 表5.3.6 ・その他部分の最小かぶり厚さ その他部分の施工箇所等 / 最小かぶり厚さ ・土に接する軽量コンクリート ・屋外に面する打放し部分 / 表5.3.6の値に加える寸法を10mmとする ・
	5. 杭基礎の杭頭補強	杭頭補強の方法　(5.4.1)(表5.4.1) 既製コンクリート杭　※B形　・A形 既製コンクリート杭以外
	6. 帯筋	組立ての形の種別　(5.5.2)(図5.5.2) ※ H形 ・W-I形 ・W-II形 ・ 径及び間隔　(5.5.2)(図5.5.2) ※ 図示　・
	7. 最上階柱頭補強	※ 行う　・行わない
	8. 貫通孔の補強	補強形式　(図5.10.1)(図5.10.2)(図5.10.3) ※ H形　・M H形　(表5.10.1)(表5.10.2)(表5.10.3) ・M形　・ ・建設技術評価制度「鉄筋コンクリート造の貫通補強材の開発」において評価を取得したもの、又は、㈳日本建築センターの評価を受けたもの
	9. 機械吊上げ用フック	フックの種別　(5.10.3)(表5.10.4)(図5.10.6) ・A種　・B種　・C種
	10. 圧接完了後の試験	検査方法　(5.11.9) ※ 超音波探傷試験　・引張試験

章	項目	特記事項
⑥ コンクリート工事	1. コンクリートの強度	普通コンクリートの設計基準強度　(6.1.4) 設計基準強度Fc(N/㎟) / 適用範囲 ※ 21 / ・ 軽量コンクリートの設計基準強度　(6.1.4) 設計基準強度Fc(N/㎟) / 適用範囲 ※ 21 / ・
	2. レディーミクストコンクリートの種別	レディーミクストコンクリートの種別　(6.1.5)(表6.1.1)(6.4.1)(6.4.2) ※ I類　・II類
	3. セメントの種類	セメントの種類　(6.3.2)(表6.3.1)(6.13.2)(6.16.2) ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 上記の普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210(ポルトランドセメント)に示された規定の他、次の規定に適合するものとする。 水和熱：7日目で352 J/g(84cal/g)以下かつ28日目で402 J/g(96cal/g)以下 ・高炉セメントのB種 ・
	4. 骨材	砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分(JIS A 5308)　(6.3.3) ※ A　・B 砂石及び砕砂(JIS A 5005)の種類　(6.3.3)(6.11.2) ※ A　・B 細骨材の塩分含有量 ※ 0.04%/wt以下　・
	5. 混和材料	混和材料の種類　(6.3.5)(6.4.8) ※ 混和剤 ※ AE剤又はAE減水剤標準形(JIS A 6204) ・高性能AE減水剤標準形　(JIS A 6201) ・ ※ 混和材　(6.4.8)(6.4.9) ※ フライアッシュ　(JIS A 6201) ・コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206) ・膨張材　(JIS A 6202) ・ 混和材料の使用量　(6.4.8) ※ 6.4.8(d)(e)(f)による ・監督員の承諾を受ける旨による　・
	6. 軽量コンクリート	軽量コンクリートの種別　(6.11.1)(表6.11.1) 種別 / 所要気乾単位容積質量(t/㎥) / 適用箇所 ・1種 / ※1.7~2.0 ・ ・2種 / ※1.4~1.7 ・ 所要空気量　(6.11.3) ※ 5.0%/vl　・
	7. 無筋コンクリート	無筋コンクリートの適用箇所　(6.14.1)(5.14.2)(6.14.3) 施工箇所 / 種類 / 発注者指定 (N/㎟) / スランプ (cm) / 粗骨材の最大寸法 ※ 6.14.1(1)(2)(3) / ※ 普通コンクリート / ※15 / ※15~18 / ※ 6.14.2(b) ・6.14.1(4)(5) / ・鋼管コンクリート / ・ / ・ / ・ ・
	8. 特殊な コンクリート	特殊な要求性能におけるコンクリート　(6.1.3) ※ 適用なし ・以下により適用する 特殊な要求性能 / 適用範囲 / 摘要
	9. コンクリートの仕上がり	部材の位置及び断面寸法の許容差　(6.2.5)(表6.2.2) ※ 表6.2.2による ・ 仕上りの平たんさ　(6.2.5)(表6.2.4) ※ 表6.2.4による ・
	10. 打放し仕上げの種別	打放し仕上げの種別　(6.2.[illegible])(表6.2.1)(6.2.3) ※ 合板せき板を用いる場合 種別 / せき板 / 施工方法 ・A種 / ※6.9.3(b)(1) ・ ・B種 / ※6.9.3(b)(2) ・ ・C種 / ※6.9.3(b)(3) ・ ・合板せき板を用いない場合 せき板の種別： コンクリート仕上り面の補修　※ 6.2.5(b)(1)(ii)　・ 外部に面するコンクリート打放し仕上げの打増し厚さ　(6.9.2) ※ 20mm　・
	11. 床型枠用鋼製デッキプレート	・床型枠用鋼製デッキプレート ※建設技術評価制度「鉄筋コンクリート建築物等における床型枠用鋼製デッキプレートの開発」において評価を取得したものの又は、㈳公共建築協会「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」において評価を取得したもの。 使用箇所 / 厚さ / 備考

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)-5755	検図	製図	特記

図面内容 特記仕様書 1	縮尺 —	枚ノ内	図面番号 1
		区分	建築意匠

（仮称） 肴町地区ｺﾐｭﾆﾃｨｰ消防ｾﾝﾀｰ建設（建築主体）工事

図面リスト

図面番号	工事区分		図面内容	縮尺	図面内容	工事区分		図面内容	縮尺
A 1	建築意匠		特記仕様書 1	――	A 23	建築意匠		建具表 2	S=1:50
A 2	〃		特記仕様書 2	――	A 24	〃		建具表 3	S=1:50
A 3	〃		特記仕様書 3	――	A 25	建築構造		配筋標準図 1	――
A 4	〃		特記仕様書 4	――	A 26	〃		配筋標準図 2	――
A 5	〃		案内図　配置図	S=1:200	A 27	〃		配筋標準図 3	――
A 6	〃		外部仕上表　内部仕上表	――	A 28	〃		鉄骨標準図 1	――
A 7	〃		1階・2階平面図　屋根伏図	S=1:100	A 29	〃		鉄骨標準図 2	――
A 8	〃		立面図	S=1:100	A 30	〃		鉄骨標準図 3	――
A 9	〃		断面図	S=1:100	A 31	〃		基礎伏図　基礎断面図　配筋図	S=1:100, S=1:50
A 10	〃		矩形図	S=1:30	A 32	〃		柱伏図　鉄骨ﾘｽﾄ	S=1:100
A 11	〃		詳細図　階段詳細図	S=1:30	A 33	〃		2階梁伏図　R階梁伏図　吹抜梁伏図	S=1:100
A 12			天井伏図	S=1:100	A 34	〃		軸組図 1	S=1:100
A 13	〃		家具詳細図	S=1:50	A 35	〃		鉄骨詳細図	S=1: 30
A 14	〃		1階平面詳細図	S=1:50	A 36	外構図		平面図，詳細図	S=1:100 S=1: 20, S=1:50
A 15	〃		2階平面詳細図	S=1:50					
A 16	〃		展開図 1	S=1:50					
A 17	〃		展開図 2	S=1:50					
A 18	〃		展開図 3	S=1:50					
A 19	〃		展開図 4	S=1:50					
A 20	〃		展開図 5	S=1:50					
A 21	〃		建具 KEY PLAN	S=1:100					
A 22	〃		建具表 1	S=1:50					

工事名	（仮称）肴町地区コミュニティ 消防センター建設（建築主体）工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 図面リスト	縮尺 ――	枚ノ内 図面番号 ―― 区分 ――

⑦ 鉄骨工事

1. 鉄骨製作工場

溶接部目地度は、母材と同強度の溶接設計をして　・ある　・ない
※ 建設省告示第1103号第2号の規定に基づく建築大臣認定の鋼構造物製作工場
（ ）グレード以上
・監督員の承認する業者
溶接性能付加試験　・行う　・行わない　(7.6.3)

2. 施工管理技術者

鉄骨製作管理技術者の適用　(7.1.4)
※ 適用する　・適用しない

3. 工作図

床書き原寸図　(7.1.5)
・作成する　・作成しない
高力ボルト及び普通ボルトのゲージ、ピッチ、へりあき等　(7.1.5)
※「建築鉄骨設計基準」別表4.5～4.8による　・図示

4. 鋼材

鋼材の材質　(7.2.1)(表7.2.1)(7.2.10)

種類の記号	規格等	使用箇所
・	※ JIS規格品	※ 図示
・	・ 7.2.10(a)の試験に合格するもの	・
・		・

板厚方向に引張力を受ける鋼材　(7.2.1)(表7.2.1)(7.2.10)
※ SN規格C材（JIS G 3136建築構造用圧延鋼材でのC材）
・ 7.2.10(c)の試験（JIS G 0901）を7.2.10(a)により行い、JIS G 3136でのC材に相応することが確認された鋼材
鋼材の断面形状及び寸法の規格　(7.2.1)(表7.2.2)
※ 表7.2.2　※ 図示　・
使用鋼材の断面形状及び寸法　(7.2.1)
※ 図示　・

5. 高力ボルト

高力ボルトの適用　(7.2.2)
Ⓒ トルシア形高力ボルト　（大臣認定品）　（S10T）
・ JIS形高力ボルト　（JIS B 1186）　（F10T）
・ 溶接亜鉛メッキ高力ボルト　（大臣認定品）　（F8T相当）
高力ボルトの径　(7.2.2)
・ M20　・ M22

6. アンカーボルト

構造用アンカーボルトの材料　(7.2.4)
※ SNR400B　・
アンカーボルトの形状及び寸法　(7.2.4)
※ 図示　・
ボルトのゲージ、ピッチ、へりあき等　(7.2.4)
※ 図示　・
アンカーボルトの保持及び埋込み工法　(表7.10.1)
※ A種　・ B種　・ C種
柱底均しモルタルの工法　(7.2.9)(7.10.1)(表7.10.2)
※ A種　柱底均しモルタルの材料は、無収縮モルタルとし、(社)大日本建築協会「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」において評価を取得したもの
・ B種
モルタルの厚さ　(7.10.3)
※ 50mm　Ⓒ 30mm

7. ターンバックル

鋼の種類　(7.2.6)
※ 割枠式　・ パイプ式
ボルトの種類　(7.2.6)
※ 羽子板ボルト　・ 両ネジボルト　・ アイボルト

8. 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験　(7.6.11)(7.6.12)
工場溶接部の場合
試験方法　※ 7.6.11(b)　・
平均出検品質限界　（AOQL）　※ 4.0%　・ 2.5%
検査水準　※ 第6水準　・
工事現場溶接部の場合
試験方法　※ 7.6.11(b)　・
平均出検品質限界　（AOQL）　※ 4.0%　・ 2.5%
ロットの構成
・ ロットは各節毎に構成する
・ ロットは以下の部位毎に構成する
（柱・梁仕口部のフランジ溶接部、柱・梁仕口部のダイヤフラム及びスチフナ溶接部、柱及び梁相互の隅手溶接部、BOX柱のかど隅手溶接部（300mm程度毎）、耐震ブレースの仕口及びガセットプレート等の溶接部）
・

放射線試験及びマクロ試験の実施　(7.6.11)(7.6.12)
・ 放射線試験
試験箇所：　抜取方法及び抜取率：
・ マクロ試験（エンドタブ使用）
試験箇所：　抜取方法及び抜取率：

9. 錆止め塗装

(7.8.2)(7.8.3)(7.8.4)(17.3.2)(17.3.3)

錆止め塗料の塗回と種別　(表17.3.1)(表17.3.2)(表17.3.4)

適用箇所	塗料の種別
※ 7.8.2(a)(b)及び17.3.2.17.3.3(a)(b)(c)	※ 17.3.2
※ SRC造の鋼製スリーブ内面　7.8.3(1)	※ 表17.3.1　B種
・ 耐火被覆材の接着する面　7.8.3(2)	・
・	・

10. 耐火被覆材の種類及び性能

耐火被覆材の種別　(7.9.2)(7.9.3)(7.9.4)(7.9.5)(7.9.6)

耐火被覆材の種別	適用箇所
・ ラス張りモルタル塗り（15章2節による）（・ 個別指定）(7.9.4)	・ 図示　・
・ 耐火材吹付け工法　(7.9.5) ・ 吹付けロックウール（通則指定） ・ 乾式　・ 半乾式 ・ 湿式ロックウール（個別指定） ・	・ 図示　・
・ 耐火板張り工法（・ 通則指定　・ 個別指定）(7.9.6)	・ 図示　・

所要性能　(7.9.3)

所要性能	構造区分	適用箇所
・ 30分	・ 間柱　・ 外壁	
・ 1時間	・ 柱梁　・ 天井 ・ 外壁　・ 床	
・ 2時間	・ 柱梁　・ 天井 ・ 床	
・ 3時間	・ 柱梁　・	

11. 溶融亜鉛メッキ

鋼の亜鉛メッキの適用　(7.12.3)(表14.2.2)

種別	規格	記号又は等級	適用箇所
・ A種 ・ B種 ・ C種	※ 溶融亜鉛メッキ（JIS H 8641）の2種	・ HDZ55 ・ HDZ45 ・ HDZ35	・

⑧ コンクリートブロック・ALCパネル・押出セメント板工事

1. 補強コンクリートブロック造

(8.2.2)

ブロックの種類	厚さ(mm)	化粧青りのブロックの適用箇所
・ 空胴ブロック－16		
・ 型枠用ブロック－20		
・		

共仕表8.2.2以外のコンクリートの設計基準強度（N／㎟）　(8.2.4)
※ 21以上　・
壁の配筋　(8.2.5)
・ 図示　・
まぐさの配筋　(8.2.5)
※ 共仕図8.2.2、図8.2.3による　・

2. コンクリートブロック塀壁及び柵

ブロックの種類　(8.3.2)
※ 共仕表8.3.1による　・
ブロックの厚さ　(8.3.2)

施工箇所	厚さ(mm)	
塀の高さが2m以下の箇所	※ 120	・
塀の高さが2mを超える箇所	※ 150	・

ブロック塀の基礎、控壁のコンクリートの設計基準強度（N／㎟）　(8.3.2)
※ 18　・
壁の配筋　(8.3.3)
※ 共仕表8.3.2による　・ 図示

3. ALCパネル

パネルの種類　(8.4.2～8.4.5)(表8.4.2)(表8.4.3)

種類	単位荷重（N／㎡）	厚さ(mm)	取付け工法種別
・ 外壁パネル（直圧パネル）			・ A種　※ B種　・ C種　・ D種
・ 外壁パネル（平パネル）			・ A種　※ B種　・ C種　・ D種
・ 間仕切壁パネル			・ B種　・ C種　・ D種　・ E種
・ 屋根パネル			
・ 床パネル			

出隅入隅部の目地幅（mm）　(8.4.3)
※ 20　・
共仕表8.4.4の開口の限度を超える場合の補強　(8.4.6)
※ 共仕8.4.6(c)(2)による（開口部の幅が1.2m以下の場合）
・

4. 押出成形セメント板

種類　・ 無石綿タイプ（タイプII）　・　(8.5.2)
(8.5.2～8.5.5)(表8.5.1)(表8.5.2)

施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	取付け工法種別
・ 外壁パネル	・ フラットパネル	・ 50　・ 60	・ A種
	・ デザインパネル(図示)	・ 50　・ 60	・ B種
	・ タイルベースパネル	・ 60	
・ 間仕切壁パネル	・ フラットパネル	・ 50　・ 60	・ B種
	・ デザインパネル(図示)	・ 50　・ 60	・ C種
	・ タイルベースパネル	・ 60	

パネル相互の目地幅（mm）　(8.5.3)
※ 長辺8以上、短辺15以上　・
耐火構造以外の目地、隙間の処理　(8.5.3)
※ パネル製造所の仕様　・
出隅入隅部の仲縁調整目地の目地幅（mm）　(8.5.3)
※ 15　・
共仕表8.5.3の開口の限度を超える場合の補強　(8.5.5)
※ 図示　・
製造所：　(8.5.2)

⑨ 防水工事

1. アスファルト防水

(9.2.3)(表9.2.5～9.2.11)

種別	施工箇所

アスファルトの種類　(9.2.2)
※ 3種　・ 4種
押さえ金物の材質、形状寸法　(9.2.2)
※ アルミニウム製、L－30×15×2.0程度　・
屋根保護防水断熱工法の断熱材
材質　※ JIS A 9511の押出法ポリスチレンフォーム3種bスキン層付き　(9.2.2)
・　（特定フロンを含まないもの）
厚さ　・ 25　・　(9.2.2)
絶縁用シートに使用する材料　(9.2.2)
※ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上（屋根保護防水工法の場合）
フラットヤーンクロス（70g／㎡）（屋根保護防水断熱工法の場合）
・
屋根露出防水絶縁工法の脱気装置　(9.2.3)(表9.2.10)
・ 設ける

種類	材質	設置数量
・ 平面部脱気型	・ ポリエチレン樹脂 ・ ABS樹脂 ・ ステンレス ・ 鉄鋳 ・	個／　㎡
・ 立上がり部脱気型	・ 合成ゴム ・ 塩化ビニル樹脂 ・ ステンレス ・ 鋳 ・	個／　㎡

屋内防水密着工法の保護層　(9.2.3)
・ 設ける（種類　）
立上がり部のコンクリート打放し仕上げの種別　(9.2.4)
※ B種　・
屋根保護防水工法の防水層立上がり部の端部の処理方法　(9.2.4)
・ 共仕9.2.4(d)(図(a))による
・ 押さえ金物で押える
立上がり部の保護の方法　(9.2.2)(9.2.5)(表9.2.5～表9.2.8)
・ れんが押さえ（れんがの種類　※ JIS R 1250の2種　・　）
・ モルタル押さえ（屋内等）
・ コンクリート押さえ
・ 乾式保護材　(9.2.2)
製造所：

9-2 防水工事

2. 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別　(9.3.2)(9.3.3)

種別	厚さ(mm)	仕上塗料（露出の場合）	施工箇所
・ S－1	※ 1.2　・	・ カラー ・ シルバー	
・ S－2	※ 2.0　・		
・ S－3	※ 2.0　・		
・ S－4	※ 1.5　・		

絶縁用シートの材質　(9.3.2)
※ 発泡ポリエチレンシート　・

3. 塗膜防水

ウレタン系塗膜防水の種別　(9.4.3)(表9.4.1)(表9.4.2)

種別	施工箇所
・ X－1	
・ X－2	
・ X－3	
・ Y－1	※ 地下外壁防水　・
・ Y－2	※ 屋内防水　・

ウレタン系塗膜防水（X－1）の脱気装置　(9.4.3)
・ 設ける

種類	材質	設置数量
・ 平面部脱気型	・ ポリエチレン樹脂 ・ ABS樹脂 ・ ステンレス ・ 鉄鋳 ・	個／　㎡
・ 立上がり部脱気型	・ 合成ゴム ・ 塩化ビニル樹脂 ・ ステンレス ・ 鋳 ・	個／　㎡

ゴムアスファルト系塗膜防水（Y－2）の保護層　(9.4.3)(表9.4.2)
・ 設ける

4. シーリング

シーリング材の種類、施工箇所　(9.5.2)(表9.5.1)(22.2.2)(22.3.2)
※ 被着体に応じたものとし、共仕表9.5.1を標準とする
・ 下記による

種類（記号）	施工箇所

シーリング材の目地寸法　(9.5.3)

箇所	コンクリート打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地	左記以外
幅（mm）	※ 20以上　・	※ 10以上　・
深さ（mm）	※ 10以上　・	※ 7以上　・

被着性試験　(9.5.5)
※ 現場被着性試験
・ 引張被着性試験（部位　）

5. 防水施工保証書

※ 提出する　・ 提出しない

10 石工事

1. 天然石

(10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	品質	種類（産地・名称）	表面仕上げの種類
	・ 1等　・ 2等　・ 3等		
	・ 1等　・ 2等　・ 3等		
	・ 1等　・ 2等　・ 3等		
	・ 1等　・ 2等　・ 3等		
	・ 1等　・ 2等　・ 3等		

2. テラゾ

階石の種類　※ 大理石の項　・　(10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	寸法・形状	表面仕上げの種類

3. 床及び階段の石張り

床の石張り　石材の厚さ　・　(10.6.2)
階段の石張り　石材の厚さ　・　(10.6.3)

4. 特殊部位の石張り

施工箇所：　石材の厚さ　・　(10.7.2)(10.7.3)
踏板　石材の厚さ　※ 40　・　(10.7.4)

11 タイル工事

1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置　※ 共仕表11.1.1による（外壁の場合）　(11.1.3)
・ 図示　・

2. 陶磁器質タイル

タイルの種類　(11.2.1)

施工箇所	形状・寸法(mm)	素地	素地	素地	素地	素地	釉薬	釉薬	釉薬	釉薬	釉薬	品質の程度
		磁器	せっ器	陶器	無釉	無釉	あり	なし	単色	特注	再乾式化	
床	100°	⊙	・	・	・	⊙	・	⊙	⊙	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	

品質の程度は、参考商品名である。

3. 試験張り、見本焼き等

試験張り　・ 行う　(11.2.1)
見本焼き　・ 行う　(11.2.1)

4. 型枠先付け工法

種別　(11.2.2)(11.4.2)(表11.4.1)

適用タイル形状	種別	タイル型枠先付け面のせき板の種別
小口タイル	・ タイルシート法	※ 共仕6.9.3(a)(ii)又は金属製タイル先付用パネル
二丁掛けタイル	・ 目地側法	・
大型タイル	桃木法	

5. 湿張り工法

種別　(11.3.3)(表11.3.2)

適用タイル形状		工法
内装タイル	・	・ 積上げ張り ・ 壁タイル接着剤張り
外装タイル	・	・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り
内装タイル以外のユニットタイル	・	・ マスク張り ・ モザイクタイル張り

既製調合モルタル　(11.2.3)
製造所：

⑫ 木工事

1. 表面仕上げ

程度　・ A種　※ B種　・ C種　(12.1.4)

2. 木材

現場搬入時の含水率　※ A種　・ B種　(12.2.1)
構造材、下地材の等級　(12.2.1)
※ 共仕12.2.1(b)(4)による　・
造作材の等級　※ A種　・ B種　(12.2.1)(表12.2.2)
樹種　・ 共仕12章2～8節による　・　(12.2.1)

3. 代用樹種使用の禁止

・ 設計図書の樹種について、下記の使用箇所及び樹種については代用樹種を使用することはできない。
・

4. 集成材

構造用集成材　(12.2.2)
・ 適用する

適用範囲		
品名		
強度等級		
材面の品質		
樹種名		
接着性能		

造作用集成材　(12.2.2)
・ 適用する

適用範囲		
等級	※ 1等　・ 2等	・ 1等　※ 2等
単材の樹種		
単材の厚さ(mm)		

化粧ばり造作用集成材　(12.2.2)
・ 適用する

適用範囲	
化粧単板の樹種	
化粧単板の厚さ(mm)	

5. 床張り用合板

接着の程度及び表面の品質（厚5.5mmの合板）　(12.2.3)

接着の程度	※ 1類　・ 2類
表面の品質	・ 1等　※ 2等

6. 防蟻処理

※ 行う（適用範囲　）　(12.2.9)

⑬ 屋根及びとい工事

1. 長尺金属板葺

(13.2.2)(13.2.3)

屋根葺形式	長尺金属板 板・コイルの種類 地鉄の耐久性の種類 メッキの付着量 等	長尺金属板 厚さ(mm)	下葺材料
	※ JIS G 3312によるCGCCR－20－225 ・	※ 0.4 ・	※ JIS A 6005によるアスファルトルーフィング940「との付け用」は厚けさ で長さ19mm程度） ・

専門工事業者：
下葺材の　防水層の施工業者の会社名工事名　・防水層の会社名工事名
(13.2.3)

2. 折板葺

折板の区分　(13.3.2)(表13.3.1)

形式による区分	※ 重ね形又はせ掛の形	・ かん合形
山高(mm)		
山ピッチ(mm)		
耐力		
材料による区分	※ 鋼板製（・	）
	・	

折先面戸板　・ 適用する　(13.3.2)

3. とい

といの材種　(13.5.2)(表13.5.1)
・ 配管用鋼管　・ 硬質塩化ビニル管　・
縦樋口　・ 設ける
ルーフドレンの種別　(13.5.2)(表13.5.1)

種別	施工箇所
・ ろく屋根用（・ 鋳型　・ 鋳型）	
・ バルコニー用	
・ バルコニー中間用	

耐熱被覆銅板、ガルバリウム鋼板　(13.5.2)
製造所：
鋼板製といの納期　(13.5.3)(表13.5.5)
※ 行う（施工箇所　※ 共仕表13.5.5による　・　）

4. 保証書

※ 提出する　・ 提出しない

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 特記仕様書 2	縮尺 —	枚ノ内 図面番号 2 区分 建築意匠

⑭ 金属工事

1. ステンレスの表面仕上げ (14.2.1)

種類	施工箇所（手すり、クラッチ、建具以外）
※ HL程度	
・NO.2B程度	
・	

2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)(表14.2.1)

種別	種類	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）

陽極酸化被膜の着色方法 (14.2.2)
※ 二次電解着色　・三次電解着色　・

3. 鉄の亜鉛メッキ (14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、クラッチ以外）
溶融亜鉛メッキ	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛メッキ	・D種	
	・E種	
	・F種	

4. 鋼製建具用下地 (14.4.2)(表14.4.1)
野縁等の種類
屋外　・19型　※ 25型
屋内　※ 19型　・25型
屋外の軒天井、ピロティ天井等の補強 (14.4.4)
・行う（・図示　・　）

5. 鋼製浴室壁下地
スタッド、ランナーの種類 (14.5.3)(表14.5.1)
※ 共仕表14.5.1による　・

6. 手すり及びクラッチ (14.2.1)(14.6.2)(14.6.3)(表14.2.2)

種類	種別	表面処理力種別
手すり	・ステンレス製 SUS304	※ HL程度　・NO.2B程度
	・鋼製	・共仕表14.2.2のC種　・
クラッチ	・ステンレス製 SUS304	※ 研磨なし　・
	・鋼製	※ 共仕表14.2.2のC種　・

7. 金属成形板張り (14.7.2)(表14.2.1)

種別	形状	寸法(mm) 板厚	寸法(mm) 板幅	表面処理
・アルミニウム	・スパンドレル形			
	・パネル形			

取付用下地 (14.7.3)
※ 共仕14章4節による　・図示
伸縮調整継手　・設ける (14.7.3)

8. インサート
最上階床版等で、保温板打込み部分は断熱材用インサート（亜鉛メッキ製品）、他の一般階は亜鉛メッキ製インサートを使用する。
製造所：

9. アルミニウム製笠木
部材の種類 (14.8.2)(表14.8.1)
・250形　・350形　・
隅角部、突当たり部等の仕様 (14.8.2)
・適用する
表面処理
※ A－1種又はB－1種　・ (14.8.2)(表14.2.1)

⑮ 左官工事

1. 吸水調整材
製造所（　）(15.2.2)

2. 既製目地材
・適用する（形状　）(15.2.2)

3. ALCパネル用特殊プラスター塗り
材料の種別　・A種　※ B種 (15.4.3)(表15.4.1)
塗り厚（mm）　・3　※ 5～7

1. 仕上塗材仕上げ (15.7.2)(表15.7.1)

種類	呼び名	仕上げの形状		工法	備考
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材E	・砂壁状		吹付け	
		・着色骨材砂壁状		吹付け	
	・内装薄塗材E	砂壁状じゃらく		吹付け	
	・可とう系外装薄塗材E	・砂壁状		吹付け	
		・ゆず肌状		ローラー	
		・さざ波状			
	・防水系外装薄塗材E	・ゆず肌状		ローラー	
		・さざ波状			
		・凹凸状		吹付け	
	・外装薄塗材S	砂壁状		吹付け	
	・内装薄塗材W	砂壁状じゃらく		吹付け	
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	吹付け	
			・ひき起し ・凸部処理	こて塗り	
	・内装厚塗材C	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	吹付け	
			・ひき起し ・凸部処理	こて塗り	
	・外装厚塗材E	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	吹付け	上塗材 ・適用する
⊙ 複層仕上塗材	・複層塗材CE	・ゆず肌状		ローラー	耐候性 ※ 耐候形3種 ・ 上塗材種類 ※ 水系アクリルのつやあり ・
		・凸部処理		吹付け	
		・凹凸模様			
	・可とう系複層塗材CE	・ゆず肌状		ローラー	
		・凸部処理		吹付け	
		・凹凸模様			
	・複層塗材Si	・ゆず肌状		ローラー	
	・複層塗材E ・複層塗材RE	・凸部処理		吹付け	
		・凹凸模様			
	・複層塗材RS	・ゆず肌状		ローラー	
		・凸部処理		吹付け	
		・凹凸模様			
	・防水形複層塗材CE	・ゆず肌状		ローラー	増付材 ・適用する
	・防水形複層塗材E	・凸部処理		吹付け	

⑮-2 左官工事

4. 仕上塗材仕上げ

・複層仕上塗材	・防水形複層塗材RS	・凹凸模様		
・薄塗弾材仕上塗材	・吹付用薄塗塗材	砂壁状	吹付け	
	・こて塗用薄塗塗材	平たん状	こて塗り	

防水材料 (15.7.2)
・指定する
・屋内の壁、天井の仕上げ材は、建築基準法に基づく基材同等の認定を受けたものとする。
・次の箇所を除き、建築基準法に基づく基材同等の認定を受けたものとする。
（　）
ALCパネルの内壁目地部の形状 (15.7.4)
※ V形目地付き　・

5. ロックウール吹付け
吹付け厚さ　・　mm　色彩　・原色　・着色 (15.8.3)

⑯ 建具工事

1. 見本の製作等
建具見本の製作 (16.1.4)
・行う（建具番号　）
・工事に使用するものとして、あらかじめ製作するもの
・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組 (16.1.4)
・行う（建具番号　）

2. アルミニウム製建具
外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)

性能等級	※A種	・B種	・C種
耐風圧性	※ S－4　・	※ S－5　・	※ S－6　・
気密性	※ A－3　・		※ A－4　・
水密性	※ W－4　・		※ W－5　・
枠の見込み寸法(mm)	※ 70　・100		※ 100　・

表面処理 (16.2.4)(14.2.2)(表14.2.1)

施工箇所	種別	著色
外部に面する建具	※ B－1種 ・ ・	※ 無着色 （・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）
屋内の建具	※ C－1種 ・ ・	※ 無着色 （・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）

防音ドアセット、防音サッシ (16.2.2)
・適用する　遮音性（　）
断熱ドアセット、断熱サッシ (16.2.2)
・適用する　断熱性（　）
耐風ドアセット (16.2.2)
・適用する　面内変形追随性（　）

3. 網戸
防虫網 (16.2.3)
※ 合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス（SUS316）製
線径（mm）　※ 0.25以上　・
網目（メッシュ）　※ 16～18　・

4. 鋼製建具
鋼扉気密型ドアセット (16.3.2)(表16.3.1)
・適用する
防音ドアセット、防音サッシ (16.3.2)(16.2.2)
・適用する　遮音性（　）
断熱ドアセット、断熱サッシ (16.3.2)(16.2.2)
・適用する　断熱性（　）
耐風ドアセット (16.3.2)(16.2.2)
・適用する　面内変形追随性（　）
鋼板のメッキの付着量 (16.3.3)
※ Z12又はF12を満足するもの　・
構造用テープ (16.3.3)
※ 共仕16.3.3(f)による
製造所（　）
鋼板膜の厚さ（mm） (16.3.4)
※ 共仕表16.3.2による　・
寸法許容差（W、H>2.0m、W×H>3.0㎡、枠の見込み>120mmの場合） (16.3.4)
・

5. 鋼製軽量建具
鋼扉気密型ドアセット (16.4.2)
・適用する
防音ドアセット、防音サッシ (16.4.2)(16.2.2)
・適用する　遮音性（　）
断熱ドアセット、断熱サッシ (16.4.2)(16.2.2)
・適用する　断熱性（　）
耐風ドアセット (16.4.2)(16.2.2)
・適用する　面内変形追随性（　）
ビニル被覆鋼板 (16.4.3)
・適用する
召合わせ、縦小口包み板等の材質 (16.4.3)
※ 鋼板　・ステンレス鋼板　・アルミニウム合金の押出形材

6. ステンレス製建具
寸法許容差（W、H>2.0m、W×H>3.0㎡、枠の見込み>120mmの場合） (16.5.4)(表16.3.3)
・
表面仕上げ (14.2.1)(16.5.4)
※ HL仕上げ　・
曲げ加工　※ 普通曲げ　・角出し曲げ (16.5.5)

7. 自動ドア開閉装置
スライディングドア用自動ドア開閉装置の性能値 (16.6.2)
※ 共仕表16.6.1による
スイングドア用自動ドア開閉装置の性能値 (16.6.2)(表16.6.2)
※ 共仕表16.6.2による　・
センサの種類 (16.6.2)
・
寒冷地における凍結防止措置 (16.6.3)
・行う

8. 鍵
マスターキーの製作　⊙ 製作する　・製作しない (16.8.5)

9. ガラス
板ガラス　・B級品 (16.9.2)
調入板ガラス　・調入（嵌入）型板ガラス　・調入（嵌入）みがき板ガラス
合わせガラス　・フロート、みがき板合わせガラス　・
強化ガラス　・フロート、みがき板強化ガラス　・
網入ガラス　・板ガラスの材料（　）
※ 保証書提出する
熱線反射ガラス　・熱線反射ガラス　・熱線反射網入（嵌入）ガラス
色調　・グレー　・ブロンズ　・ブルー

⑯-2 建具工事

10. ガラスとめ材 (16.9.2)

建具の種類	種類
アルミニウム製	・ガスケット ※ グレイジングチャンネル形（枠見込み70mmの引き違い、片引き障子の場合） ・ ⊙ シーリング材 ・
鋼製	・シーリング材　・
ステンレス製	・シーリング材　・

板ガラスをはめ込む溝の大きさ (16.9.3)(表16.9.1)
※ 共仕表16.9.1による（枠見込み70mmのアルミニウム製建具の場合（強化、合わせ、結露防ガラスを用いる場合を除く））
・

11. 重量シャッター
シャッターの種類 (16.10.2)
・一般重量シャッター　・外壁用防火シャッター　・屋内用防火シャッター
・屋内用防煙シャッター
閉鎖機能による種類 (16.10.2)(表16.10.1)
※ 上部電動式（手動併用）　・上部手動式
シャッターケース（防火、防煙以外のもの） (16.10.2)
・設ける

12. 軽量シャッター
閉鎖機能による種類 (16.11.2)(表16.11.1)
・上部電動式（手動併用）　※ 手動式
スラット
材質　※ 塗装溶融亜鉛メッキ鋼板　・ (16.11.3)
形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形 (16.11.4)

13. オーバーヘッドドア (16.12.2)(16.12.3)

セクション材料による区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※ スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※ バランス形 ・チェーン形 ・電動形	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※ 溶融亜鉛メッキ鋼板 ・ステンレス鋼板 ・

⑰ 塗装工事

1. 防火材料
※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 (17.1.3)
・次の箇所を除き防火材料とする。（　）

2. 素地ごしらえ
種別
鉄面 (17.2.3)(表17.2.2)
・A種　・B種　※ C種
亜鉛メッキ面 (17.2.4)(表17.2.3)
・A種　・B種　・C種
モルタル、プラスター面 (17.2.5)(表17.2.4)
・A種　※ B種
コンクリート、ALCパネル面 (17.2.6)(表17.2.5)
（2液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り以外の場合）
・A種　※ B種
せっこうボード、その他ボード面 (17.2.7)(表17.2.7)

せっこうボードの目地処理が継目処理工法の場合	※ A種	・B種
上記以外	・A種	※ B種

3. ウレタン樹脂ワニス塗り
木部ウレタン樹脂ワニス塗りの種別 (17.15.2)(表17.15.1)
・A種　※ B種

4. 床用塗料塗り
材質　ウレタン樹脂系塗料　（・標準色　・　）
仕上塗材　・平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗りのうえ、主剤2回塗りとし、総塗布量は0.5kg／㎡以上とする。

5. 防塵塗料塗り
材質　水性アクリル系樹脂塗料（・標準色　・　）
仕上塗材　コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量　主剤2回塗りとし、総塗布量は0.25kg／㎡以上とする。

6. 塗装業者
※ 日本塗装工業会の会員
・監督員の承認する塗装業者

⑱ 内装工事

1. ビニル床シート (18.2.2)

種類	記号	厚さ(mm)	色柄	工法	施工箇所
※ 発泡層のないもの	※ NC	※ 2.5	※ 無地	・実付け	
・	・	⊙ 2.0	・	・熱溶接	

2. ビニル床タイル (18.2.2)

種類	厚さ(mm)	品質・規格
・	※ 2.0	
・	・	

3. 帯電防止床シート、床タイル (18.2.2)

種類	性能	厚さ(mm)
・帯電防止床シート	・体積抵抗値　Ω以下	・
・帯電防止床タイル	・	・

4. 誘導用、注意喚起用床材 (18.2.2)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
・塩化ビニル系	・	・
・レジンコンクリート系	・	・

5. ビニル幅木 (18.2.2)

材種	高さ(mm)	厚さ(mm)
・軟質・硬質	※ 75　・	※ 2.0　・

6. ゴム床タイル (18.2.2)

色柄	厚さ(mm)	寸法(mm)	製造所

7. 弾性ウレタン塗り床
仕上げの種類 (18.3.3)(表18.3.3)
※ 平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ

8. エポキシ樹脂塗り床
仕上げの種類 (18.3.3)(表18.3.4～表18.3.7)
・厚膜流し延べ仕上げ　・厚膜流し延べ仕上げ　・樹脂モルタル仕上げ
・防滑仕上げ

⑲ 内装工事

1. せっこうボード、その他ボード及び石膏張り (18.5.2)(表18.5.1)

名称	種類	記号	寸法(mm)	厚さ(mm)
せっこうボード	⊙ せっこうボード	(GB-R)		
	⊙ シージングせっこうボード	(GB-S)		
	・強化せっこうボード	(GB-F)		
	・せっこうラスボード	(GB-L)		
	・化粧せっこうボード	(GB-D)		
吸音材料	ロックウール	・ロックウール吸音フェルト	(RW-F)	
		・ロックウール吸音ボード	(RW-B)	
	吸音材	・ロックウール吸音ブランケット	(RW-BE)	
	グラスウール	・グラスウール吸音フェルト	(GW-F)	
		・グラスウール吸音ボード	(GW-B)	
	吸音材	・ロックウール化粧吸音板	(DR)	
		・吸音用インシュレーションファイバーボード	(ID)	
		・吸音用木毛セメント板	(WWCB)	
		・吸音用みなかあきせっこうボード	(GB-P)	
		・吸音用みなかあきハードファイバーボード	(HB-P)	
繊維質ケイ酸カルシウム板	無石綿けい酸カルシウム板	・0.8けい酸カルシウム板	(0.8FK)	
		・1.0けい酸カルシウム板	(1.0FK)	
木毛セメント板	・繊維木毛セメント板			
硬質木毛セメント板	・硬質木毛セメント板			
合板	・繊維合板			※ 改修共仕6.13.7(ii)(b)による ・
	特殊合板	・天然木化粧合板		・ 可燃消防 ※ 0.3未満 ・ 可 ※ 4.2 ・
		・特殊加工化粧合板		不燃 ※ 1.0 ・

遮音シール材 (18.4.2)
・適用する
合板類の張付け (18.4.3)(表18.4.3)
種別　・A種　※ B種
せっこうボードの目地処理 (18.4.3)(表18.4.4)
・目通かし工法　・突付け丁法　・突付けV目地工法　・継目処理工法

2. フローリング張り
フローリングの種別 (18.5.2)(18.5.4～18.5.7)(表18.5.1)(表18.5.3)

単層フローリング	種類	厚さ(mm)	大きさ(mm)	等級	仕様
・フローリングボード	板なら ・				※ ノンワックス塗り ・
・フローリングブロック	※ なら ・	※ 15 ・	※ 303×303 ・		油性ステイン塗り ・生地のまま ワックス塗り
・モザイクパーケット					

複合フローリング	種類	種別	効果性能	仕様
・複合1種フローリング	※ なら	・A種		※ ウレタン樹脂ワニス塗り
・複合2種フローリング	・	・B種		・無色ウレタン塗り
・複合3種フローリング		※ C種	・行う	・生地のまま ワックス塗り

工法 (18.5.3)
・モルタル埋込み工法　・釘とめ工法　・接着工法

3. 壁紙張り (18.5.2)

施工箇所	品質の程度	防火性能の級
天井	普及品	⊙ 1級・2級
		・1級・2級
		・1級・2級

品質の程度は、参考商品名である
素地ごしらえ
モルタル、プラスター面 (18.5.3)(表18.5.2.1)
・A種　※ B種
せっこうボード面 (18.5.3)(表18.5.2.2)
・A種　※ B種

4. 畳敷き
種別　・A種　⊙ B種　・C種　・D種 (18.7.2)(表18.7.1)

5. カーペット敷き
織じゅうたん (18.8.3)(表18.8.1)

種別	織り方	パイル形状	等級
・A種	・ウィルトン	・カットパイル	※ 人体帯電性3KV以下
・B種	・	・ループパイル	・
・C種		・	

品質の程度は、参考商品名である
タフテッドカーペット (18.8.3)(表18.8.2)

パイル形状	パイル抜け(mm)	等級	等級	等級
・	・	※ 人体帯電性3KV以下	※ 摩耗	※ 防炎
			・	・
			・アク	
			耐光	

品質の程度は、参考商品名である
グリッパー工法に使用する下敷き材 (18.8.3)
品質　※ JIS L 3204の第2号2種　・
見切り、押さえ金物
見切り（材質：　種類：　形状：　・
押さえ金物（材質：　種類：　形状：
ニードルパンチカーペット (18.8.3)

厚さ(mm)	等級	等級
・	※ 人体帯電性3KV以下	
	・	

タイルカーペット (18.8.3)(表18.8.3)

種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	残気形状(D)	耐光性
※ A種	・カットパイル	※ 500×500	※ 6.5	・	・摩耗
・B種	※ ループパイル	・	・	・	

品質の程度は、参考商品名である
敷き方 (18.8.4)

平場	※ 市松織3	・機械敷し
階段部分	・市松織3	※ 機械敷し

工事名：（仮称）看町地区コミュニティ消防センター建設（建築主体）工事
工事設計図

1級建築士事務所
有限会社 伊五沢設計
1級建築士登録61377号　伊五沢賢次
盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755

検図　製図　特記

図面内容：特記仕様書 3
縮尺：—
枚ノ内
図面番号：3
区分：建築意匠

18-3 内装工事

14. 断熱材

断熱材打込み工法 (18.9.2)(22.2.2)

種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム	・	・	
・押出法ポリスチレンフォーム	・保温板2種b	・	接地部分
	・保温板3種b	・	
	・	・	
・硬質ウレタンフォーム	・	・	

上記保温材は、特定フロンを含まないものとする

断熱材現場発泡工法 (18.9.3)

種類性	厚さ(mm)	施工箇所
・2級	・	
・3級		
・		

上記保温材は、特定フロンを含まないものとする

製造所：

15. 移動間仕切

パネル圧着物質の操作方法	遮音性能	表面仕上げ
・プッシュ式	・一般タイプ (36dB未満)	・現付け壁張
・ハンドル回転式	・遮音タイプ (36dB以上)	・壁紙張り
・	・	・

製造所：

16. 可動間仕切

構造形式	表面材質	仕上げ	不燃材料の認定	品質・規格
・パネル式	・鋼板	・メラミン樹脂焼付又は	・あり	・JIS A 6512による
・スタッド式	・	アクリル樹脂焼付現付		・
・	・	・		

製造所：

19 舗装工事

1. 路床

盛土用材料 (19.2.3)(表3.2.1)

・A種　・B種　・C種　・D種

路床土の支持力比（CBR）試験 (19.2.5)

・行う

路床締固め度の試験 (19.2.5)

・行う

2. 路盤材料

路盤材料 (19.3.3)

※ クラッシャランのC－40、クラッシャランスラグのCS－40又は再生クラッシャランのRC－40

・

3. アスファルト舗装

アスファルト舗装の種類 (19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1)

舗装の種類	※道路の基礎	カラー舗装の種類
・アスファルト舗装	・無し　・有り	――
・カラー舗装	・無し　・有り	※ 表層に顔料を用いた加熱アスファルト混合物 ・表層の上に着色舗装又は樹脂系混合物 ・表層の上に常温塗布式舗装又はニート工法による樹脂系舗装

舗装の平たんさ (19.4.2)

※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

カラー舗装に添加する着色骨材 (19.4.3)

・有色骨材（材質　　）

・着色骨材（材質　　）

アスファルト (19.4.3)

・再生アスファルト　・ストレートアスファルト

加熱アスファルト混合物の種類 (19.4.4)(表19.4.6)

表層	・密粒度アスファルト混合物 (13)
	・細粒度アスファルト混合物 (13)
基層	・粗粒度アスファルト混合物 (20)

シールコート　・行う (19.4.5)

アスファルト混合物の抽出試験　・行う (19.4.6)

4. コンクリート舗装

転圧コンクリート　・使用する (19.5.3)(19.5.4)

品質	工法
早強セメント　・使用する	(19.5.3)
注入目地材料の種類	(19.5.3)(表19.5.3)
※ 低弾性タイプ	・高弾性タイプ
コンクリート版厚さ試験	・行う (19.5.6)

舗装の平たんさ (19.6.2)

※ 著しい不陸がないもの　・

アスファルト混合物の抽出試験　・行う (19.6.6)

6. 排水性舗装

舗装の平たんさ (19.7.2)

※ 著しい不陸がないもの　・

排水性舗装用アスファルト混合物の種類 (19.7.3)(表19.7.2)

※ 改質アスファルトⅠ型　・改質アスファルトⅡ型

タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類 (19.7.3)(表19.7.3)

・PKR－T1　・PKR－T2

7. ブロック系舗装

仕上がり面の平たんさ (19.8.2)

※ 歩行に支障となる段差がないものとし、段差は3mm以内

・

コンクリート平板舗装 (19.8.2)(19.8.3)

目地材	平板の種類
※ 砂	※ N300
・モルタル	・

インターロッキングブロック舗装 (19.8.3)

材質、種類	形状、寸法	表面加工	製造所

縁石 (19.8.2)(19.8.3)

種類	形状、寸法	縁石の基礎
		・アスファルト舗装
		※ コンクリート舗装

8. 砂利敷き

種別 (19.10.2)(表19.10.1)

通路	※ A種　・B種
建物周辺その他	・A種　※ B種

20 排水工事

1. 排水管

(20.2.1)(表20.2.1)

材種	管の種類	形状	強さ(KN/m)	呼び径	厚さ(mm)
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管	・	・	・	・
・硬質塩化ビニル管	・VP ・VU	・	・	・	・

側溝 (20.2.2)

形状　・図示　・

寸法　・図示　・

マンホールふた (20.2.2)

種類	名称	適用荷重(安全荷重(KN))	鍵の有無
・マンホールふた	・	・T－2用 (5)	・有
・化粧マンホールふた		・T－6用 (15)	・無
・インターロッキング用マンホールふた		・T－20用 (50)	

製造所：

グレーチング (20.2.2)

種類	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ 普通目	細目	(mm)	備考
鋼製	・受枠付 ・	・溝ふた(線断用) ・溝ふた(側溝用) (A) ますふた用 (B) U字溝用	・歩行用	・	・		
			・T－2用	・	・		
			・T－6用	・	・		
			・T－14用	・	・		
			・T－20用	・	・		
ステンレス製	・受枠付 ・	・溝ふた(線断用) ・溝ふた(側溝用) ・ますふた用 ・U字溝用	・歩行用	――	――		
			・T－2用	――	――		
			・T－6用	――	――		
			・T－14用	――	――		
			・T－20用	――	――		

製造所：

3. 地業の材料

※ 共仕4.5.2(c)による (20.2.3)

4. 埋め戻し用材料

種別

・A種　・B種　・C種　・D種 (20.2.3)(表3.2.1)

21 植栽工事

1. 植栽地の試験

酸度試験　・行う (21.1.3)

塩分濃試験　・行う (21.1.3)

2. 植栽基盤の整備 (21.2.2)

芝・地被類の植栽部分	※ 行う　・行わない
上記以外	・行う　※ 行わない

3. 有効土層の面積、厚さ、植栽基盤の工法 (21.2.3)(表21.2.1)(表21.2.2)

樹木の樹高(m)	有効土層の厚さ(cm)	面積	工法
・12以上	※ 100　・120　・150	・張芝部分	※ A種
・7～12	※ 80　・100	・植栽部分	・B種
・3～7	※ 60　・80	・図示	・C種
・3以下	※ 50　・60		・D種
※ 芝、地被類	※ 20	・植栽部分　・図示	※ B種　・

4. 土壌改良材

適用する (21.2.3)(21.2.4)

5. 植込み用土

※ 現場発生の良質土　・客土 (21.3.2)

6. 支柱材

種類 (21.3.2)

※ 丸太（樹種　※ 杉の挽き丸太　・　　）　・竹

形状 (21.3.3)

・添え柱型　・鳥居型　・八ツ掛　・布掛け　・ワイヤ支柱　・地下埋設形支柱

7. 幹巻き用材料

※ 幹巻き用テープ　・わら、こも (21.3.2)

8. 芝

種類 (21.4.2)

※ こうらい芝　・野芝

工法 (21.4.3)

平地	※ 目地張り　・べた張り　・筋芝張り
切り土法面	・目地張り　※ べた張り　・筋芝張り
盛り土法面	・目地張り　・べた張り　※ 筋芝張り

9. 吹付け植種

種子の量　・ (21.4.2)

10. 新植、移植樹木、芝等の枯補償

※ 引き渡しの日から1年　・ (21.3.4)(21.3.6)(21.4.7)

22 カーテンウォール工事

1. カーテンウォールの性能

性能値 (22.1.3)

・耐風圧性		・耐温度変性	
・耐震性	水平方向 鉛直方向	・遮音性	
・水密性		・断熱性	
・気密性		・	
・耐火性		・	

性能の確認方法 (22.1.3)

※ 共仕22.1.3による

2. メタルカーテンウォール

金属材料の種類 (22.2.2)

・アルミニウム製　・鋼製　・ステンレス製　・

見掛かり部分の仕上げ (22.2.3)

・

製品の寸法許容差 (22.2.3)

※ 共仕表22.2.1による　・

躯体付け金物取付け位置の寸法許容差 (22.2.5)

※ 共仕表22.2.2による　・

カーテンウォールの部材取付け位置の寸法許容差 (22.2.5)

※ 共仕表22.2.3による　・

3. シーリング材

種類 (9.5.2)(22.2.2)(22.3.2)

・被着体に応じたものとし、共仕表9.5.1を標準とする

・下記による

種類（記号）	施工箇所

23 ユニット及びその他工事

(1) 階段滑止め

(22.2.2)

材種	幅(mm)	取付工法
		※ 接着工法 ・埋込工法

2. フリーアクセスフロア

(22.2.4)

施工箇所			
(材質)			
(形状)	・500×500		
高さ(mm)			
許容水平力(G)	・0.6　・1.0		
床仕上げ材	・タイルカーペット ・帯電防止ビニル床タイル ・		
ボーダー部、スロープ	・一般部分の仕様に準ずる ・図示		

製造所： (22.2.4)

3. トイレブース

表面材の材質 (22.2.5)

(A) メラミン樹脂系化粧板

・ポリエステル樹脂系化粧板

・

形状　・図示　・ (22.2.5)

取付方法　・図示　・ (22.2.5)

製造所： (22.2.5)

4. ブラインド

(22.2.6)

形式	・横形ブラインド		・縦形ブラインド	
ブラインドの種類	※ ギア式　・コード式	開閉形式	・片開き	・両開き
		操作形式	・1本操作コード	・2本操作コード
スラットの幅(mm)	※ 25　・		――	
ヘッドボックスの材種	※ 鋼製　・		――	
ボトムレールの材種	※ 鋼製　・		――	
スラットの材種	※ アルミニウム合金製 ・		・アルミスラット ・クロススラット	

5. カーテン

(22.2.7)(表22.2.1)

名称・品質の種類	ひだの種類	形式	引分け装置
		・片引き　・引分け	・あり　・なし
		・片引き　・引分け	・あり　・なし
		・片引き　・引分け	・あり　・なし
		・片引き　・引分け	・あり　・なし
		・片引き　・引分け	・あり　・なし

品質の種類は、参考商品名である

暗幕用カーテンの両端、上部、召合せの重掛け (mm) (22.2.7)

※ 300以上　・

6. カーテンレール

材種 (22.2.7)

(A) ステンレス製　・アルミニウム製　・

形状

・C型　・D型　・角型　・

7. カーテンボックス

材質

・アルミニウム　・

色彩

・シルバー　・着色（色　　）

表面材

・ビニルレザー張り（防炎加工）　・

製造所：

8. アコーディオンドア

(8) 黒板及びホワイトボード

・黒板

種類　※ 塗付け　・ (22.2.8)

(A) ホワイトボード (22.2.8)

10. 表示

(22.2.10)

区分	形状	寸法(mm)	材質
・対人衝突防止表示	・図示 ・	・図示 ・	・図示 ・
・非常用進入口	・図示 ・	・図示 ・	・図示 ・
・			

区分	材質、(厚さ(mm))	印刷等の種別	色	書体
・室名札	(　)			
・ピクトグラフ	(　)			
・とびら番号	(　)			
・庁舎案内板	(　)			
・各階案内板	(　)			
・	(　)			

(11) コーナービード

材種 (22.2.12)

※ ステンレス製　・アルミニウム合金製　・

(12) 天井見切縁

材種

(A) アルミニウム製　・

(13) 点検口

形式	材種	寸法	形式	
天井	(A) アルミニウム製 ・	(A) 450×450 ・600×600 ・	一般形 (外枠) ・額縁タイプ ・目地タイプ	(内枠) ・額縁タイプ ・目地タイプ
			・密閉形	
床	・アルミニウム製 ・ステンレス鋼製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・屋内外用　・屋内用 ・一般形　・密閉形　・結露防止形	

製造所：

23-3 ユニット及びその他工事

14. 鋼製書架及び棚

区分	品質、規格等
・固定式	・鋼製書架(JIS S 1039による)　・
・移動式	・鋼製物品棚(JIS S 1040による)　・

15. 既製家具

製造所：

16. カウンター

製造所：

(17) ステンレス流し台

・優良住宅部品　・

(18) コンロ台

・優良住宅部品　・

(19) 吊戸棚

・優良住宅部品　・

20. 水切り棚

・優良住宅部品　・

(21) 鏡

ガラスの厚さ(mm)　※ 5　・ (23.2.9)

(22) 小書棚

・本用　個

・

23. くつふきマット

材種	受わく
・塩化ビニル又はゴム製	ステンレス鋼(SUS304)
・硬質アルミニウム合金製	硬質アルミニウム合金
・ステンレス鋼(SUS304)製	ステンレス鋼(SUS304)
・	

24. 旗竿

形式	材種	高さ(mm)
・テーパー式 ・同一断面式	・アルミニウム合金製	

製造所：

25. 旗竿受金物

材種

・ステンレス鋼(SUS304)製　・

26. 車止めさく

形式	材質	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式脚内蔵式 ・横押品 ・スプリング式 ・	・ステンレス ・	・φ76.3　t＝2.0 ・	・GL＋850 ・

27. 煙突ライニング

煙突用成形ライニング材

製造所： (23.2.11)

キャスタブル耐火材

工法　・こて押え　・

最高使用温度　・400℃　・

製造所： (23.2.11)

28. プレキャストコンクリート

補強筋線の径(mm) (23.3.2)

※ 3.2以上　・

コンクリートの設計基準強度(Fc) (23.3.3)

※ 水セメント比65%以下、単位セメント量の最小値285kg／m³を満足する強度

・

取付金物 (23.3.3)

・図示　・

配筋 (23.3.3)

※ 共仕23.3.3(d)(1)による　・

29. 間知石、コンクリート間知ブロック

(23.4.2)

区分	材種	質量区分
・間知石		
・コンクリート間知ブロック		

地震の材料 (4.5.2)(23.4.2)

・割り石　・砂　※ 砂利

間知石張り (23.4.3)

張り方	目地り	伸縮調整目地の材種、厚さ(mm)
・布積み		
※ 谷積み		

30. 敷地境界石標

・A種　※ B種 (23.5.1)(表23.5.1)

31. 屋内外設備機器の基礎

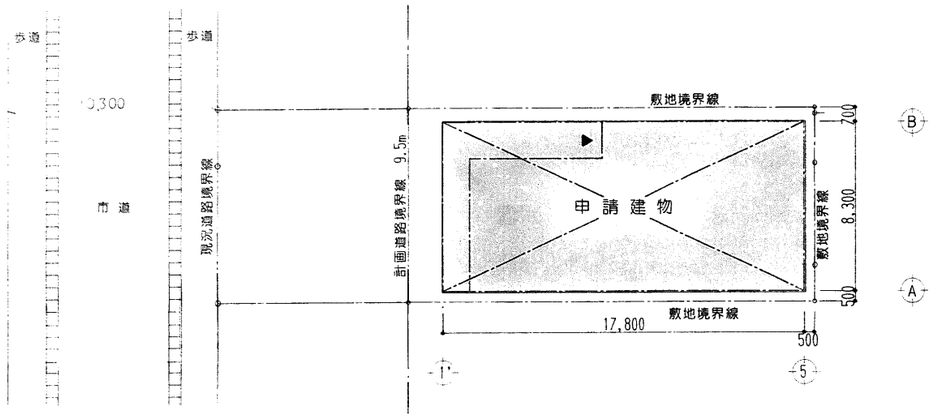
・建築工事で行う　・設備工事で行う

建築工事に含む場合基礎の施工箇所　・

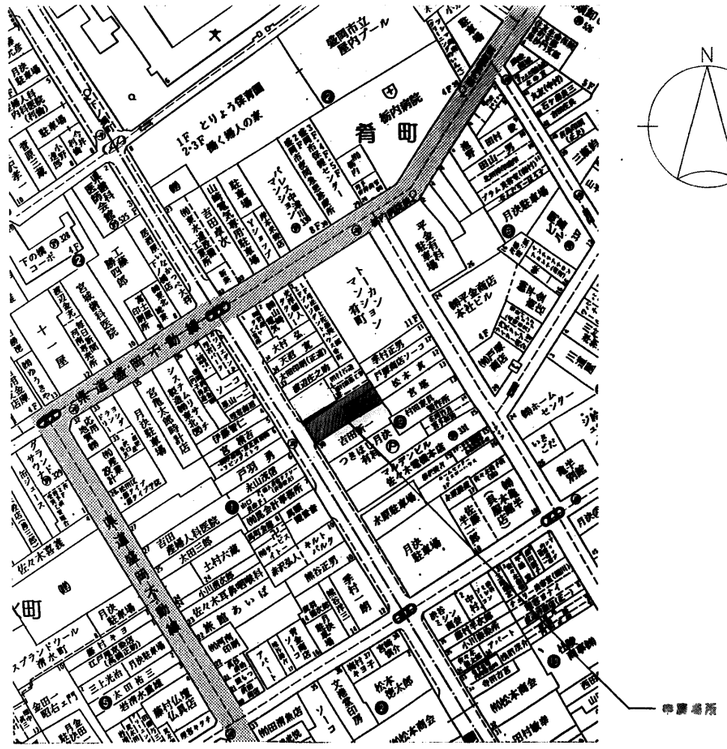
工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 特記仕様書4	縮尺 —/—

枚ノ内　図面番号 4

区分　建築意匠

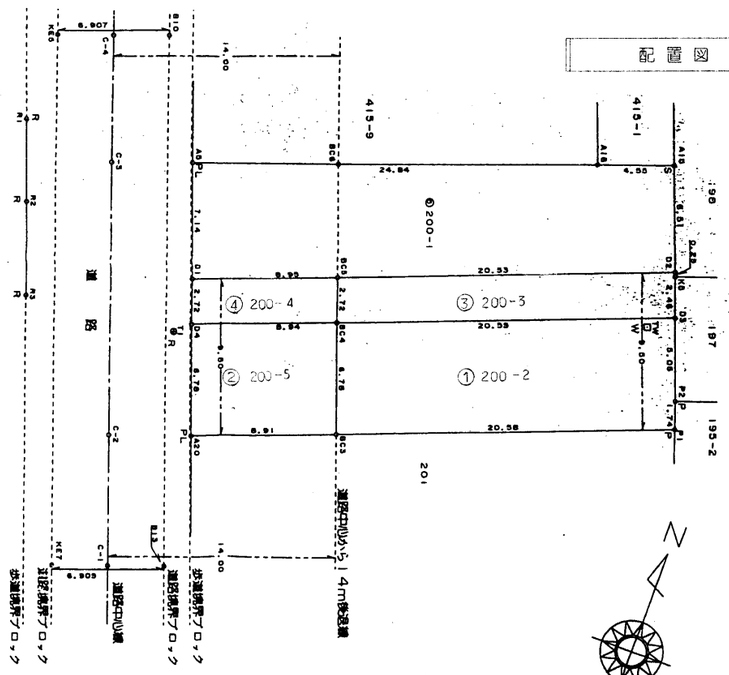


配置図 S=1:200



案内図

敷地面積 139.5707075 + 55.8591550 + 24.3252915 + 60.5085720 = 280.263726 m²



求積図 1:250

求積表

地番 ① 200-2			
NO	Xn	Yn	Xn・(Yn+1-Yn-1)
BC3	-2.264	11.567	48.662416
BC4	4.094	9.204	68.541748
D3	11.677	28.309	244.142716
P2	6.965	30.112	16.639385
P1	5.330	30.698	-98.844850
		合計	279.141415
	合計面積		139.5707075

地番 ③(200-3)			
NO	Xn	Yn	Xn・(Yn+1-Yn-1)
BC4	4.094	9.204	-82.092888
BC5	6.644	8.257	120.462364
D2	14.216	27.338	272.534936
K5	13.979	27.428	13.615546
D3	11.677	28.309	-212.801648
		合計	111.718310
	合計面積		55.8591550

地番 ④(200-4)			
NO	Xn	Yn	Xn・(Yn+1-Yn-1)
D1	3.341	-0.063	24.593101
BC5	6.644	8.257	61.569948
BC4	4.094	9.204	-30.135934
D4	0.796	0.896	-7.376532
		合計	48.650583
	合計面積		24.3252915

地番 ②(200-5)			
NO	Xn	Yn	Xn・(Yn+1-Yn-1)
D4	0.796	0.896	4.709932
BC4	4.094	9.204	43.687074
BC3	-2.264	11.567	13.396088
A20	-5.550	3.287	59.224050
		合計	121.017144
	合計面積		60.5085720

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)-5755	検図	製図	特記	図面内容 案内図 配置図	縮尺 S=1:200	枚ノ内 図面番号 5 区分 建築意匠
	工事設計図							

外部仕上表

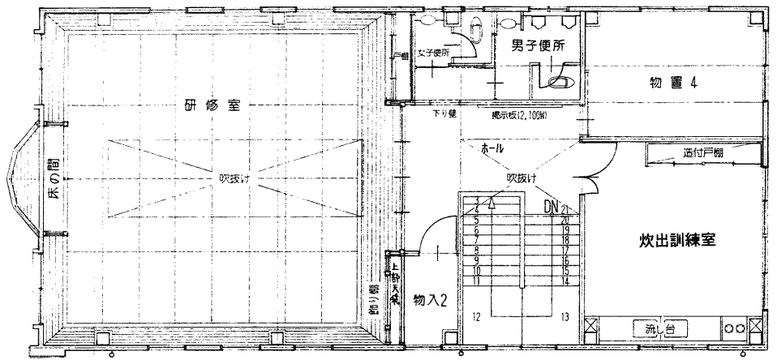
	内容
屋根	屋根：コンクリート金コテ仕上 アスファルトルーフィング22kg品敷，発泡ポリエチレンシート⊗4㎜下地 ステンレス防水屋根⊗0.4㎜カラー SUS304 露出工法 ルーフドレイン 100φ ステンレス防水用 タテ樋：カラーステンレス(了)0.6mm 100φ SUS304 支持金具 @900(ステンレス製) 軒先部分屋根：上記屋根仕様に同じ 破風鼻隠し：塗装ステンレス⊗0.4㎜ SUS304(下地ボンデ鋼板⊗1.6㎜加工) 立上り：木毛板⊗25㎜捨張り
軒天井	軒天井：軽鉄天井下地(25型@300) 硬質木片セメント板 @12㎜張り VP－2
外壁	外壁：アスファルトフェルト 17kg品下地セメント 中空押出成形材(了)15mm横張り(金具止メ工法，目地専用ジョイナー使用，出隅は共材使用)の上 アクリル弾性タイル吹付け仕上げ 水切：専用水切り(アルミ製) (了)1.0mm パラペット笠木：カラーアルミ 小屋裏換気口：丸型フード付アルミ換気ガラリ 150型 ステンレス網付 (防火ダンパー付) 換気パイプ ステンレス製 50φ 防虫網付

	内容
開口部	玄関：ランマ，袖付親子開き戸 資材倉庫廻り：オーバースライダー，軽量バランスシャッター，片開き腰パネル戸 その他開口部：アルミサッシ(カラー) 外部建具は全て乙種防火戸仕様 硝子は複層硝子，サッシ廻り四方ポリサルファイド系コーキング処理
基礎廻り	鉄筋コンクリート立上り：打放し補修仕上
その他	玄関ポーチ床：モルタル塗り下地100角磁気質タイル(無ゆう)貼り その他外部叩き：コンクリート金コテ仕上 施設文字：ステンレス製(16文字)トーボックス文字 150×150×15 消防用ホースボール：4本吊×2 外構：建物正面側 アスファルト舗装 その他3方：洗い砂利敷(了)200mm 資材倉庫外部叩き前：U字型排水溝 W=180 グレーチング蓋付 端部 集水桝300□(グレーチング蓋付) 玄関ポーチまでのアプローチ部分：インターロッキングブロック敷(透水性) (ブロック (了)80mm) クツ洗イ グレーチング 395×600 ブラシ掛フック

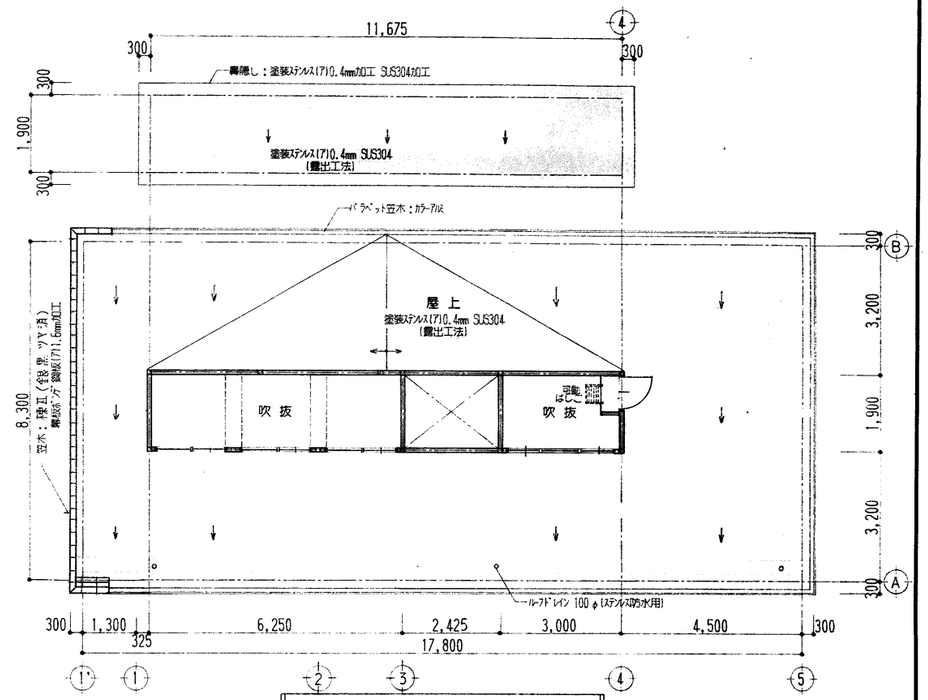
内部仕上表

室名	床	巾木	壁	天井	廻り縁	天井H	室名札	備考
1F 玄関	モルタル塗り下地100角磁気質タイル(無ゆう)貼り	同左 H=150	ジョイント石膏ボード(了)12.5mm下地ビニールクロス貼り	石膏ボード(了)9.5mm下地 ロックウール化粧吸音板(了)9.0mm貼り	塩ビ製	3,150		造付下足入，玄関上りカマチ(木製) 傘立て 300×1000×500H(SUS 304) スリッパ入
ホール	モルタル塗り下地 直貼り用化粧フローリング(了)12mm	同上	同上	同上	同上	3,000		掲示板
団詰所	根太フォーム(了)65mm下地タタミ敷込み 一部根太組の上 コンパネ(了)12mm下地線甲板(了)15mm貼り	ヒバ(了)18mm OSCL塗り H=100	同上	ジョイント石膏ボード(了)9.5mm下地 ビニールクロス貼り	ヒバ36×27 CL－4回塗	3,000	1	ガスキャビネット 600W，ステンレス一槽流し台1,200W，吊戸棚1,200W (←木製NBW程度) アーク型レンジフード600W カーテンボックス，カーテンレール(シングル)，カーテン ，ホワイトボード 1,800W×1,200H
物置 1(玄関正面)	モルタル塗り下地長尺ビニールシート(了)2.0mm貼り(エポキシ接着)	ヒバ(了)18mm OSCL塗り H=100	化粧石膏ボード(了)9.5mm張り(クロスボード)	化粧石膏ボード(了)9.5mm張り(910×910，トラバーチン模様)	塩ビ製	2,700	1	天井換気グリル アルミ 200×400型(2ケ所)
物置 2(階段下)	防水モルタル金コテ仕上	同左 H=200 (アルミ水切使用)	ポリスチレンフォーム(了)25mm下地 石綿セメント板(了)5mm(フレキ)突付張り VP－2	ポリスチレンフォーム(了)25mm下地 石綿セメント板(了)5mm(フレキ面取材)突付張り VP－2	アルミ製	2,200		
物置 3(資材倉庫横)	コンクリート金コテ仕上 吊棚部分：コンクリートパネル(了)12mm張り(2重張り)	コンクリートあらわし H=200～250 見切(了)30mm OP-3回塗り	石膏ボード(了)12.5mm下地 石綿セメント板(了)5mm(フレキ面取材)突付張り(棚下：VP－2)	石綿セメント板(了)5mm(フレキ面取材)突付張り 棚下：VP－2	塩ビ製	3,500～3,550		移動式パンジ(アルミ製6段 250W－1ケ，ステンレス製掛金具 2ケ所－固定)
資材倉庫	コンクリート金コテ仕上	同上	石膏ボード(了)12.5mm下地 石綿セメント板(了)5mm(フレキ面取材)突付張り VP－2	石綿セメント板(了)5mm(フレキ面取材)突付張り VP－2	同上	3,500～3,550		オーバースライダー下カマチ：ステンレスアングル L－75×75×6
物入1(資材倉庫部分)	同上，棚部分はコンクリートパネル(了)12mm張り(2重張り)	コンクリートあらわし H=150 見切(了)30mm	石膏ボード(了)12.5mm下地 石綿セメント板(了)5mm(フレキ面取材)突付張り	石綿セメント板(了)5mm(フレキ)突付張り	同上	2,700		棚2段
洗面所	モルタル塗り下地長尺ビニールシート(了)2.0mm貼り(エポキシ接着)	ラワン(了)18mm OSCL塗 H=100	ジョイント石膏ボード(了)12.5mm下地 ビニールクロス貼り	ジョイント石膏ボード(了)9.5mm下地 ビニールクロス貼り	同上	2,400	1	ハメ込式手洗いカウンター(手洗器付) 吊り戸棚900W×500H カガミ TS119FR5 450×600
便所(男女兼用)	同上	同上	同上	同上	同上	2,400		
階段室	踏板 集成材(了)50mm ウレタン樹脂ワニス3回塗(踏り場合) (蹴込板 集成材 @20mm 側板 集成材 50×300)	踏り場部分 H=100 集成材@18㎜ OSCL塗	ジョイント石膏ボード(了)12.5mm下地 ビニールクロス貼り	石膏ボード(了)9.5mm下地 ロックウール化粧吸音板(了)9mm貼り	塩ビ製	2FLより 3,120		踏板：ノンスリップ取付
2F ホール	モルタル塗り下地 直貼り用化粧フローリング(了)12mm	同上	同上	同上	同上	3,120		掲示板 900×2,100，移動式パンジ(アルミスライド式＝3294～5215H)
研修室	根太フォーム(了)65mm下地タタミ敷込み 一部根太組の上 コンパネ(了)12mm下地線甲板(了)15mm貼り	――	同上	ジョイント石膏ボード(了)9.5mm下地 ビニールクロス貼り(木目調)	ヒバ36×27	3,000	1	戸棚，カザリ棚用，カーテンボックス，カーテンレール(シングル)，遮光カーテン，ボックス付スクリーン 2,700W×2,000H (吸付部分は木製カーテンレール)
炊出し訓練室	モルタル塗下地長尺ビニールシート(了)2.0mm貼り(エポキシ接着)	ヒバ(了)18mm OSCL塗り H=100	同上	化粧石膏ボード(了)9.5mm張り(910×910，トラバーチン模様)	塩ビ製	3,000	1	戸棚，ガスキャビネット 600W，ステンレス一槽流し台1,500W＋1,500W，吊戸棚1,500W＋1,500W (←木製NBW程度) アーク型レンジフード600W 卓上コロ(ゴトクの引出)，カーテンボックス，カーテンレール(シングル)，カーテン
物置 4	同上	同上	化粧石膏ボード(了)9.5mm張り(クロスボード)	同上	同上	2,700	1	天井換気グリル アルミ 200×400型(2ケ所)
男子便所	同上	同上 OP-3回塗	腰壁(1200H)：シージング石膏ボード(了)12.5mm下地不燃ベニヤ(了1.4mm)化粧板貼り 小壁 ：ジョイント石膏ボード(了)12.5mm下地ビニールクロス貼り	ジョイント石膏ボード(了)9.5mm下地 ビニールクロス貼り	同上	2,400	1	ハメ込式手洗いカウンター(手洗器付)，カガミ 450×600
女子便所	同上	同上	同上	同上	同上	2,400	1	ハメ込式手洗いカウンター(手洗器付)，カガミ 450×600
物入2	同上	ヒバ(了)18mm OSCL塗 H=100	化粧石膏ボード(了)9.5mm張り(クロスボード)	化粧石膏ボード(了)9.5mm張り(910×910，トラバーチン模様)	同上	3,120	1	
床の間	根太組の上コンパネ(了)12mm下地 天然木化粧合板貼り	――	ジョイント石膏ボード(了)12.5mm下地 ビニールクロス貼り(じゅらく調)	ジョイント石膏ボード(了)9.5mm下地 ビニールクロス貼り(木目調)	ヒバ36×27	2,700		床柱 2本，化粧上カマチ，掛軸用イナズマ，落シ掛
その他	内部土間下：ポリエチレンフィルム(了)0.15mm敷込みの上ポリエスチレンフォーム(了)25mm敷き，断熱工事 硬質ウレタンフォーム吹付 外壁部分(了)25m 天井裏(了)35mm 木材：構造作 松1等材，造作材ヒバ上小節程度トスル (研修室：見え掛り柱等含む) 天井点検口 アルミ 450×450 内部天井下地：軽鉄天井19型(直張り@300，下地張り@360)開口部補強共 内部間仕切 軽鉄壁下地100型 開口補強共 (外壁廻りの内壁50型，内部の柱型部分25型使用)							

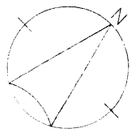
工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 外部仕上表 内部仕上表	縮尺 ―	枚ノ内 図面番号 6 区分 建築意匠

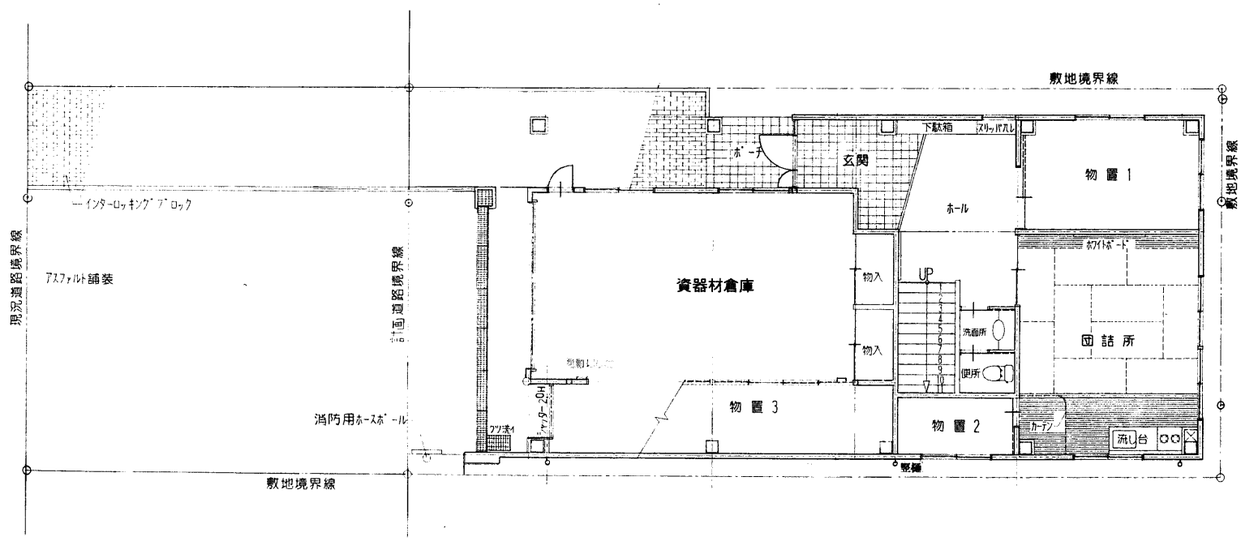


2階平面図



吹抜部分平面図 及び 屋根伏図 S=1:100





1階平面図

床面積

1F　$16.^{5} \times 8.^{3} - (1.^{8} \times 0.^{45} + 1.^{8} \times 6.^{5}) = 124.^{44}$　$= 124.^{44}$

2F　$17.^{8} \times 8.^{3}$　$= 147.^{74}$

$272.^{18}$ m²

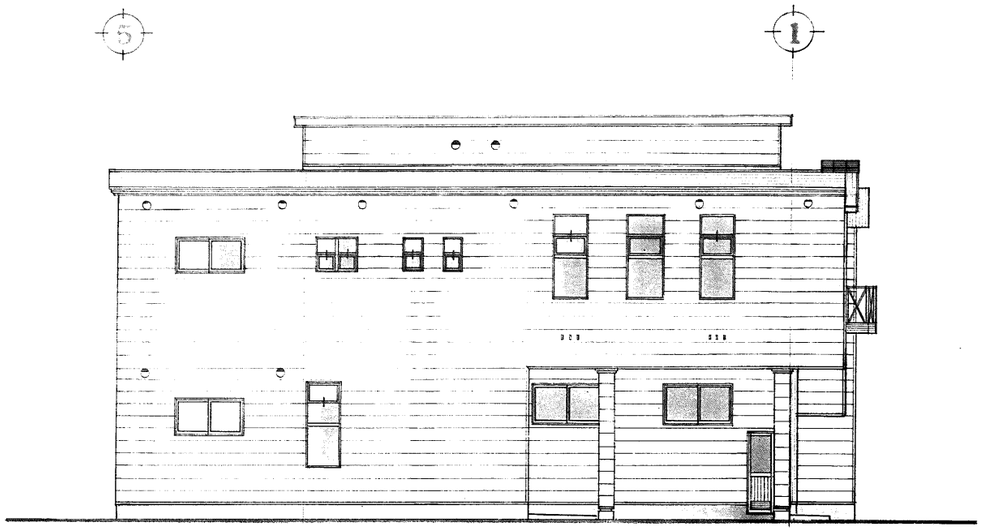
延床面積

$17.^{8} \times 8.^{3}$　$= 147.^{74}$

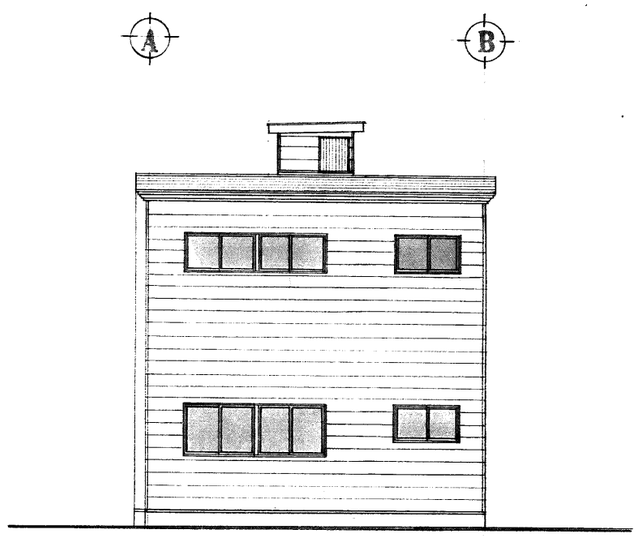
$0.^{76} \times 0.^{23}$ (化粧柱型部分)　$= 0.^{1748}$

$147.^{9148}$ m²

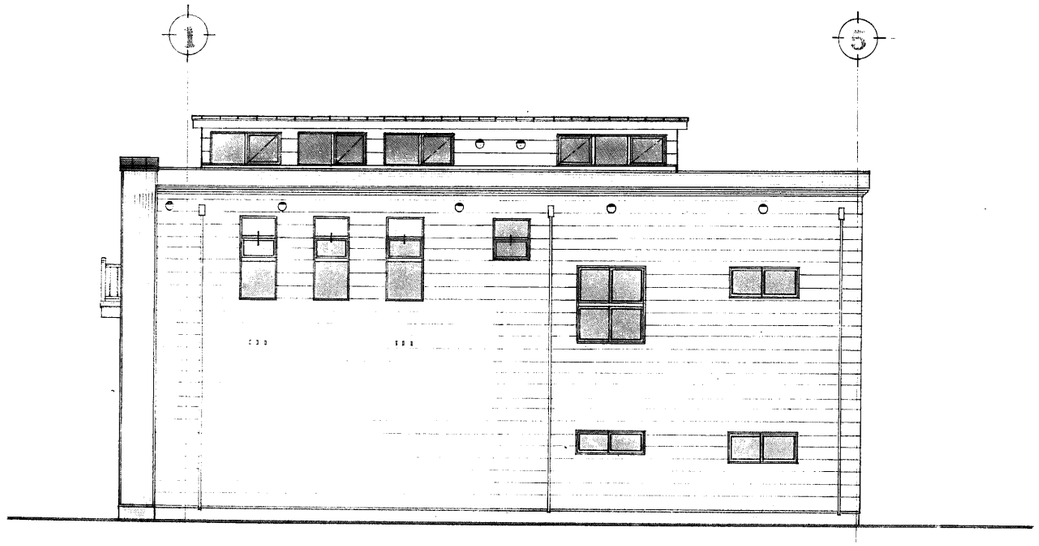
工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 1階平面図 2階平面図 屋根伏図	縮尺 S=1:100	枚ノ内 図面番号 7
工事設計図								区分 建築意匠



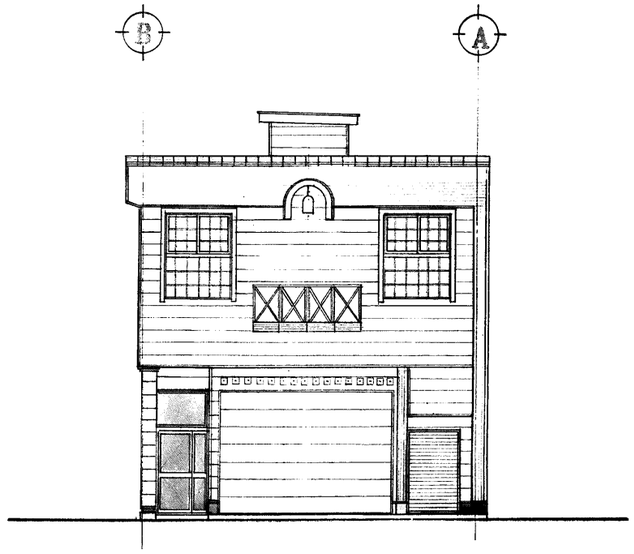
北側立面図　S=1:100



東側立面図　S=1:100

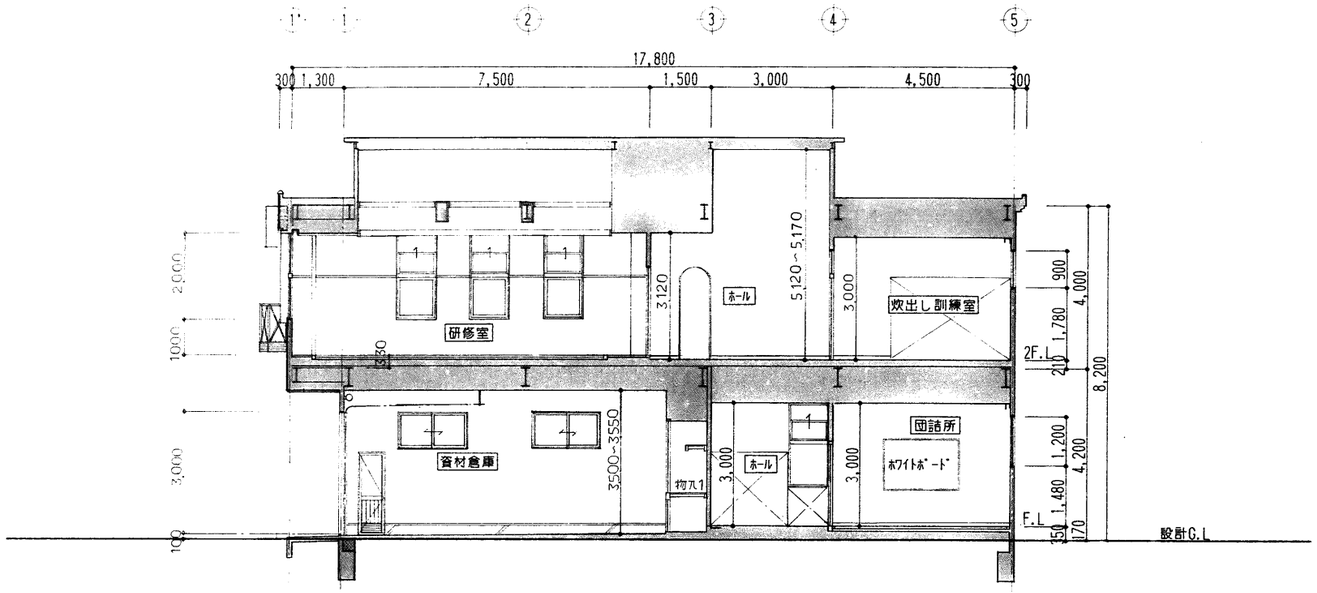


南側立面図　S=1:100

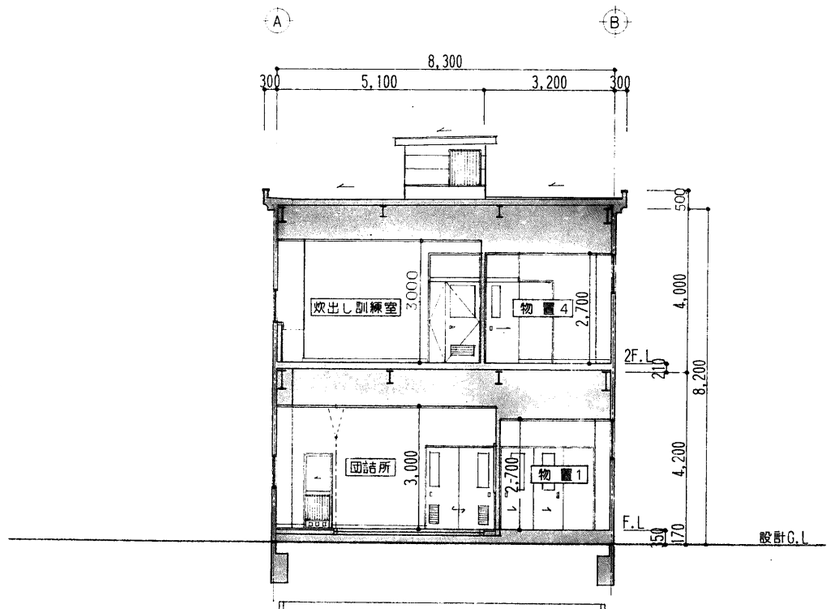


西側立面図　S=1:100

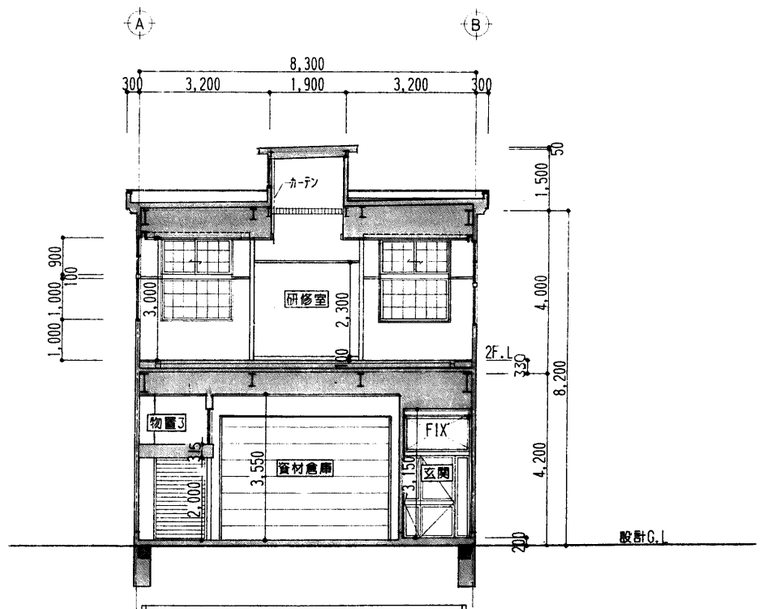
工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 立面図	縮尺 S=1:100	枚ノ内　図面番号 8 区分　建築意匠



A－A' 断 面 図　S=1:100

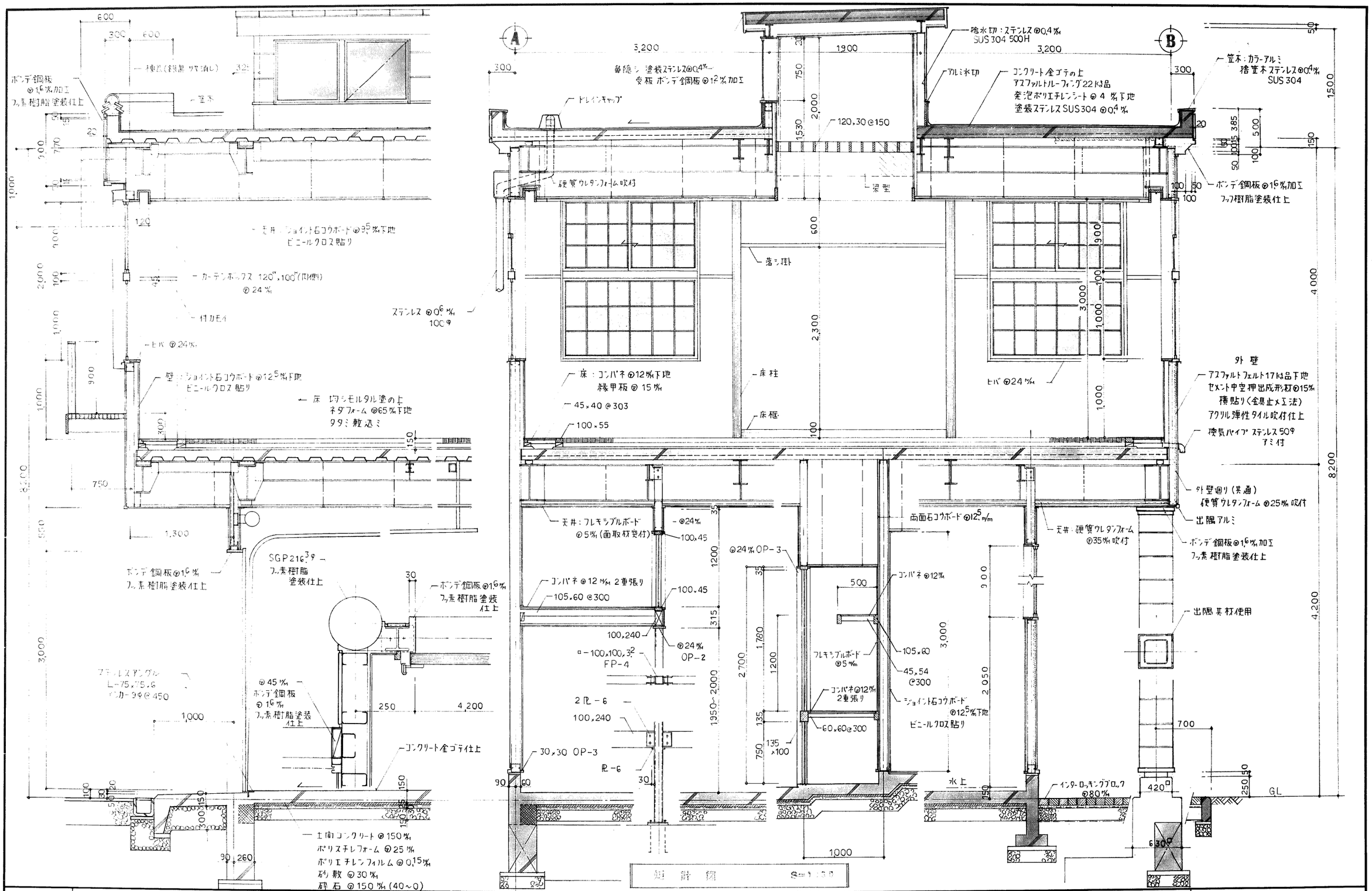


B－B' 断 面 図　S=1:100

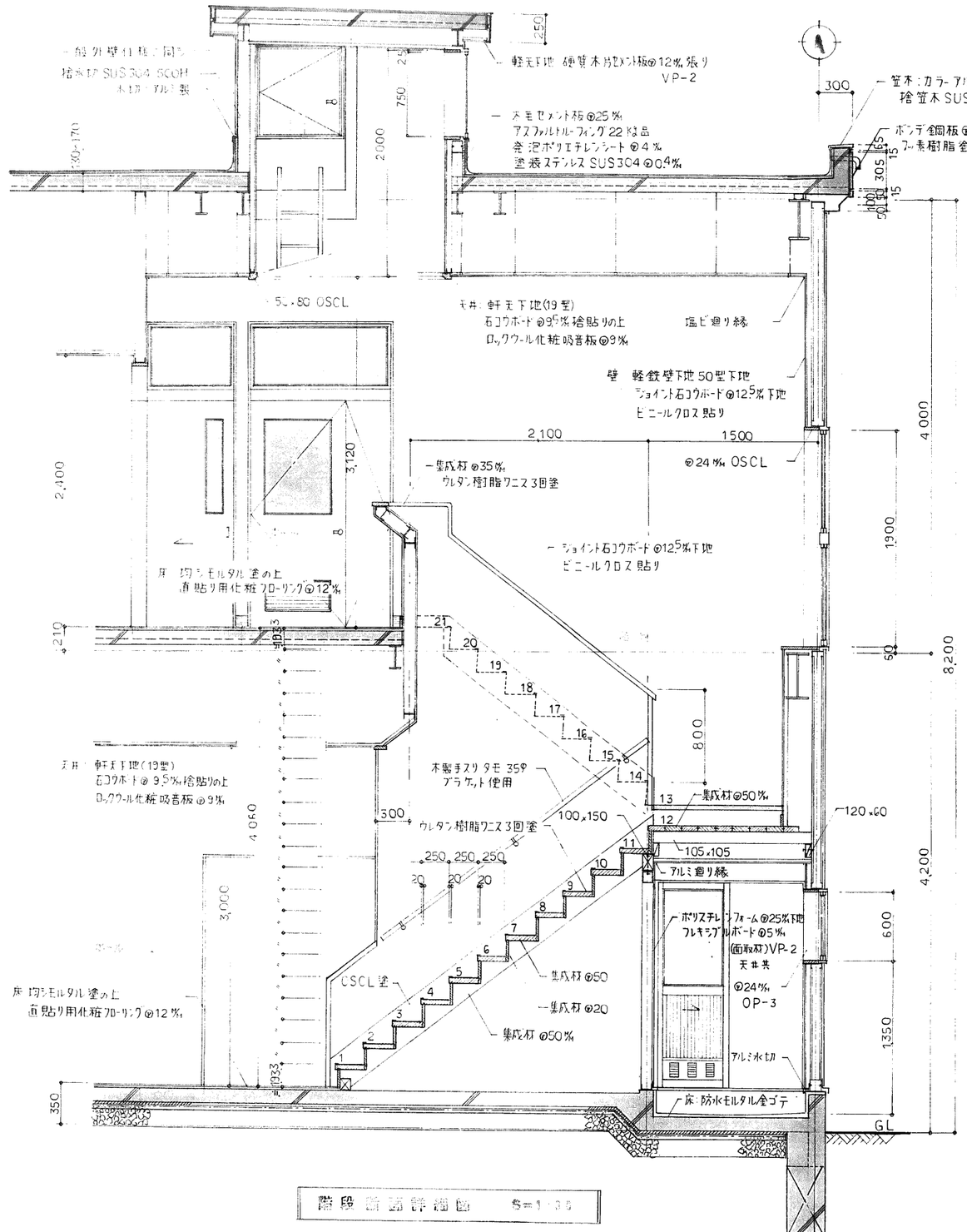


C－C' 断 面 図　S=1:100

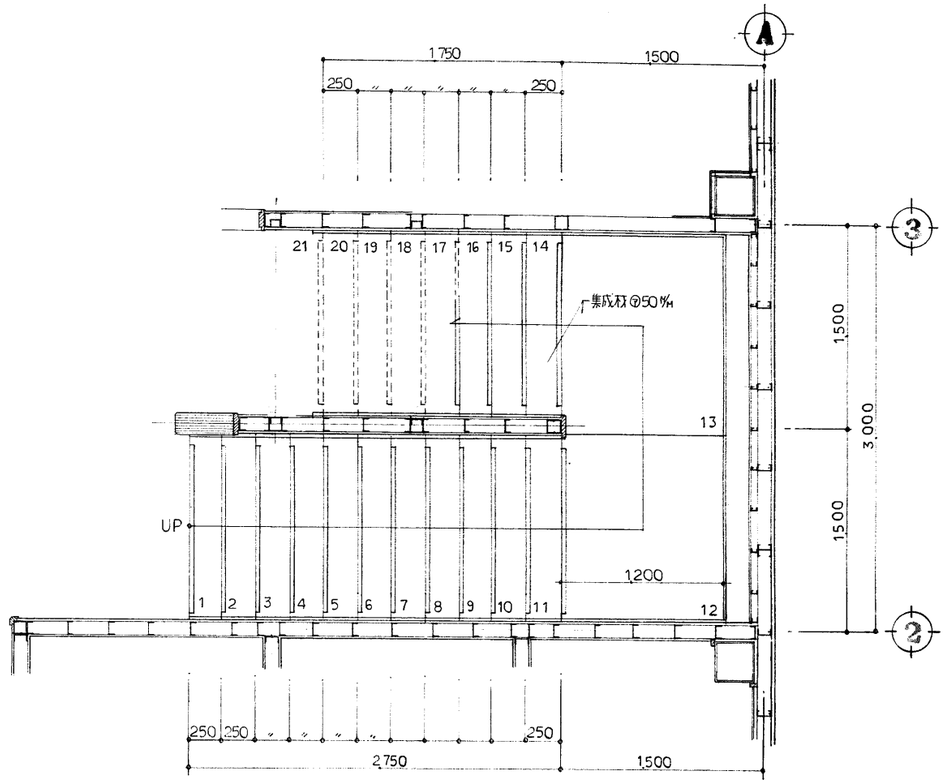
工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 断面図	縮尺 S=1:100	枚ノ内 図面番号 9 区分 建築意匠



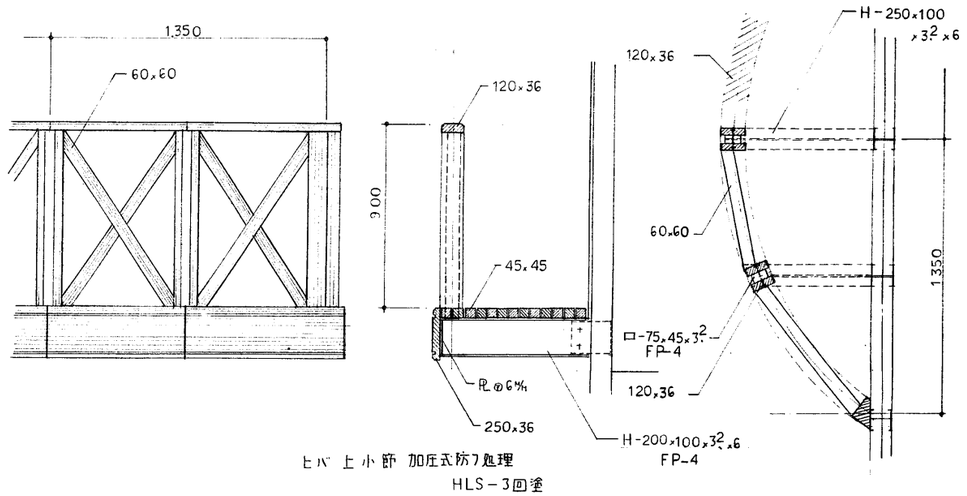
工事名	(仮称)看町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 矩計図	縮尺 S=1:30	枚ノ内 図面番号 10 区分 建築意匠



階段断面詳細図 S=1:30



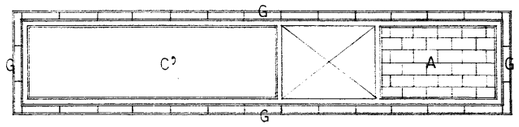
階段平面詳細図 S=1:30

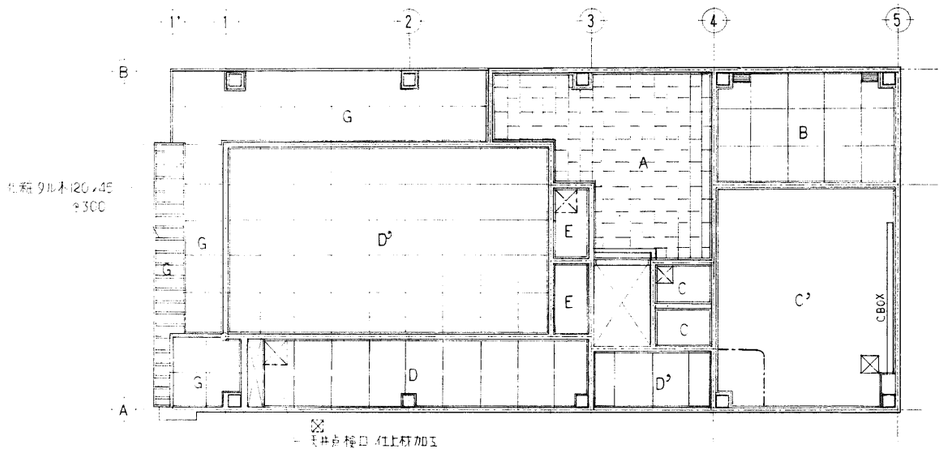


バルコニー詳細図 S=1:20

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)-5755	検図	製図	特記	図面内容 階段平面詳細図 断面詳細図	縮尺 S=1:30	枚ノ内	図面番号 11
								区分	建築意匠

A	ラワンボード @9.5mm下地 B.クワルル化粧吸音板 @9mm
B	化粧石コウボード @9.5mm (トラバーチン模様 910×910)
C	ジョイント石コウボード @12.5mm下地 ビニールクロス貼り
C'	同上 本目調
D	石綿セメント板 @5mm 面取材 突付張り (フレキ)
D'	同上 VP−2
E	石綿セメント板 @5mm 突付張り
F	化粧合板張り
G	硬質木片セメント板 @12mm VP−2





1階天井伏図 S=1:100

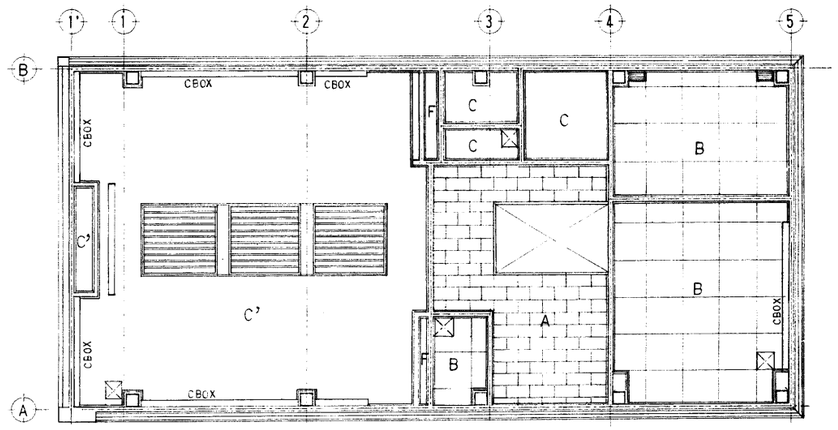
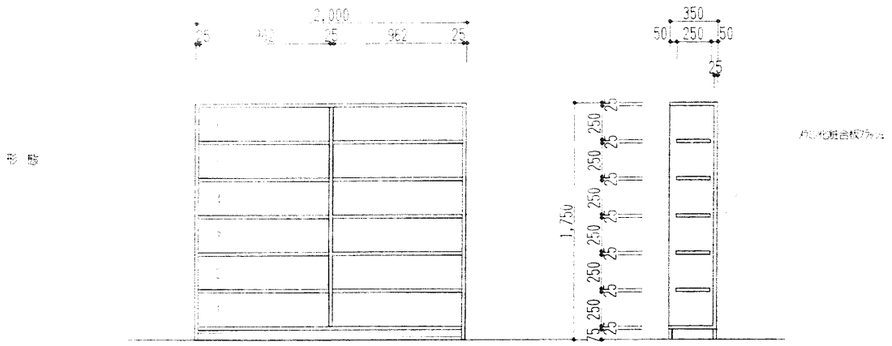


図 天井点検口 アルミ450×450

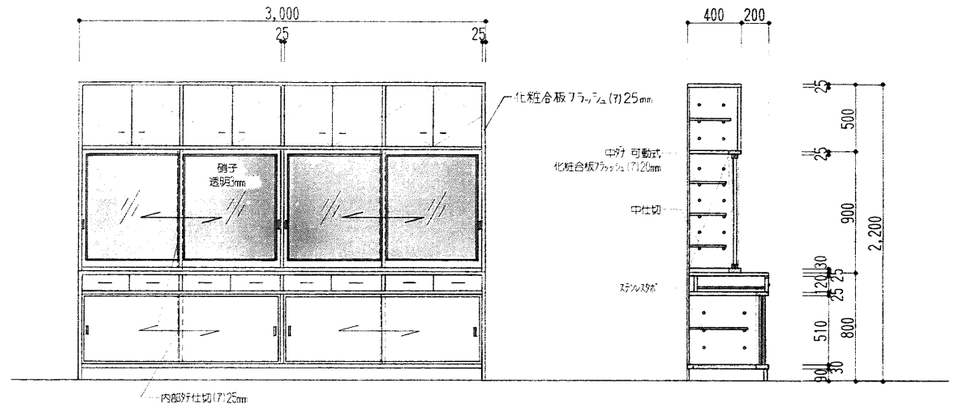
2階天井伏図 S=1:100

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)−5755	検図	製図	特記	図面内容 天井伏図	縮尺 S=1:100	枚ノ内 図面番号 12 区分 建築意匠

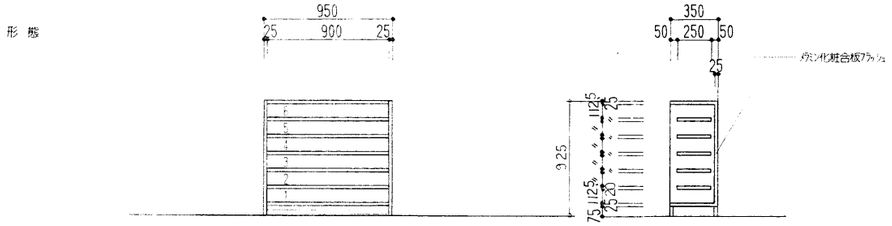
下駄箱　　K1



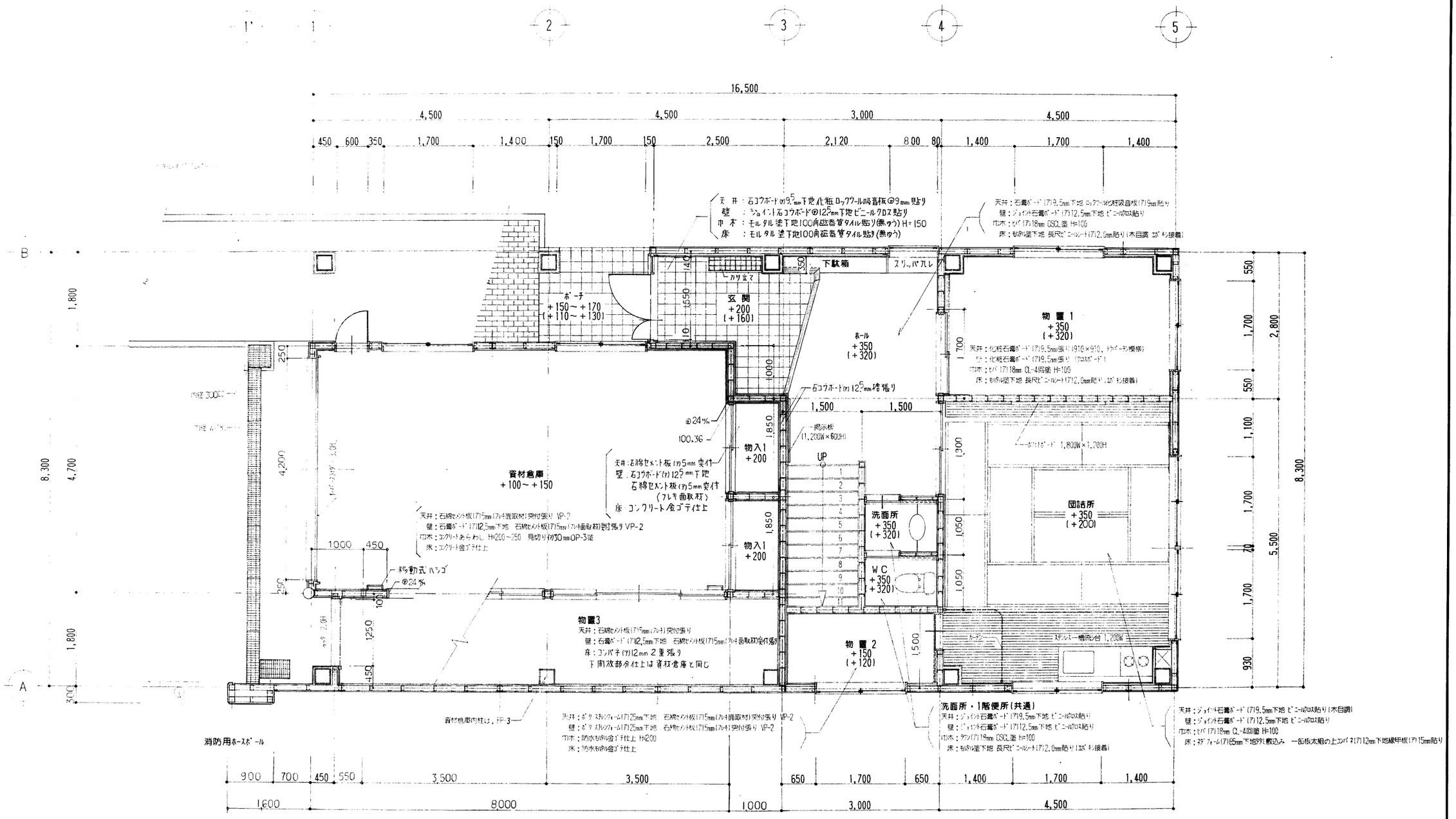
炊き出し訓練室造付戸棚　　K2



スリッパ入れ　　K3

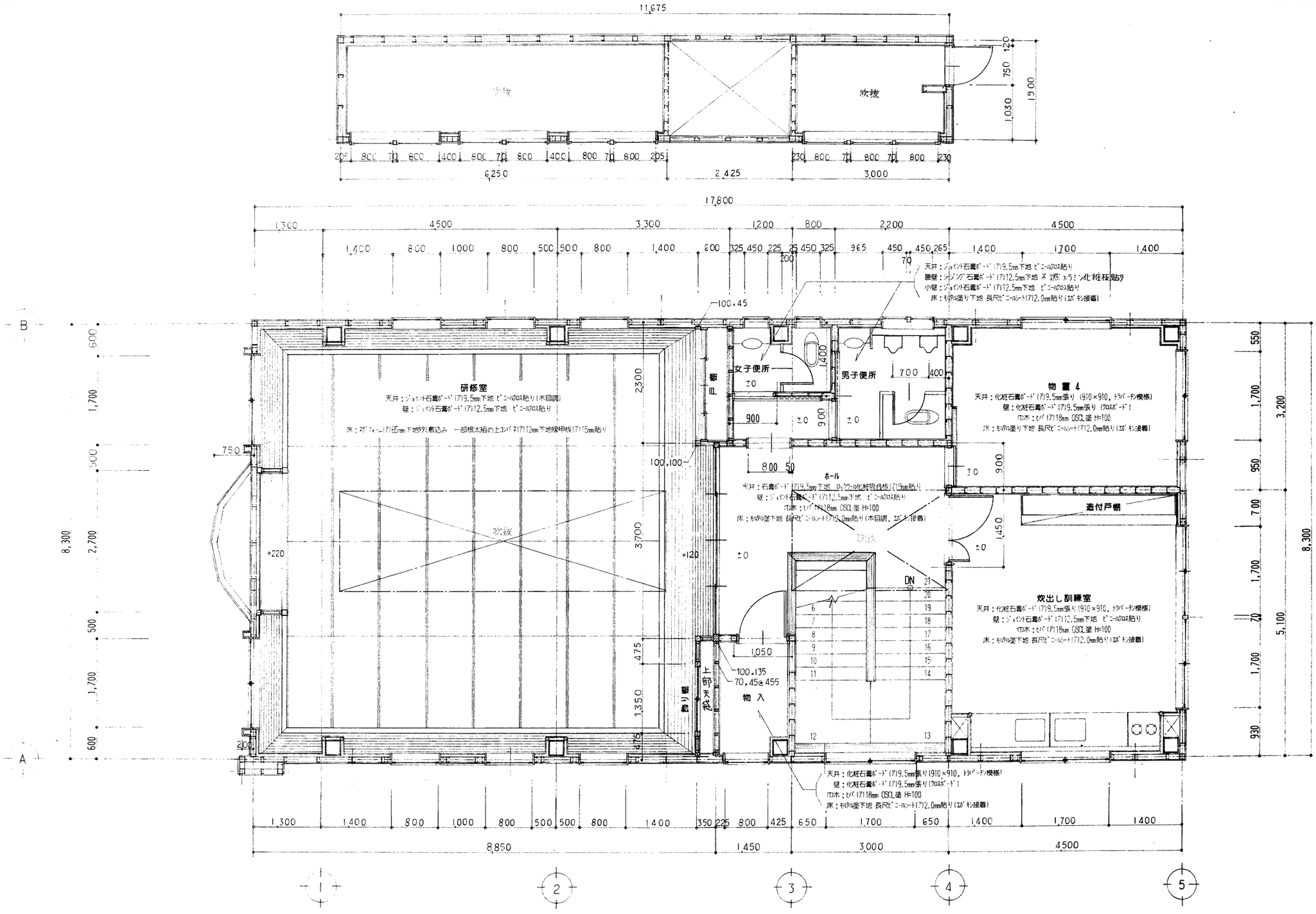


工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 家具詳細図	縮尺 S=1:30
						枚ノ内 図面番号	13
						区分	建築意匠



1階平面詳細図 S=1:50

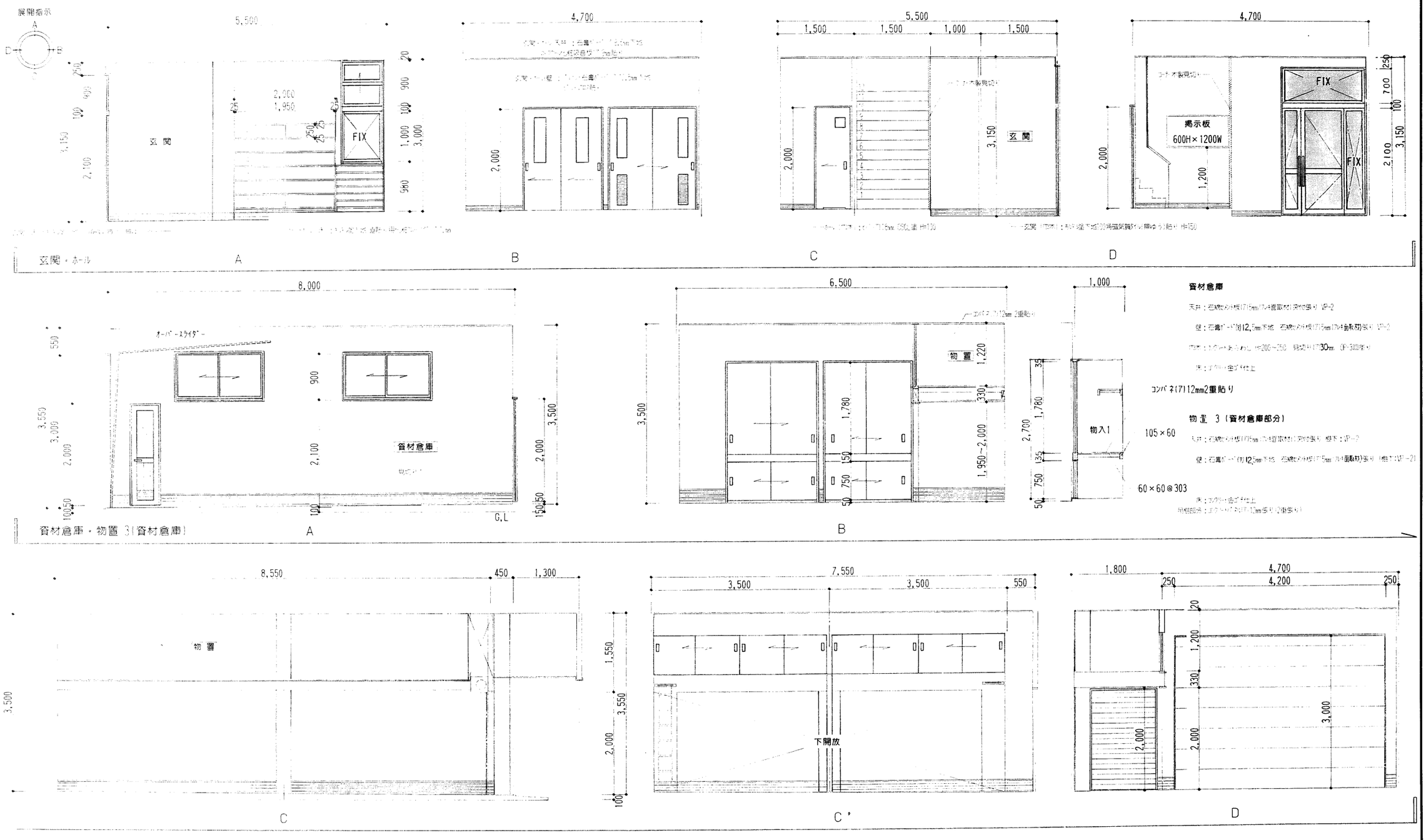
工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 1階平面詳細図	縮尺 S=1:50	枚ノ内 図面番号 14 区分 建築意匠



2階平面詳細図 S=1:50

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 2階平面詳細図	縮尺 S=1:50
						枚ノ内	図面番号 15
						区分	建築意匠

展開図 1　S=1:50



資材倉庫

天井：石膏ボード(t)12.5mm下地　石膏ボード(t)9.5mm(ﾌﾘｰ面取り)張り VP-2

壁：石膏ボード(t)12.5mm下地　石膏ボード(t)9.5mm(ﾌﾘｰ面取り)張り VP-2

内部：コンクリートあらわし　H=200～250　見切材(t)30mm　(P-3回塗り)

床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ仕上

コンパネ(7)12mm2重貼り

物置 3（資材倉庫部分）

天井：石膏ボード(t)9.5mm(ﾌﾘｰ面取り)張り　塗下：VP-2

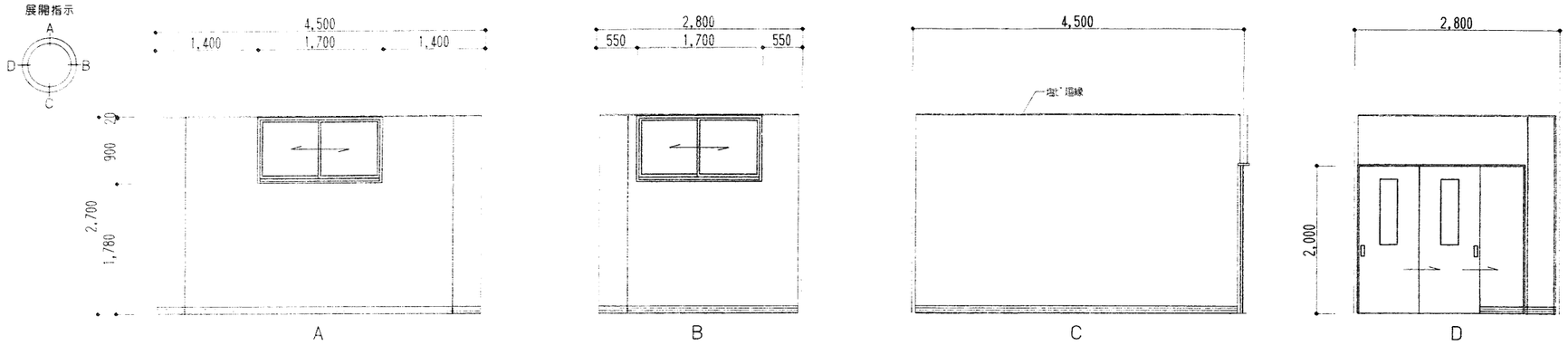
壁：石膏ボード(t)12.5mm下地　石膏ボード(t)9.5mm(ﾌﾘｰ面取り)張り　塗下：VP-2

床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ仕上

巾木部分：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ(t)12.5mm張り(2重張り)

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1 級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1 級建築士登録61377号　伊五沢 賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 展開図	縮尺 S=1:50	枚ノ内 図面番号 16 区分 建築意匠

展開図 2　S=1:50



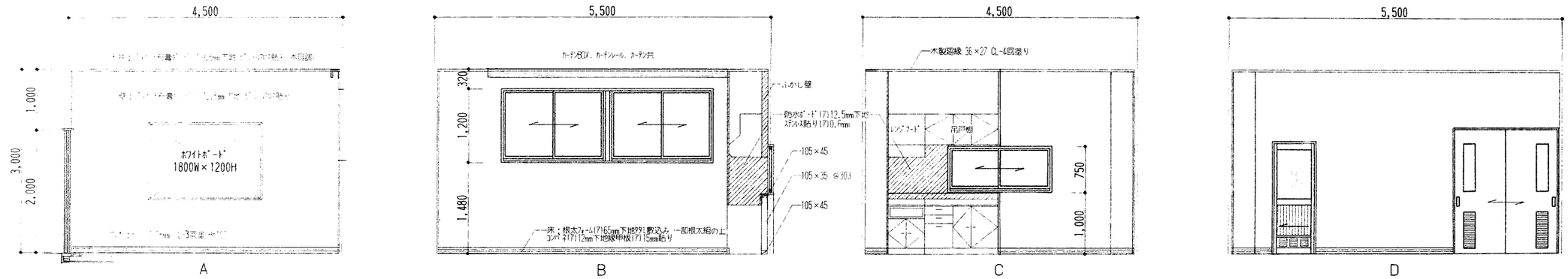
天井：化粧石膏ボード(7)9.5mm張り(910×910，トラバーチン模様)

壁：化粧石膏ボード(7)9.5mm張り(クロスボード)

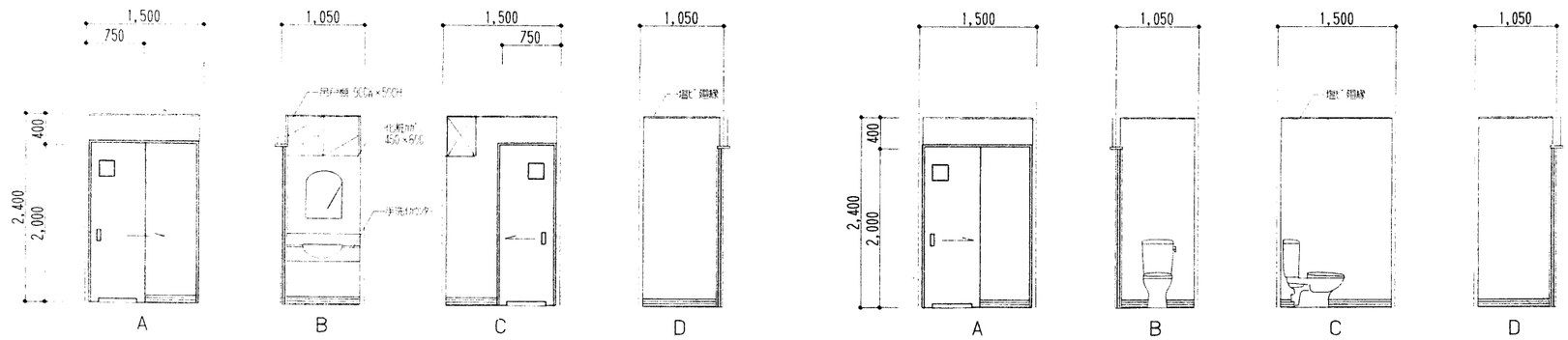
巾木：ビバ(7)18mm OSCL塗 H=100

床：モルタル塗下地 長尺ビニールシート(7)2.0mm貼り(エポキシ接着)

物置1(玄関正面)



団詰所



洗面所・1階便所(共通)

天井：ジョイント石膏ボード(7)9.5mm下地 ビニールクロス貼り

壁：ジョイント石膏ボード(7)12.5mm下地 ビニールクロス貼り

巾木：ビバ(7)18mm OSCL塗 H=100

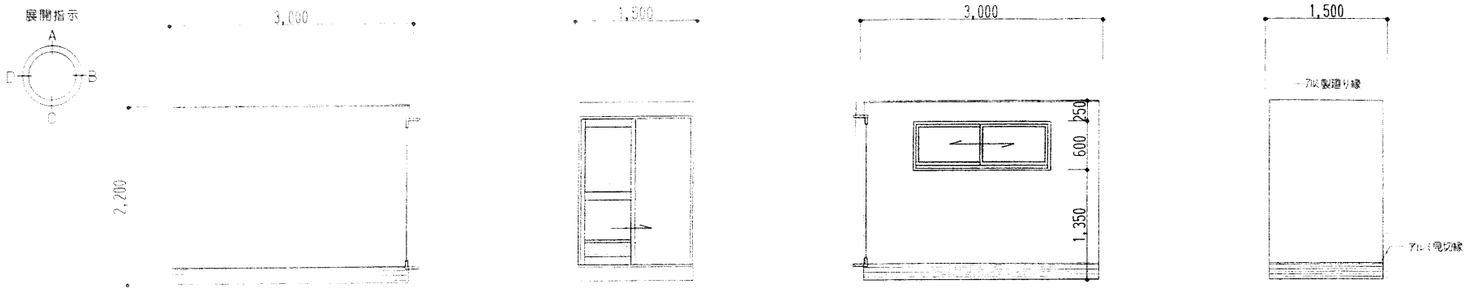
床：モルタル塗下地 長尺ビニールシート(7)2.0mm貼り(エポキシ接着)

1階 洗面室

1階便所

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 展開図	縮尺 S=1:50	枚ノ内 図面番号 17 区分 建築意匠

展開図 3　S=1:50

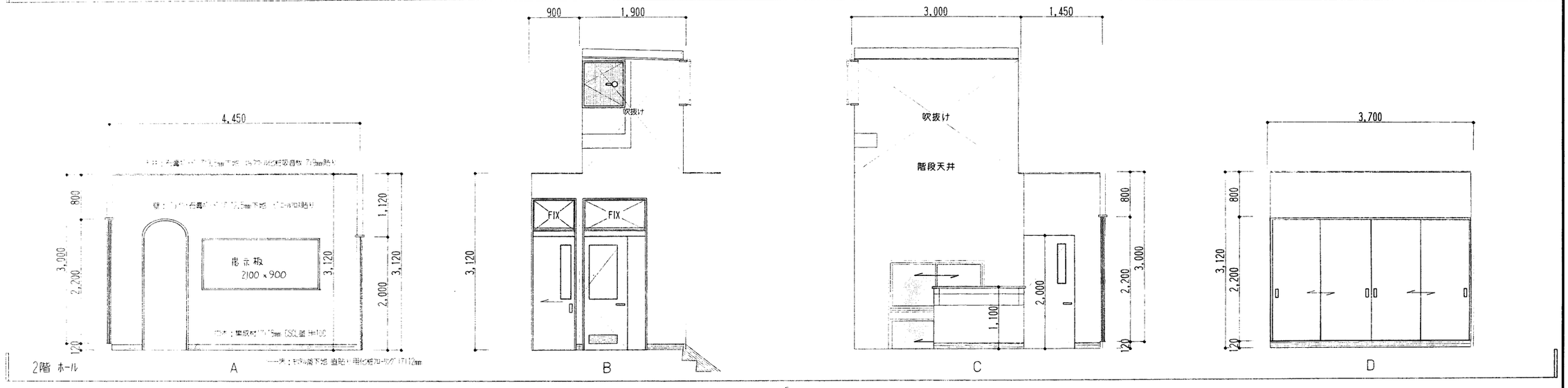


天井：ポリエステルクロス(7)25mm下地　石膏セメント板(7)5mm(フレキ面取材)突付張り　VP-2

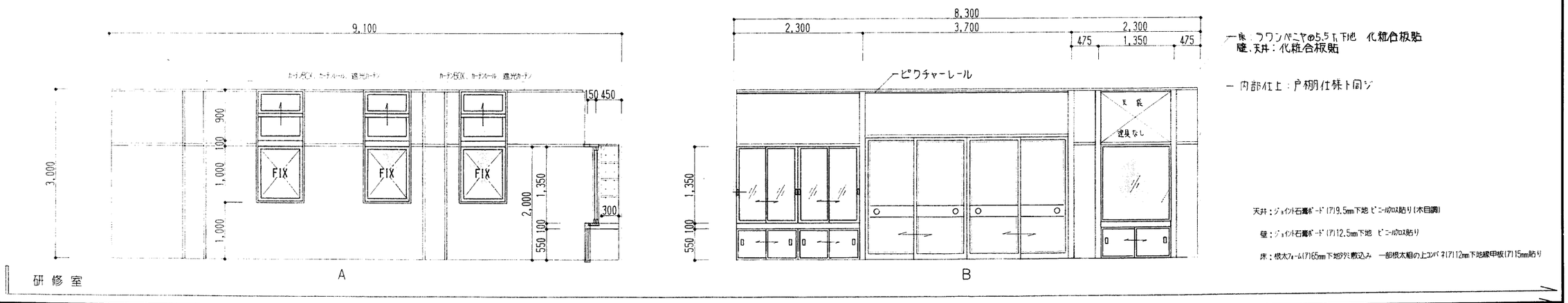
壁：ポリエステルクロス(7)25mm下地　石膏セメント板(7)5mm(フレキ)突付張り　VP-2

巾木：防水切切金ゴテ仕上　H=200(アルミ水切使用)

床：防水切切金ゴテ仕上



一床：ラワンベニヤ@5.5%T,下地化粧合板貼り　壁,天井 化粧合板貼り
地板　ラワンベニヤ@5.5%T,貼り　壁：石コウボード@12.5%貼り



一床：ラワンベニヤ@5.5T,下地　化粧合板貼
壁,天井：化粧合板貼

一 内部仕上：戸棚仕様ト同ジ

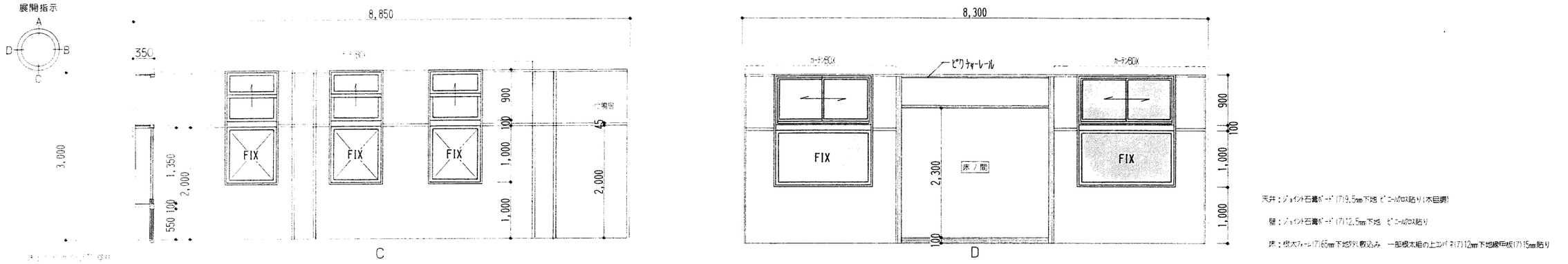
天井：ジョイント石膏ボード(7)9.5mm下地 ビニールクロス貼り(木目調)

壁：ジョイント石膏ボード(7)12.5mm下地　ビニールクロス貼り

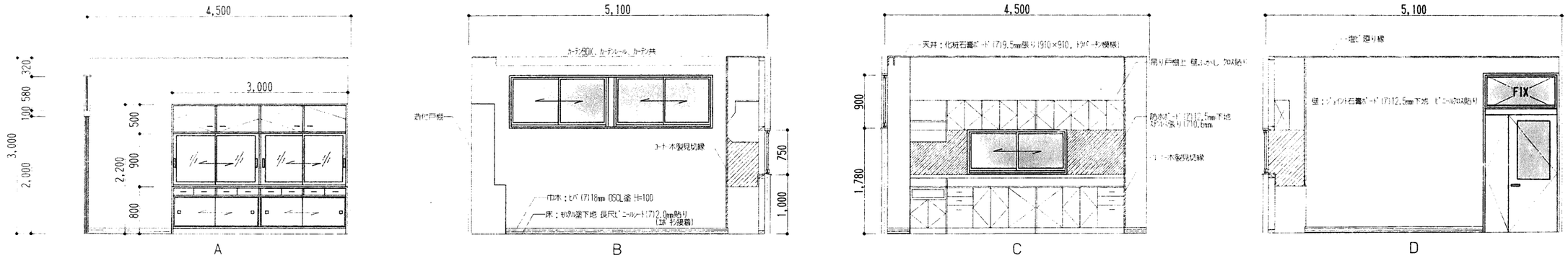
床：根太フォーム(7)65mm下地ダイ敷込み　一部根太組の上コンパネ(7)12mm下地緩衝材(7)15mm貼り

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 展開図	縮尺 S=1:50
						枚ノ内	図面番号 18
						区分	建築意匠

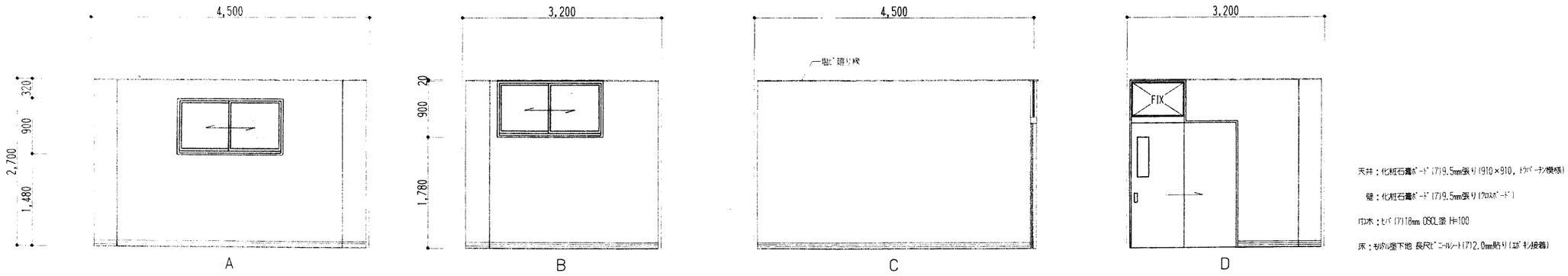
展開図 4　S=1:50



研修室



炊出し訓練室

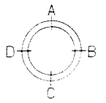


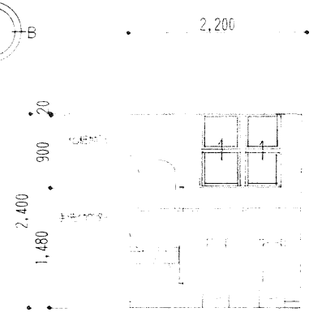
2階 物置 4

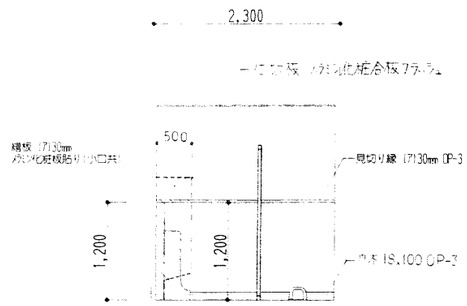
工事名	(仮称)看町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 展開図	縮尺 S=1:50	枚ノ内 図面番号 19 区分 建築意匠

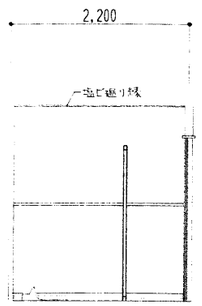
展　開　図　S=1:50

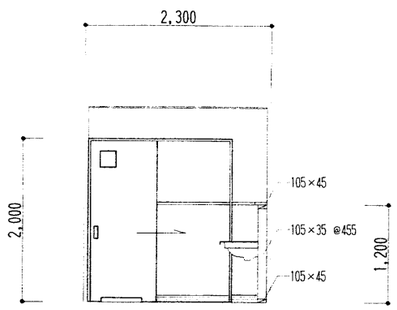
展開指示









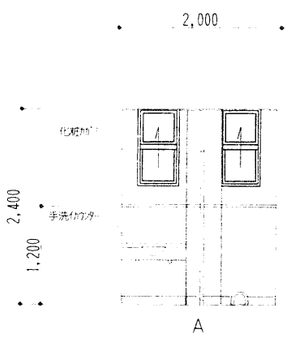


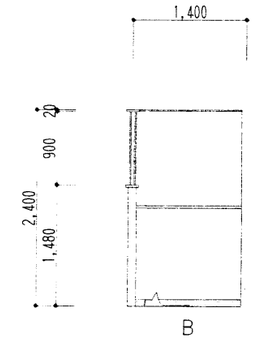
天井：ジョイント石膏ボード(7)9.5mm下地 ビニールクロス貼り

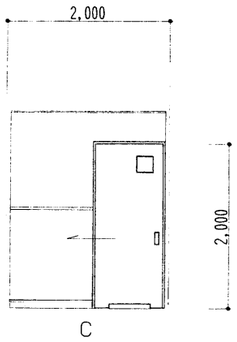
腰壁(1,200H)：シージング石膏ボード(7)12.5mm下地不燃メラミン化粧板貼り
小壁　　：ジョイント石膏ボード(7)12.5mm下地 ビニールクロス貼り

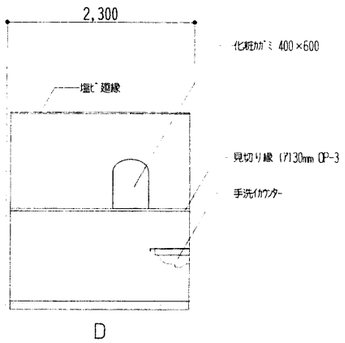
床：モルタル塗り下地 長尺ビニールシート(7)2.0mm貼り(エポキシ接着)

2階　男子便所







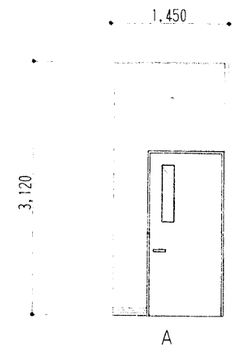


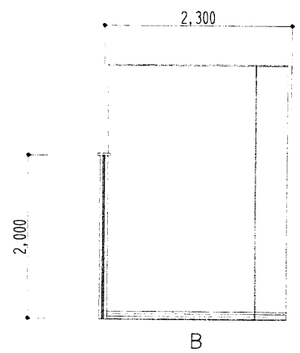
天井：ジョイント石膏ボード(7)9.5mm下地 ビニールクロス貼り

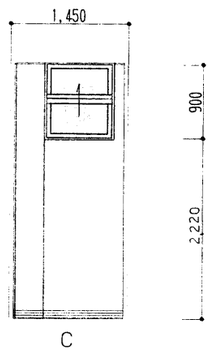
腰壁(1,200H)：シージング石膏ボード(7)12.5mm下地不燃メラミン化粧板貼り
小壁　　：ジョイント石膏ボード(7)12.5mm下地 ビニールクロス貼り

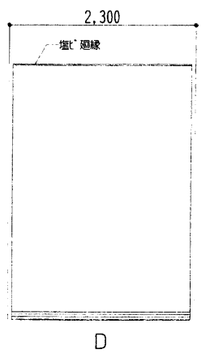
床：モルタル塗り下地 長尺ビニールシート(7)2.0mm貼り(エポキシ接着)

2階　女子便所









天井：化粧石膏ボード(7)9.5mm張り (910×910，トラバーチン模様)

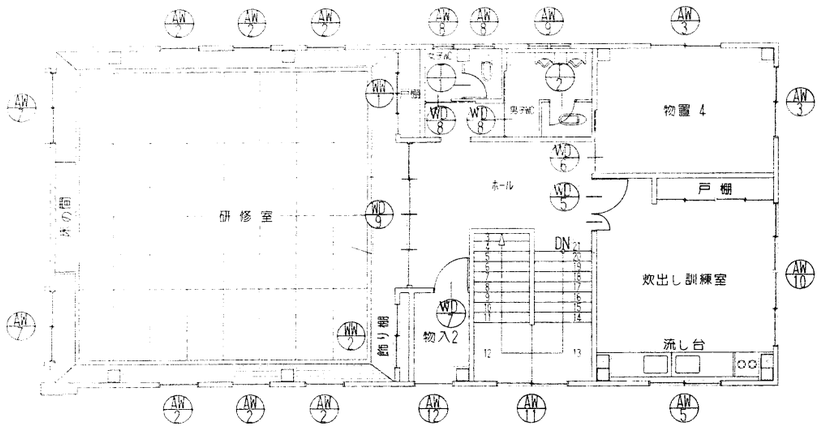
壁：化粧石膏ボード(7)9.5mm張り (クロスボード)

巾木：ヒバ(7)18mm 050L塗 H=100

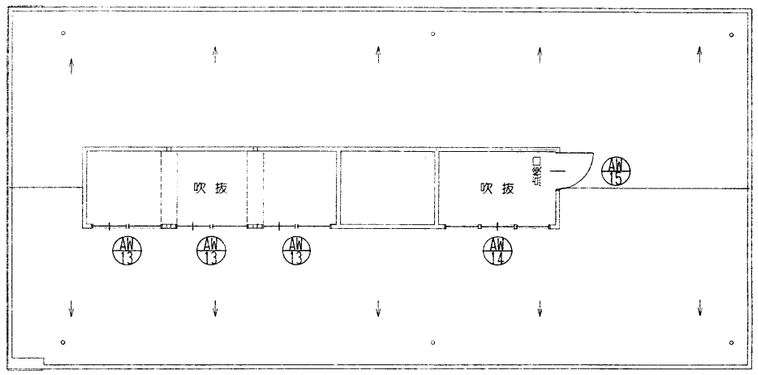
床：モルタル塗り下地 長尺ビニールシート(7)2.0mm貼り(エポキシ接着)

2階　物入

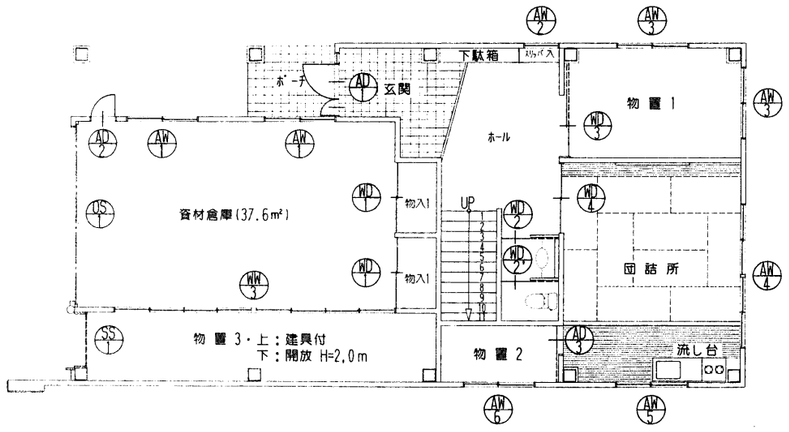
工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 展開図	縮尺 S=1:50	枚ノ内 図面番号 20 区分 建築意匠



2 階 建 具 KEY PLAN　S=1:100



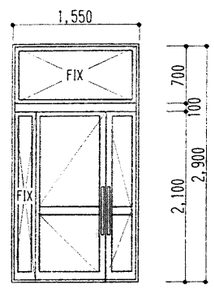
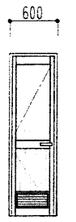
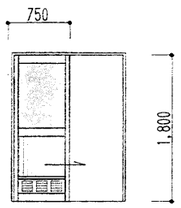
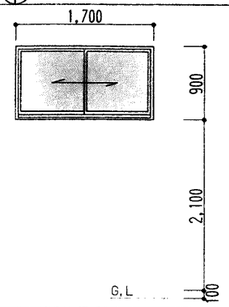
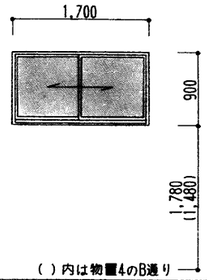
R 階 建 具 KEY PLAN　S=1:100

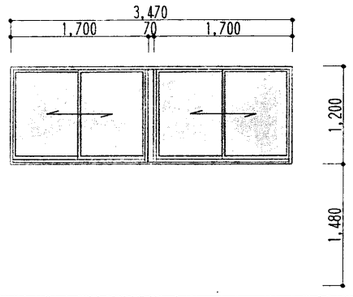
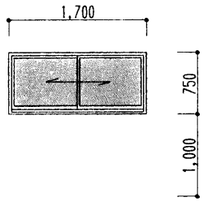
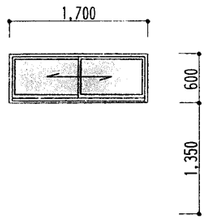
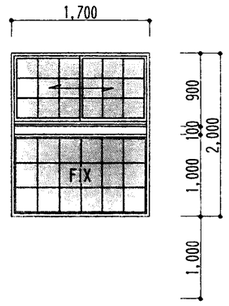
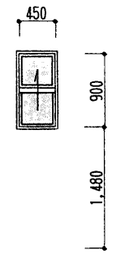
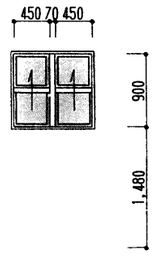


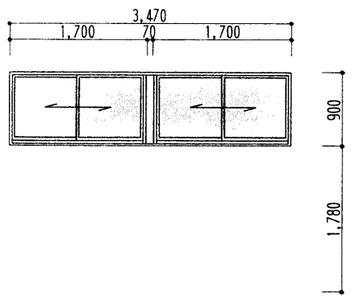
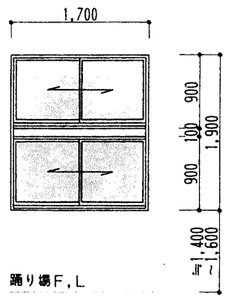
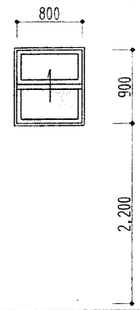
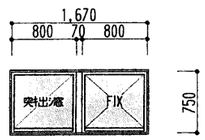
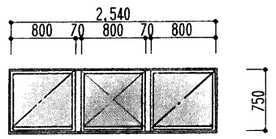
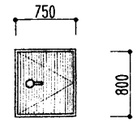
1 階 建 具 KEY PLAN　S=1:100

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1 級建築士事務所 有限会社 伊 五 沢 設 計 1 級建築士登録61377号　伊 五 沢 賢 次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検 図	製 図	特記	図面内容 建 具	縮尺 S=1:100	枚ノ内 図面番号 21 区分 建 築 意 匠

建具表1　S=1:50

符号	AD1 玄関 1ヶ所	AD2 資材倉庫 1ヶ所	AD3 階段下物置 1ヶ所	AW1 資材倉庫 2ヶ所	AW2 1Fホール 研修室 7ヶ所	AW3 物置1,4 4ヶ所
形態						
名称	ランマ，袖付 親子両開き戸	片開き腰パネル戸(半外付)	片引き腰パネル戸(住宅用)	引違イアルミサッシ(半外付)	ハメ殺シ付 上げ下げ窓	引違イアルミサッシ(半外付)
材種	カラーアルミ	同左	同左	同左	同左	同左
硝子	複層ガラス 3+6+6.8(PW)	複層ガラス 3+6+6.8(FW)	型板(7)4mm(強化)	網入硝子(7)6.8mm (FW)	複層ガラス 3+6+6.8 (PW)	複層ガラス 3+6+6.8 (FW)
金物	押棒 ドアチェック シリンダー錠 その他付属品一式	レバー式ハンドル,ドアチェック,シリンダー錠 アルミ換気ガラリ,その他付属品一式	付属品一式	クレセント その他付属品一式	同左	同左
備考	外部アルミ額縁，乙種防火戸仕様	乙種防火戸仕様	換気ガラリ付	乙種防火戸仕様	乙種防火戸仕様 ステンレス網戸	同左

符号	AW4 団結所 1ヶ所	AW5 団結所 炊出し訓練室 2ヶ所	AW6 階段下・物置2 1ヶ所	AW7 研修室 2ヶ所	AW8 女子便所 2ヶ所	AW9 男子便所 1ヶ所
形態						
名称	2連引違イアルミサッシ(半外付)	引違イアルミサッシ(半外付)	同左	ハメ殺シ窓付引違イアルミサッシ(半外付)	上げ下げ窓	2連上げ下げ窓
材種	カラーアルミ	同左	同左	同左	同左	同左
硝子	複層ガラス 3+6+6.8 (PW)	複層ガラス 3+6+6.8 (FW)	同左	複層ガラス 3+6+6.8 (PW)	複層ガラス 3+6+6.8 (FW)	同左
金物	クレセント その他付属品一式	同左	同左	同左	同左	同左
備考	乙種防火戸仕様 ステンレス網戸	同左	同左	乙種防火戸仕様，ステンレス網戸，アルミ格子	乙種防火戸 ステンレス網戸	同左

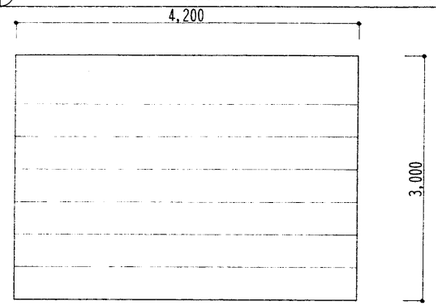
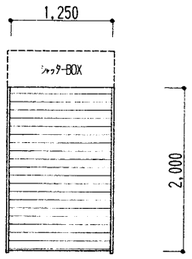
符号	AW10 炊出し訓練室 1ヶ所	AW11 1ヶ所	AW12 物入 1ヶ所	AW13 研修室吹抜 3ヶ所	AW14 ホール吹抜 1ヶ所	AW15 ホール吹抜 1ヶ所
形態		 踊り場F.L				
名称	2連引違イアルミサッシ	2段引違イアルミサッシ	上げ下げ窓	ハメ殺し窓付突き出し窓	同左	片開きアルミフラッシュ
材種	カラーアルミ	同左	同左	同左	同左	カラーアルミ(断熱パネル)
硝子	複層硝子 3+6+6.8(PW)	同左 (FW)	複層ガラス 3+6+6.8 (FW)	同左 (PW)	同左 (PW)	――
金物	クレセント その他付属品一式	同左	同左	ステンレス丁番,カムラッチハンド,フリクションアーム,その他付属品一式	同左	レバー式ハンドル,シリンダー錠 ドアチェック,その他付属品一式
備考	乙種防火戸 ステンレス網戸	同左	同左	乙種防火戸仕様，手動オペレーター装置 1ヶ所	同左	乙種防火戸仕様

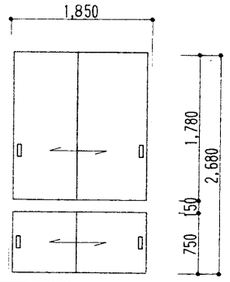
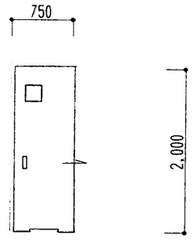
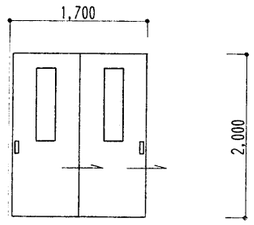
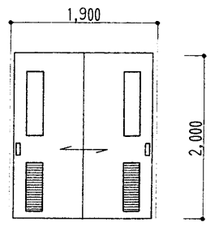
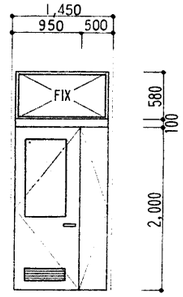
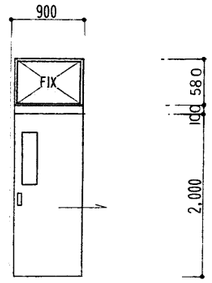
工事名	検図	製図	特記	図面内容	縮尺	図面番号
(仮称)肴町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図				建具表	S=1:50	枚ノ内 22

1級建築士事務所
有限会社 伊五沢設計
1級建築士登録61377号 伊五沢賢次
盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755

区分 建築意匠

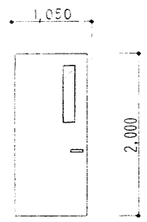
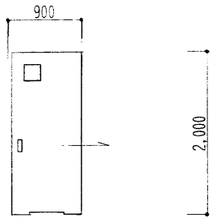
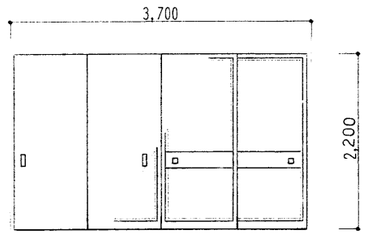
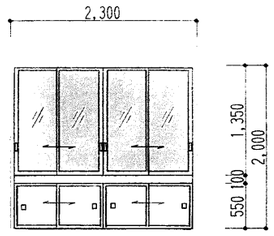
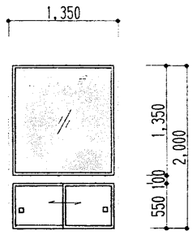
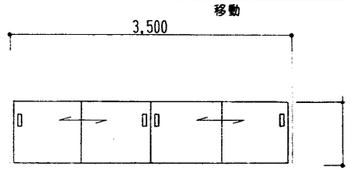
建具表2　S=1:50

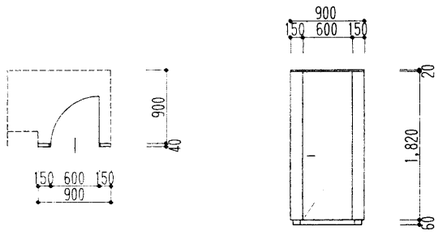
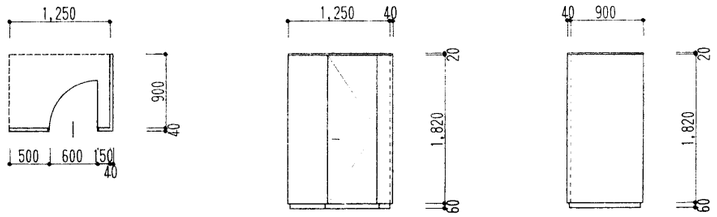
符号	DS 資材倉庫 1ヶ所	SS 物置3 1ヶ所
形態		
名称	ｵｰﾊﾞｰｽﾗｲﾀﾞｰ(ﾊﾞﾗﾝｽ式)	軽量ﾊﾞﾗﾝｽｼｬｯﾀｰ
材種	ｶﾗｰ鋼板(ｱﾙ)0.8mm	同左
硝子	――	――
金物	ｾﾝﾀｰﾛｯｸ　ｳｵｰﾀｰｷｰ付	ｼｬｯﾀｰﾎﾞｯｸｽ(内部納り),ｳｵｰﾀｰｷｰ,その他付属品一式
備考	乙種防火戸仕様　化粧三方枠(ｱﾙ)1.6mm 塗装品	同左

符号	WD1 資材倉庫(物入1) 上下 各2ヶ所	WD2 WD2' 1F洗面所・便所 各1ヶ所	WD3 物置1 1ヶ所	WD4 団結所 1ヶ所	WD5 炊出し訓練室 1ヶ所	WD6 物置4 1ヶ所
形態						
名称	引違イﾌﾗｯｼｭ戸	片引キﾌﾗｯｼｭ戸	片引キ 額入ﾌﾗｯｼｭ戸	引違イ 額入ﾌﾗｯｼｭ戸	ﾗﾝﾏ付親子　開キ 額入ﾌﾗｯｼｭ戸	ﾗﾝﾏ付片引キ 額入ﾌﾗｯｼｭ戸
材種	ｽﾁｰﾙ 綿OP-2 片面 化粧合板貼り, 片面 ｸﾘｱﾍﾞﾆﾔﾙ15.5mm T1張り (見込み 40)	ｽﾁｰﾙ 綿OP-2 化粧合板貼り(見込み 40)	同左	同左	同左	同左
硝子	――	型板(ｱﾙ)4mm	同左	同左	型板(ｱﾙ)4mm,ﾗﾝﾏ透明(ｱﾙ)3mm	同左
金物	引手,ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠,ｽﾃﾝﾚｽU型ﾚｰﾙ	引手,U型ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ	引手,ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠,ｽﾃﾝﾚｽU型ﾚｰﾙ	引手,ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠,ｽﾃﾝﾚｽU型ﾚｰﾙ(ｼｷｲ型込)	ﾚﾊﾞｰ式ﾉﾌﾞﾄﾞﾙ,ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠,ｽﾃﾝﾚｽ丁番 ﾄﾞｱﾁｪｯｸ	引手,ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠,ｽﾃﾝﾚｽU型ﾚｰﾙ
備考		下部ｶﾏﾁ中央ｶｯﾄ WD-2'のみ表示錠付		ｱﾙﾐ換気ｶﾞﾗﾘ		

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 建具表	縮尺 S=1:50	枚ノ内	図面番号 23
								区分	建築意匠

建具表3　S=1:50

符号	WD 1 物入2(2F) 1ヶ所	WD 2 便所(2F) 2ヶ所	WD 3 研修室 1ヶ所	WW 1 研修室戸棚 1ヶ所	WW 2 研修室飾り棚 1ヶ所	WW 3 1F 倉庫3 2ヶ所
形態						
名称	片開き 額入フラッシュ戸	片引きフラッシュ戸	引違いフラッシュアスマ戸	地袋付引違い木製硝子戸	地袋付取り外し式木製戸	引違いフラッシュ戸
材種	スプルス 縁OP 化粧合板貼り (見込み40)	同 左	片面 スプルス アスマ紙貼り(36)縁カシュー塗　片面 クロス貼り(ホール側)	上:形 OL-4回塗, 下:スプルス アスマ紙貼り 縁 カシュー塗 (見込み 36)	同 左	スプルス 縁OP-2 片面 化粧合板貼り, 片面 ラワンベニヤ(7)5.5mm T1張り (見込み 40)
硝子	型板(7)4mm	同 左		強化硝子(7)5mm トーメイ	同 左	——
金物	ノブ一式 シリンダー, ステンレス丁番 ドアチェック シリンダー錠	引手, ステンレスU型レール	引手, ステンレスV型レール(ラキイ埋込)	同 左	同 左	引手, シリンダー錠, ステンレスV型レール(ラキイ埋込)
備考		下部カマチ中央カット	同　左			

符号	1ヶ所	1ヶ所
形態		
名称	トイレブース 見込(7)40mm	トイレブース 見込(7)40mm
材種	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板
硝子		
金物	ステンレス巾木 ステンレス頭ツナギ その他付属品一式	ステンレス巾木 ステンレス頭ツナギ その他付属品一式
備考		

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢 賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 建具表	縮尺 S=1:50	枚ノ内 図面番号 24 区分 建築意匠

1 適用範囲

この配筋基準は、鉄筋コンクリート構造部分の配筋基準であり図面及び特記に記載されていない事項について適用する

参考文献

建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書」平成　年版　社団法人公共建築協会
建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事施工監理指針」平成　年版　社団法人公共建築協会
建設大臣官房官庁営繕部監修「鉄筋コンクリート構造配筋要領」平成　年版　社団法人営繕協会
日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」日本建築学会
建設大臣官房官営繕部監修「建築構造設計基準」平成　年版　社団法人営繕協会

標準図に記載の表示番号は、建築工事共通仕様書中の、該当する図及び表を示す。

2 一般共通事項

2－1 総則

(a) 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。
(b) 鉄筋の径（5章の本文、図、表においてdで示す。）は、異形鉄筋では呼び名に用いた数値とする。
(c) 鉄筋の継手は、重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第73条第5項の規定に適合するもの）とし、適用は、特記による。特記がなければ、梁の主筋は、ガス圧接継手とし、その他は重ね継手とする。
なお、SD295Aは、ガス圧接継手としてはならない。また、D29以上の場合は、重ね継手としてはならない。
(d) 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋を使用してはならない。
(e) ピーアノコイルの鉄筋は、直線製にかけて使用する。
(f) 鉄筋の切断は、シャーカッター又はのこによって行う。ただし、やむを得ない場合は、監督員の承諾を受けて、ガス切断をすることができる。
(g) 鉄筋には、点付け溶接、アークストライクを行ってはならない。ただし、監督員の承諾を受けて、鉄筋を予熱して溶接する場合は、点付け溶接をすることができる。
(h) 鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、7.5.7（溶接施行）(a)による。また、溶接技能者は、7.5.3（溶接技能者）に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。
(i) 鉄筋の末端部には、次の場合にフックをつける。
(1) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合（図5.2.1(a)●印で示す鉄筋）。
(2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（図5.2.1(b)●印で示す鉄筋）。ただし、基礎梁を除く。

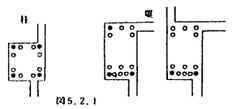


図5.2.1

(3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
(4) 杭基礎のベース筋。
(5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。
(j) 鉄筋の折曲げは、表5.2.1及び表5.2.2による。

2－2 鉄筋の折曲げ

表5.2.1　鉄筋の折曲げ（末端部）

折曲げ角度	折曲げ図		SD295A、SD295B、SD345、SDR295、SDR345 D16以下	SD295A、SD295B、SD345、SDR295、SDR345 D19～D38	SD390 D10～D38	使用箇所
180°		D	3d以上	4d以上	5d以上	柱・梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		D	3d以上	4d以上	5d以上	あばら筋、帯筋、スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°		D	3d以上	4d以上	5d以上	T形及びL形の壁のあばら筋
135°及び90°		D	3d以上	4d以上	5d以上	幅止め筋

(注) 1. Dは、曲げ内法直径を示す。
2. dは、呼び名に用いた数値を示す。

表5.2.2　鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ角度	折曲げ図		SD295A、SD295B、SD345、SD390、SDR295、SDR345 D16以下	SD295A、SD295B、SD345、SD390、SDR295、SDR345 D19～D25	SD295A、SD295B、SD345、SD390、SDR295、SDR345 D25～D38	使用箇所
90°以下		D	3d以上	4d以上		あばら筋、帯筋、スパイラル筋
		D	4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

(注) 1. Dは、曲げ内法直径を示す。
2. dは、呼び名に用いた数値を示す。

2－3 鉄筋の継手及び定着長さ

(k) 重ね継手及び定着の長さは、次による。
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(1) 鉄筋の継手及び定着
鉄筋の継手及び定着の長さは、表5.2.3による。
なお、コンクリートの設計基準強度（F_c）が180kgf/cm²（18N/mm²）の場合は、L_1及びL_2のみは、表5.2.3の値に5dを加えたものとする。

5.2.3表　鉄筋の継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	設計基準強度 F_c(kgf/cm²)(N/mm²)	フックなし L_1	フックなし L_2	フックなし L_3 小梁	フックなし L_3 床版	フックあり L_1	フックあり L_2	フックあり L_3 小梁	フックあり L_3 床版
SD295A SD295B SD345 SDR295 SDR345	210以上 270未満 (21以上 27未満)	40d	35d	25d	10d かつ 150mm (1.1)	30d	25d	15d	—
SD390	210以上 270未満 (21以上 27未満)	45d	40d	25d	10d かつ 150mm (1.1)	35d	30d	15d	—

(注) 1. L_1：継手並びに下記2及び3.以外の定着長さ。
2. L_2：割裂破壊の恐れのない箇所の定着長さ。
3. L_3：小梁及び床版の下端筋の定着長さ。ただし、基礎耐圧版、これを受ける小梁りなどは除く。
4. フックのある場合のL_1、L_2及びL_3は、図5.2.1に示すようにフック部分lを含まない。

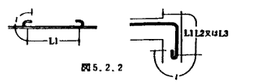
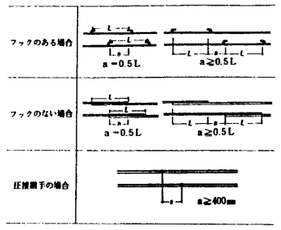


図5.2.2

2－4 隣り合う継手の位置

(a) 隣合う継手の位置は、表5.2.4による。ただし、床版及び壁の場合は除く。
(b) 先組み工法等で柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

5.2.4表　隣合う継手の位置



2－5 溶接金網の継手及び定着

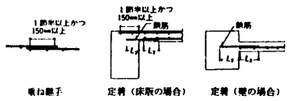


図5.2.3

2－6 スパイラル筋の継手及び定着

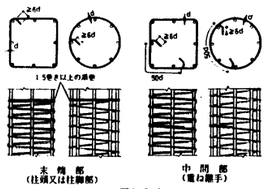


図5.2.4

(l) 鉄筋の組立ては、鉄筋の交差点及び継手部分の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、うま、吊金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、床版のスペーサーは、原則として鋼製とする。また、コンクリートの打放し仕上げとなる箇所には、防錆処理を行ったスペーサーを使用する。
(m) 既に打設したコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋の付け根で急に曲げないで、できるだけ長い距離で修正する。
(n) 設備配管、スイッチ等の設置により、本来に規定する配筋ができない場合は、監督員と協議する。

2－7 鉄筋（溶接金網を含む）の最小かぶり厚さ

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、特記による。特記がなければ表5.2.5による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを、径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

5.2.5表　鉄筋の最小かぶり厚さ（mm）

構造部分の種別			すべてのコンクリート
土に接しない部分	床版、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20
		仕上げなし	30
	柱、はり、耐力壁	屋内 仕上げあり	30
		屋内 仕上げなし	30
		屋外 仕上げあり	30
		屋外 仕上げなし	40
	擁壁、耐圧床版		40
土に接する部分	柱、はり、床版、壁		*40
	基礎、擁壁、耐圧床版		*60
特殊な高熱を受ける部分			60

(注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 仕上げありとは、モルタル塗りなどの仕上げのあるものとし、吹付け塗装などの鉄筋の耐久上有効でない仕上げりものを除く。
3. 床版、はり、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. くい基礎の場合のかぶり厚さは、くい天端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所には、表5.2.5は適用しない。

(c) 鉄筋相互のあきは、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 鉄筋の径（呼び名に用いた数値d）の1.5倍。

Dは、鉄筋の最外径

図5.2.5

(d) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(c)による。

2－8 スペーサーの個数の標準

部位	床版	壁	はり	柱
個数	上端：1.2個/m² 程度 下端：1.2個/m² 程度	通常の階高では高さ方向2段、値1.2m以内ごと	側面、底面とも2mに1ケ所	通常の階高では高さ方向2段、1辺当り2箇所

注「監理指針」による

3 基礎

3－1 直接基礎

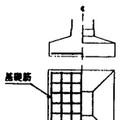
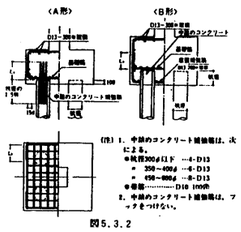


図5.3.1

3－2 杭基礎の場合

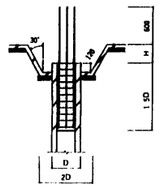
既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、図5.3.2のA形又はB形とし、適用は、特記による。特記がなければA形とする。
なお、中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。



(注) 1. 中詰のコンクリート補強筋は、次による。
●杭径300φ以下 …4-D13
〃 350～400φ …6-D13
〃 450～600φ …8-D13
●帯筋……D10 100ピッチ
2. 中詰のコンクリート補強筋は、フックをつけない。

図5.3.2

H＜Dの範囲で杭が下がった場合



3－3 布基礎の場合

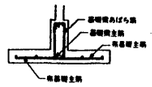


図5.3.3

3－4 基礎接合部の補強

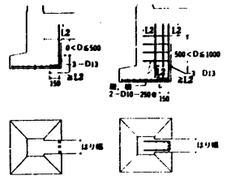


図5.3.4

4 基礎ばり

4－1 基礎ばり筋の継手及び定着

(a) 一般事項
(1) 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
(2) はり筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ずはり内に定着する場合は、5.3.5図による。
(3) はり筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから定着させる。

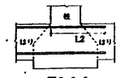
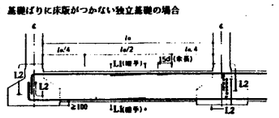


図5.3.5

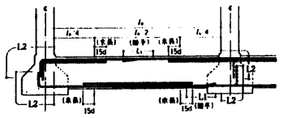
(b) 基礎ばりに床版がつかない独立基礎の場合



(注) 1. 図示のない事項は、5.5.1による。
2. ━━━ 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

図5.3.6

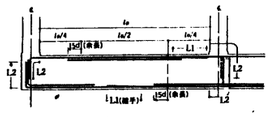
(c) 基礎ばりに床版がつく独立基礎の場合



(注) 1. 図示のない事項は、5.5.1による。
2. ━━━ 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

図5.3.7

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合



(注) 1. 図示のない事項は、5.5.1による。
2. ━━━ 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

図5.3.8

4－2 あばら筋、腹筋及び幅止め筋

(a) あばら筋
(1) あばら筋の径及び間隔は、特記による。
(2) あばら筋組立ての形及びフックの位置は、5.5.1(b)による。ただし、環せいが1.5m以上の場合は、図5.3.9によることができる。

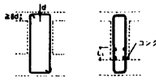


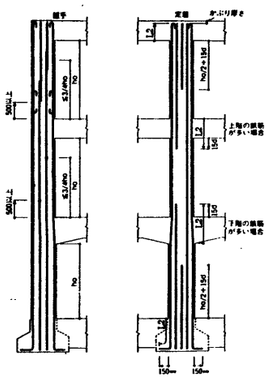
図5.3.9

(b) 腹筋及び幅止め筋
腹筋及び幅止め筋は、5.5.1(b11)(ⅰ)、(ⅱ)及び5.5.1(b14)による。ただし、環せいが1.5m以上の場合は、特記による。
(c) あばら筋の割付け
あばら筋の割付けは、5.5.1(b13)による。
(d) 打増し補強筋は、5.5.1(c)による。

5 柱

5－1 柱筋の継手及び定着

(a) 一般事項
(1) 継手及び圧縮中心位置は、はり上端から500mm以上かつ$\frac{1}{6}h_n$（h_nは柱の内のり高さ）以下とする。
(2) 継手長さはL_1とし、定着長び余長は、5.4.1図による。ただし、柱頭定着長さL_2が曲線できない場合は、特記による。
(b) 柱の主筋

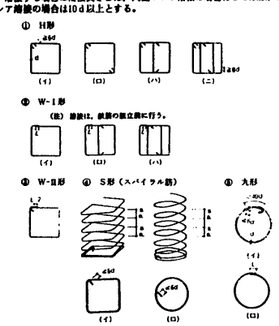


(注) 1. 5.2.1(i)(1)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2. 隅合う継手の位置は、表5.2.4による。
3. 継手、定着は、すべての階に適用できる。

図5.4.1

5－2 帯筋

(a) 帯筋は、特記による。
(b) 帯筋組立ての形は、図5.4.2とし、種別は特記による。特記がなければ下記による。
(1) 目形とする。
(2) 目形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。
(3) 更に、(1)(2)が困難な箇所は、監督員の承諾を受けて、W－II形とすることができる。
(4) 溶接する場合の溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。



(注) S形において末端及び柱脚の端部は1.5巻以上の巻巻きを行う。

図5.4.2　帯筋の形

(c) フック及び継手の位置は、交互とする。
(d) 帯筋の割付けは、図5.4.3による。

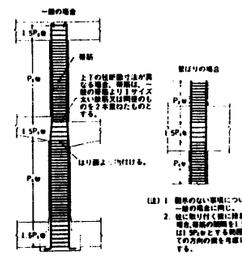
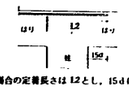


図5.4.3

6 大ばり

6－1 大梁筋の継手及び定着

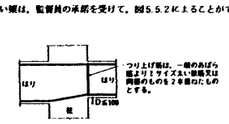
(a) 一般事項
(1) 継手及び圧縮中心位置は、次による。
上端筋　―　中央$L_1/2$区内
下端筋　―　両端$L_1/4$区内
(2) 継手長さは、L_1とし、定着長さ及び余長は、図5.5.3及び図5.5.4による。
(3) 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図5.5.1による。



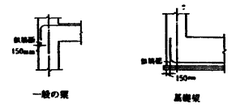
(注)上階に柱がある場合の定着長さはL_2とし、15dは含まないものとする。

図5.5.1

(4) 梁主筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから梁に降ろす。
(5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は、特記による。特記がなければ1：4とする。
(6) 段違い梁は、監督員の承諾を受けて、図5.5.2によることができる。

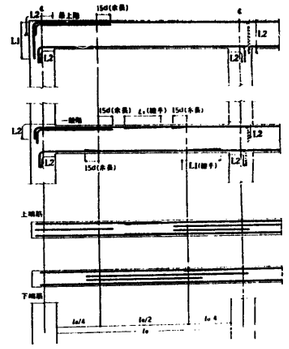


(7) 主筋通げ寸法の標準値



注「監理指針」による

(b) ハンチのない場合



(注) 1. 5.2.1(i)(1)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2. ━━━ 印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着を示す。

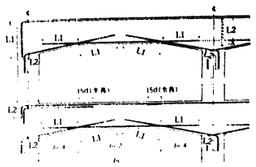
図5.5.3

最上階のはりの上端筋は、定着部分の柱の帯筋のみで周囲が無筋に近く、コンクリートが拘束されていないため割裂破壊を起こしやすくなります。そのため定着長さとして有効な部分は、梁に隣した柱さけがとるとことにし、外端部の場合はL_1、内端ではL_2とします。ただし、上端筋が2段配筋されているときの2段目の鉄筋はかぶり厚が大きくなるのでこの限りではありません。

注「鉄筋コンクリート構造配筋要領」平成　年度版による

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 配筋標準図No1	縮尺 —	枚ノ内 図面番号 25 区分 建築構造

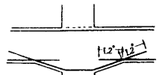
(c) ハンチのある場合



(注) 1. 5.2.1(c)に定めた鉄筋には、フックをつける。
2. ━━━ 印は、継手及び余長を示す。
3. はり内定着の端部下端筋が接近するときは、┆┆┆┆ のように引通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。

図5.5.4

(d) ハンチが付いている場合、柱内定着を原則とする。ただし、傾きが1／6以下の場合は折り曲げて通し筋としてもよい。



注 「鉄筋コンクリート造配筋指針同解説」による

6－2 あばら筋，腹筋及び幅止め筋

(a) 一般事項
(1) あばら筋は、特記による。
(2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1000@程度とする。
(3) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150 mm程度とする。
(4) 増打りの場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければ12dとする。

(b) あばら筋組立ての形及びフックの位置
(1) 形は、図5.5.5(1)とする。ただし、L形はりの場合は(ロ)又はハ)及び T形はりの場合はロ)～ニ)とすることができる。

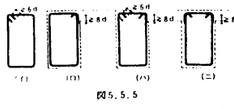
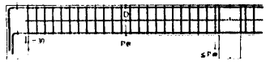


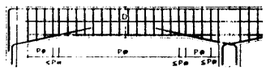
図5.5.5

(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形では床版のつく側、T形では交互とする。
なお、(ハ)の場合は床版のつく側を90°折曲げとする。

(c) あばら筋の割付け
(1) 間隔が一様でハンチのない場合



(2) 間隔が一様でハンチのある場合



(3) はりの端部と間隔の異なる場合

(注) あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

図5.5.6

あばら筋の割りつけは柱面から片押しで割りつけるものとする。割りきれない部分は、決められたピッチよりせまい部分を作って処理する。
ハンチがある場合は、柱面位置、及びつりあげ筋の位置が決まり、ハンチ部分、中央部を決められた間隔または間隔以下に割りつける。
注 「鉄筋コンクリート構造配筋要領」4年版による

(d) 腹筋及び幅止め筋
(1) 一般のはり　(2) 壁ばり

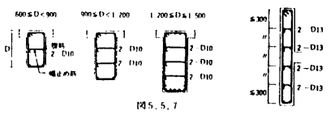
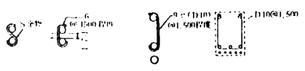


図5.5.7

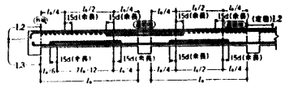
(3) 2段筋の間隔保持のための吊り筋
(a) 1筋の場合　(b) 主筋の場合



7 小ばり及び片持ちばり

7－1 小ばり筋の継手及び定着

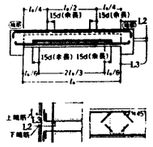
(a) 連続小ばり



(注) 1. ━━━ 印は、継手及び余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、5.3.2及び5.5.1による。

図5.5.9

(b) 単独小ばり

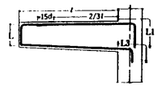


(注) 1. ━━━ 印は、継手及び余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、5.3.2及び5.5.1による。

図5.5.10

7－2 片持ちばり筋の定着

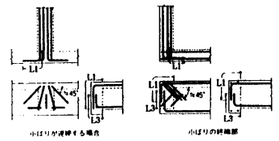
(a) 先端に小ばりのない場合



(注)
1. 図示のない事項は、5.5.1による。
2. ━━━ 印は、余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さL1は、はりせいよりかより厚さを除いた長さとする。
4. はり筋を引通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし、柱に取合う場合は、全数引通せる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。

図5.5.11

(b) 先端に小ばりがある場合

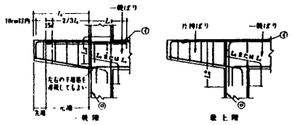


(注) 1. 図示のない事項は、(b)1)による。
2. 上端筋は、小ばり内に斜めに定着する。

図5.5.12

(c) 打増し補強は、5.5.1(c)による。

(d) 一般のはりと連続する場合



㋐のはり筋を折り曲げて定着する鉄筋の本数は柱筋㋑と同数以上とし、残りの本数は片持ばりに引き通して定着してよい。
注 「鉄筋コンクリート造配筋指針同解説」による

8 壁

8－1 一般事項

(a) (1) 壁配筋の継手及び定着の長さは、L2とする。
(2) 主任などを受ける壁及び耐震壁として、特記されたものは、継手長さをL1、定着長さをL2とする。
(3) 継手及び定着のとれない場合は、監督員の承諾を受けて、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とすることができる。
(4) 幅止め筋は、縦、横とともD10-1,000@程度とする。
(5) 一般壁配筋の配筋は、図5.6.1による。

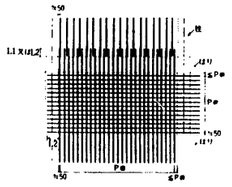


図5.6.1

(b) 壁の基準配筋は、5.6.1表により、種別は特記による。
なお、外部に面する腰壁及び垂れ壁の配筋は、5.6.3表による。

5.6.1表

種別		横筋及び縦筋	断面図
W10		D10-250@シングル	100
W12		D10-200@シングル	120
W15	A	D10-150@シングル	150
	B	D10-100@シングル	
W18	A	D10-200@ダブル	180
	B	D10-150@ダブル	
W20	A	D10-200@ダブル	200
	B	D10-150@ダブル	

(注) 壁筋の配筋順序は規定しない。

(c) 片持ち床版形階段を受ける壁の基準配筋は、5.6.2表により、種別は特記による。

5.6.2表

種別		横筋及び縦筋	断面図	配筋種別(5.2.16表)
KW1	縦筋	D13-200@ ダブル	180	KA1, KA3
	横筋	D10-200@ ダブル		
KW2	縦筋	D13-150@ ダブル	200	KA2, KA4
	横筋	D10-200@ ダブル		

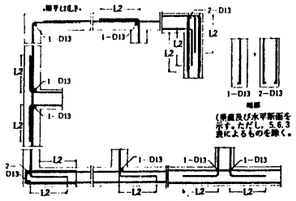
(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) パラペット並びに外部に面する、腰壁及び垂れ壁の配筋

5.6.3表

施工箇所	コンクリート厚さ(mm)	方向	配筋	先端補強筋
パラペット	特記による	縦	D10-150@ ダブル	D10-150@ 4-D13
		横	D10-150@ ダブル	
外部に面する腰壁及び垂れ壁	150	縦	D10-150@シングル	2-D13 4-D13
		横	D10-100@シングル	
	180	縦	D10-200@ ダブル	
		横	D10-150@ ダブル	

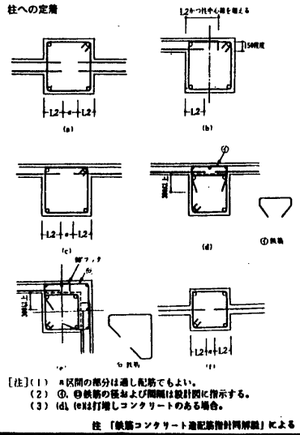
(e) 交差部及び端部の配筋



(注) 1. ( )内は、5.6.1(a)12)による継手長さを示す。
2. U型筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。

図5.6.2

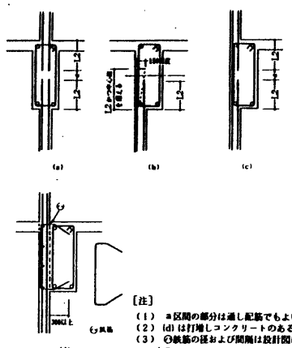
8－2 柱への定着



[注] (1) a区間の部分は通し配筋でもよい。
(2) ⓒ, ⓓ鉄筋の径および間隔は設計図に指示する。
(3) (d), (e)は打増しコンクリートがある場合。

注 「鉄筋コンクリート造配筋指針同解説」による

8－3 はりへの定着



[注]
(1) a区間の部分は通し配筋でもよい。
(2) (d)は打増しコンクリートのある場合。
(3) ⓒ鉄筋の径および間隔は設計図に指示する。

注 「鉄筋コンクリート造配筋指針同解説」による

8－4 壁開口部補強の定着長さ

(a) 壁開口部の補強は、表5.6.4のA形又は表5.6.5のB形とし、適用は、特記による。特記がなければA形とする。ただし、耐震壁を除く。

5.6.4表 A 形

壁の種別		補強筋 縦、横	補強筋 斜め
W12'	W15	1－D13	1－D13
W18'	W20	2－D13	2－D13

5.6.5表 B 形

壁の種別		補強筋 縦、横	補強筋 斜め
W12'	W15	2－D13	1－D13
W18'	W20	4－D13	2－D13

(b) 壁開口部補強の定着長さ

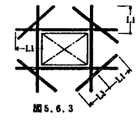


図5.6.3

(c) 開口部が柱及びはりに接する部分又は最大幅が300 mm以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(d) コンセントボックスの壁埋込みの補強
コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は特記による。

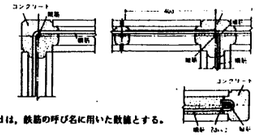
8－5 補強コンクリートブロック造

1項 この項は、空洞コンクリートブロック(以下「ブロック」という)を組積し、鉄筋により補強された耐力壁による小規模な構造物に適用する。
なお、基礎、がりょう、床版などについては、「共仕」5章［鉄筋工事］及び6章［コンクリート工事］による。

(a) 材料
(1) ブロックは、JISA5406(空洞コンクリートブロック)による規格品とし、種類及び厚さは特記による。ただし、種類は、特記がなければC種普通ブロックとする。
(2) コンクリートは、「共仕」6章［コンクリート工事］による。ただし、砂利の最大寸法は、25mmとし、充てん用コンクリートの場合は、鉄筋をそう入する空洞部最小径の1／5かつ20mm以下とする。
(3) 鉄筋は、「共仕」5章1節［材料］による。特記がなければ5.1.1表［異形鉄筋の種別］のB種とし、SD295Aとする。
(4) モルタル用材料は、15.3.1［材料］による。ただし、化粧目地用の砂の粒度は、15.3.1表［砂の粒度］の上級用とする。
(5) ブロックの成型は、種類及び形状別に区別し、特に面倒かりをさけ、乾燥に留意する。

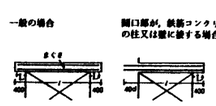
(b) 鉄筋の加工及び組立
(1) 下記に定める以外の事項は、「共仕」5章［鉄筋工事］による。
(1) 壁縦筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、上下端は、がりょう、基礎などに定着する。なお、壁横筋に継手を設けてはならない。
(2) 壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックにかかり掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
(3) 壁筋のかぶり厚さの最小値は、20mmとする。ただし、ブロックフェイスシェルは、かぶり厚さに含まない。
(4) 壁筋の重ね継手長さは45d とし、定着長さは40dとする。

(2) 各部の配筋
(1) 壁の配筋(交差部、端部の補強筋を含む)は、特記による。
(2) 交差部、端部(開口部)の配筋は、8.1.1図による。



(注) dは、鉄筋の呼び名に用いた数値とする。

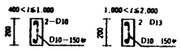
(3) ⓐ, ⓑ, ⓒは鉄筋コンクリート造とし、配筋は特記による。ただし、特記がなければ8.1.2図及び8.1.3図による。
なお、既製まぐさを使用する場合は、監督員の承諾を受ける。



(注) Lは、かぶり厚さを除いた長さ

8.1.2図

まぐさの配筋



(注) まぐさの幅は、ブロック厚さと同じとする。

8.1.3図

8－6 コンクリートブロック帳壁及び塀

2項 この項は、空洞コンクリートブロック、化粧コンクリートブロック及び型枠コンクリートブロック(以下「ブロック」という)を組積し、鉄筋により補強された帳壁及び高さ2.2 m以下の塀に適用する。この項に定める以外の事項は1項による。

(a) 鉄筋の加工及び組立
一般事項
(1) 主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。
なお、主筋に継手を設けてはならない。ただし、帳壁の場合は、溶接長さ5d以上の両面アーク溶接又は溶接長さ10d以上の片面アーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
(2) 壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックにかかり掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
(3) 壁筋の重ね継手長さは、45dとし、定着長さは、次による。
(i) 帳壁配力筋の主体構造部分への定着長さは、25d。
(ii) (i)以外の定着長さは、40d。
(4) ブロック塀の横筋の末端部は、控壁に定着する。ただし、定着長さかとれない場合は、控壁の縦筋にかか掛けとする。
(5) ブロック塀の縦筋は、下部は基礎に定着し、上部は横筋に180°フックによりかか掛けとする。ただし、塀端部の場合は、隣接の空洞部内に定着する。

(b) 各部の配筋
(1) 壁の配筋は、特記による。特記がなければ8.2.2Cによる。

8.2.2表 壁の配筋間隔

用途	主筋	配力筋
内壁	D10—400 ●	D10—400 ●
外壁	D13—400 ●	D10—400 ●

(2) 帳壁の交差部、端部(開口部)の配筋は、図8.2.1による。

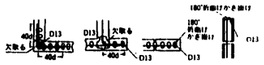


図8.2.1

(b) 控壁
(1) 控壁の配筋は、特記による。
(2) 配筋は、図5.9.4による。

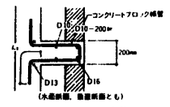


図5.9.4 控壁の配筋

(c) 帳壁が上間コンクリート上に設置される場合の補強は、図5.9.5による。

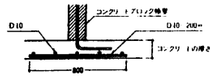


図5.9.5 壁付き上間コンクリートの補強

(d) ブロック塀の控壁は、3.4 m以下ごとに設け、鉄筋コンクリート造又は型枠コンクリートブロック造とし、取合い及び配筋方法は、図8.2.2及び図8.2.3による。

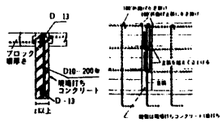


図8.2.2

図8.2.3

9 床　版

(a) 一般事項
(1) 床版の基準配筋は、表5.7.1から表5.7.4により、配筋種別及び厚さは、特記による。
配筋は、中央から割付け、端部は定められた間隔の1／2以下とする。
なお、表5.7.1の㋐, ㋑, ㋒, ㋓の位置は、図5.7.1による。

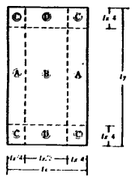


図5.7.1

(2) 鉄筋の継手長さは、L1とする。
(3) 定着長さ及び受け筋
定着長さ及び受け筋は、図5.7.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図5.7.3により縦内に定着する。
なお、E形及びF形配筋の場合は、(b)13)による。

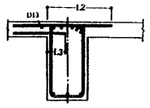


図5.7.2

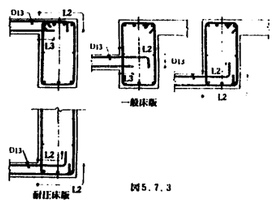
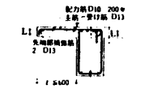


図5.7.3

(b) E形及びF形基準配筋
(i) 一般部

表5.7.3 E形基準配筋

配筋種別		主筋
E1	L	D10, D13-200@
	F	
E2	L	D10-200@
	F	

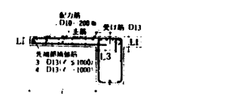


(注) 1. 先端の折曲げ長さL1は、床版厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. 床版に段差のない場合は、主筋を引き通して床版に定着してもよい。

図5.7.6 E形基準配筋図

表5.7.4 F形基準配筋

配筋種別		主筋	配筋種別		主筋
F1	L	D13-100@	F4	L	D10, D13-250@
	F	D13-200@		F	D10-200@
F2	L	D13-150@	F5	L	D13-250@
	F	D13-300@		F	D10-400@
F3	L	D10, D13-150@			
	F	D10, D13-300@			



(注) 1. 先端の折曲げ長さL1は、床版厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. 床版に段差のない場合は、主筋を引き通して床版に定着してもよい。

図5.7.7 F形基準配筋図

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢 賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL0196(41)-5755	検図	製図	特記

図面内容	配筋標準図No2	縮尺	—
枚ノ内	図面番号	26	
区分	建築構造		

(b) 先端に壁が付く場合

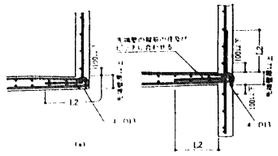


図5.7.8

(a) 出隅部
① 補強の配筋は、特記による。特記がなければD10 @100のダブルとする。配筋方法は、図5.7.9による。
② 出隅受け部（図5.7.9の斜線部）の配筋は、特記による。

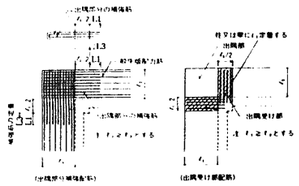


図5.7.9

(b) 壁付き床版
床版に上端筋がなく、壁が付いている場合には、図5.7.12の補強筋を入れる。

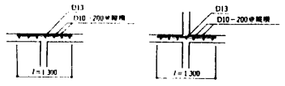


図5.7.12

(c) 上間床版の打継き補強筋
基礎ばりと床版を一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は特記による。特記がなければ5.7.13図による。ただし、上間床版は上間に接する床版でC形又はD形の配筋によるものをいう。

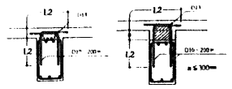


図5.7.13

(d) 上間コンクリートの補強筋
上間コンクリートの補強筋は特記による。
なお、基礎ばりとの接合部は図5.7.14による。

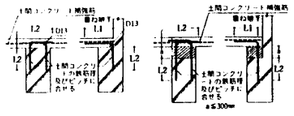


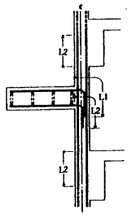
図5.7.14

10 階　段

階段の基準配筋は、5.8.1表及び5.8.2表により、形状、寸法及び配筋種別は、特記による。
(a) 片持ち床版形

5.8.1表　片持ち床版形基準配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図	D13 D13 D10-300@ D10-300@ 120	2-D13 D13 D10-300@ D10-300@ 120
配筋種別	KA3	KA4
配筋図	D10-300@ 170 D13 170 D11	D10-300@ 170 D13 170 2-D13



(注) 1. 壁配筋は、5.6.1(c)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから壁に降ろす。
3. 床版配力筋の継手及び定着の長さは、L3とする。

5.8.1図

(b) 二辺固定床版形

表5.8.2　二辺固定床版形基準配筋

配筋種別	床版厚さt (mm)	今域 (上端筋 / 下端筋)
KB1	150	D13-200@
KB2	150	D13-150@
KB3	150	D13-100@
KB4	180	D13, D16-150@
KB5	180	D16-150@
KB6	180	D16-125@
KB7	200	D16-100@

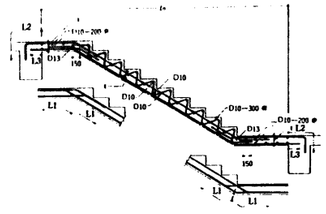
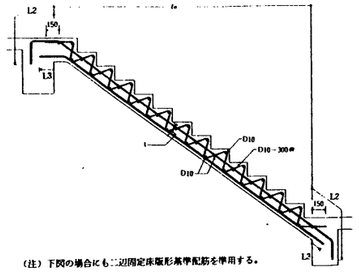


図5.8.2



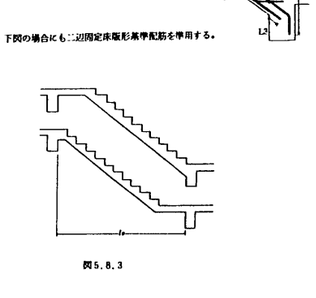
(注) 下図の場合にも二辺固定床版形基準配筋を準用する。

図5.8.3

11 はり貫通孔の補強

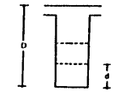
11－1 一般事項

(a) 梁貫通孔の補強は、特記による。特記がなければ次による。
(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図5.9.1による。
(2) 孔の径は、梁せいの1／3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
(3) 孔の上下方向の位置は、図5.9.2による。
(4) 孔の中心位置の限度は、柱及び貫交する梁（小梁）の面から原則として1.2D（Dは梁せい）以上離す。
(5) 孔が並列する場合は、その中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(7) 補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督員の承諾を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、図5.9.3による。
(8) 孔の径が梁せいの1／10以下かつ150mm未満のものは、補強を省略することができる。
(9) 溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは、10mm以上とする。
(10) 溶接金網に付けるリング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



MH形及び M形

図5.9.1



500≦D<700　d≧175
700≦D<900　d≧200
900≦D　d≧250

図5.9.2

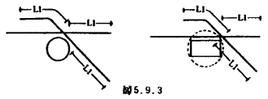


図5.9.3

(2) 補強形式は、表5.9.1から表5.9.3により、配筋種別は、特記による。

「共仕」以外の梁貫通孔補強
(1) 「共仕」以外の梁貫通孔補強として建設技術評価規定（昭和53年建設省告示第976号）第9条1項の規定に基づき建設大臣が評価している製品がある。使用する場合は、製品の形式による適用範囲の他、施工上の留意事項も確認する。
(2) 梁貫通孔補強の評価品には、監理指針表5.10.1及び表5.10.2のものがある。

11－2 H形配筋

表5.9.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H6	6-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) ……は、一般部分のあばら筋を示す。

11－3 MH形配筋

表5.9.3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2	2-2-D13	2-2-D13			
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
MH4	4-2-D13		2-6φ-100@		
MH5	4-2-D16		2-6φ-100@		
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
MH7	4-2-D19				

(注) ……は、一般部分のあばら筋を示す。

11－4 M形配筋

表5.9.2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13			
M3	4-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
M4	6-2-D13	2-6φ-100@		

(注) ……は一般部分のあばら筋を示す。

11－5 配筋の表示

凡例	配筋
斜め筋　4－2－D22	4本のD22が2面入ることを示す
縦筋　4－2－D13	4本のD13があばら筋状に孔の両側に2本づつ入ることを示す
上下縦筋　3－2－D13	孔の上下の部分にそれぞれD13のあばら筋が3本入ることを示す
溶接金網　2－6φ－100@	6φ－100@の溶接金網が2面入ることを示す

注 「建築構造設計基準」平成5年版　社団法人官庁営繕協会による

11－6 配筋種別選定表

配筋種別選定表用せん断補強筋

付表中A～Hは梁のせん断補強筋に対応した記号で下記による。

A	D10-200@	E	D10-100@
B	D10-150@ or D10-D13-200@	F	D13-150@ or D10-D13-125@
C	D10-125@	G	D13-125@ or D10-D13-100@
D	D13-200@ or D10-D13-150@	H	D13-100@

11－7 貫通孔標準補強表

貫通孔補強H形　（$F_s \geq 240$kgf／cm²）

梁せい cm	梁幅cm	30								35								40							
	径 cm	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H
50	10					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
55	15					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
60	15					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
65	15					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
70	20					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
75	20					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
80	20					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
85	20					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
90	20	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
95	20	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
100	20	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
105	20	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
110	20	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
115	25	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
120	25	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
	30	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
	35	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
	40	3	3	4	4	5	5	6	6	3	3	4	4	5	5	6	6	3	3	4	4	5	5	6	6

梁せい cm	梁幅cm	45								50								55							
	径 cm	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H
50	10					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
55	15					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
60	15					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
65	15					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
70	20					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
75	20					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
80	20					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
85	20					2	2	2	2					2	2	2	2					2	2	2	2
90	20	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
95	20	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
100	20	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
105	20	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
110	20	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
115	25	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
120	25	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
	30	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
	35	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5	2	2	3	3	4	4	5	5
	40	3	3	4	4	5	5	6	6	3	3	4	4	5	5	6	6	3	3	4	4	5	5	6	6

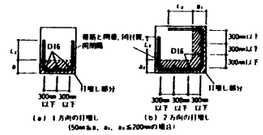
注） 梁せい等が上表の中間にある場合は、補強筋の多い方を採用する。

注 「建築構造設計基準」平成5年版　社団法人官庁営繕協会による

12 その他の補強

12－1 柱の打増し補強筋

(c) 打増し補強
柱の打増し補強は、図5.4.4により、打増し幅が50mm以上200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、特記による。

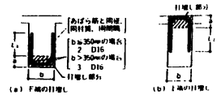


(a) 1方向の打増し（50mm≦a₁, a₂, a₃≦200mmの場合）　(b) 2方向の打増し

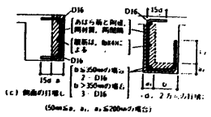
図5.4.4　柱の打増し補強

12－2 はりの打増し補強筋

打増し補強
梁の打増し補強は、図5.5.8により、打増し幅が50mm以上200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、特記による。



(a) F面の打増し　(b) 上面の打増し



(c) 側面の打増し（50mm≦a₁, a₂, a₃≦200mmの場合）　(d) 2方向の打増し

図5.5.8　梁の打増し補強

12－3 壁の打増し補強筋

(a) 打増し補強筋
(1) 壁の打増しは、図5.6.4により、打増し厚さが50mm以上200mm以下に適用する。200mmを超える場合は、特記による。

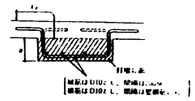


図5.6.4

12－4 段差のある床版の補強筋

150mm以下の段差のある床版の補強は、図5.7.15による。

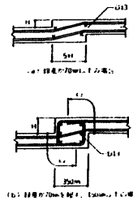


図5.7.15

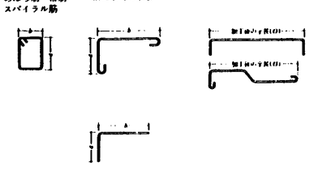
13 その他

13－1 鉄筋の加工寸法の許容差

加工寸法の許容差

項目		記号	許容差(mm)
各加工寸法(1)	あばら筋，帯筋，スパイラル筋	a，b	±5
	径28mm以下の丸鋼，D25以下の異形鉄筋	a，b	±15
	径32mmの丸鋼，D29以上D38以下の異形鉄筋	a，b	±20
加工後の全長		c	±20

「注」(1) 各加工寸法および加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



注 「鉄筋コンクリート配筋指針同解説」による

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL0196(41)-5755	検図	製図	特記

図面内容	配筋標準図No3	縮尺	—
枚ノ内	図面番号 27	区分	建築構造

第1章 総　則

1．1 目 的

この設計標準図は、建築工事の鉄骨に関する基本的事項及び接合部の標準的な詳細について定め、鉄骨工事の質の均一化を図ることを目的とする。

1．2 適用範囲

この設計標準図は、原則として鉄骨鉄筋コンクリート造及び中小規模の鉄骨造の設計に適用する。

1．3 参考文献

建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書」平成5年版　社団法人公共建築協会
建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事施工監理指針」平成5年版　社団法人公共建築協会
建設大臣官房官庁営繕部監修「鉄骨設計標準図」平成2年版　社団法人公共建築協会

第2章 溶接接合

2．1 溶接工法

適用する溶接工法は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフガスシールドアーク半自動溶接及びサブマージアーク自動溶接及びアークスタッド溶接とする。

2．2 溶接継手

溶接継手の種類は、突合わせ溶接、隅肉溶接、部分溶込み溶接、フレア溶接とし、突合わせ溶接の継手形状の種類は、突合わせ継手、T形継手、かど継手とする。

2．3 溶接継手の表示記号及び記載方法

(1) 表示記号

表2．1　溶接工法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分	類		記号
溶接工法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフガスシールドアーク半自動溶接		H
	サブマージアーク自動溶接		A
	アークスタッド溶接		SW
溶接継手	突合わせ溶接	突合わせ継手	B
		T形継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接（注）		2

（注）　両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表側と裏側の両面より溶接を行うことをいう。

区分	記号
現場溶接	⚑
全周溶接	○
全周現場溶接	⚑○
断続溶接の長さ及び間隔	L．P

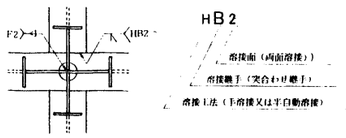


図2．1　溶接継手の記載方法の例

2．4 溶接継手の種類別開先形状

(1) 突合わせ溶接

図2．2　突合わせ継手（B）　（単位mm）

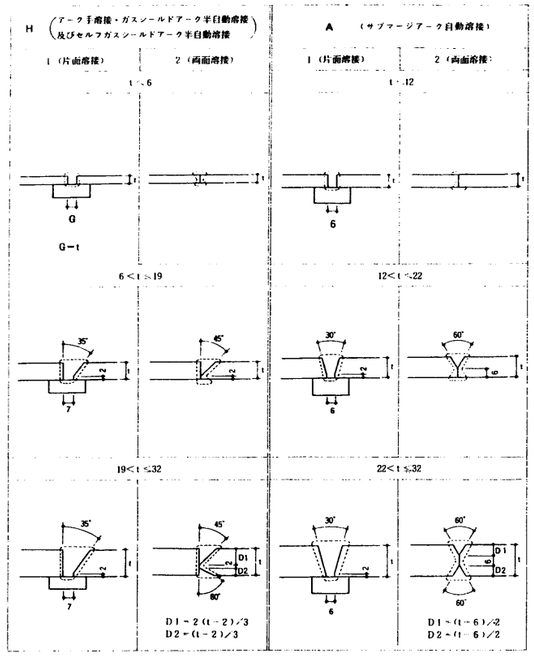


図2．3　T形継手（T）　（単位mm）

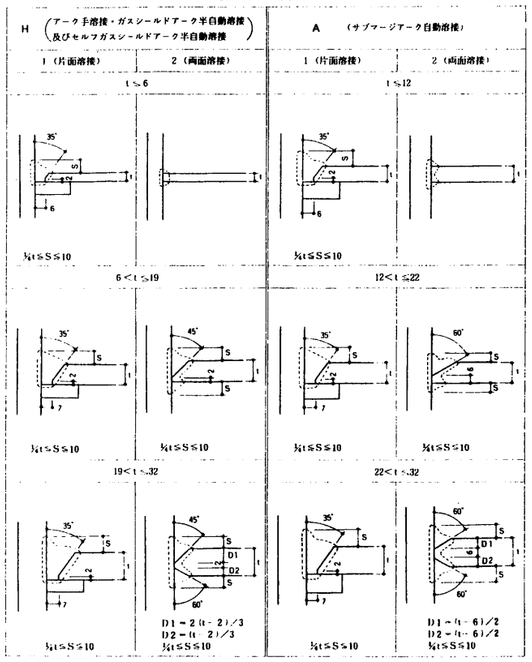
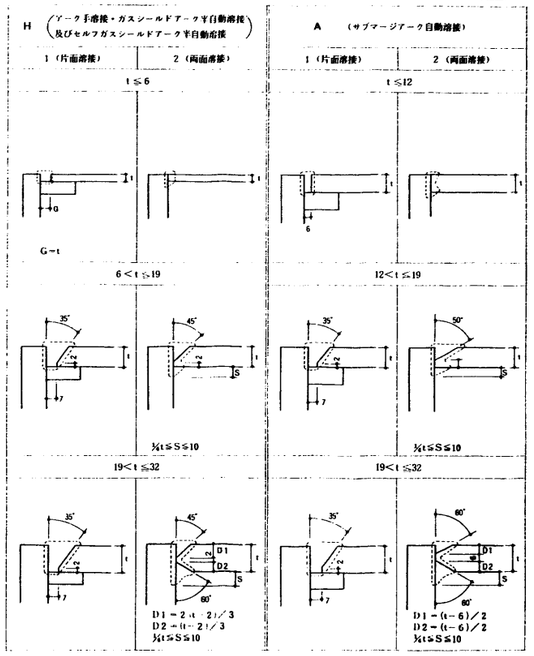


図2．4　かど継手（L）　（単位mm）



(2) 隅肉溶接

隅肉溶接（F）

隅肉溶接（F）の開先標準は、図2．5により隅肉溶接のサイズ（S）は表2．2による。　（単位mm）

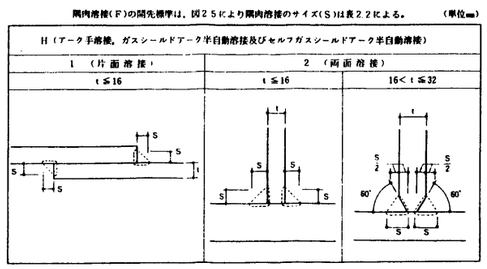


図2．5　隅肉溶接の開先標準

表2．2　隅肉溶接のサイズ

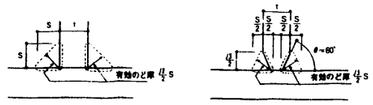
（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	28	30	32
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	10	11	11	12	13	13	14	14	15	16	17	18	19

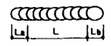
（注）1．隅肉溶接のサイズ（S）は、有効のど厚の和が板厚（t）と等しくなるように次式により求めたものである。

t≦16mmの場合
$S = t/\sqrt{2}$

16mm＜t≦32mmの場合
$S = t/\sqrt{3}$



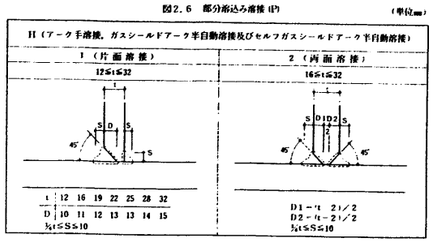
2．設計図書（図面及び仕様書をいう。）に示す断続隅肉溶接の長さは、次図の有効長さ（L）とし、隅肉のサイズ（S）の10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。



（La及びLb≦S）

(3) 部分溶込み溶接

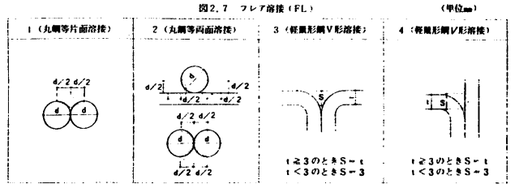
図2．6　部分溶込み溶接（P）　（単位mm）



（注）1．溶接工法
原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接とする。
2．片面溶接
原則として、開先をとらない側にも補強隅肉溶接を行う。（Sは補強隅肉溶接のサイズ）

(4) フレア溶接

図2．7　フレア溶接（FL）　（単位mm）



（注）溶接工法
原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接とする。

2．5 柱現場溶接

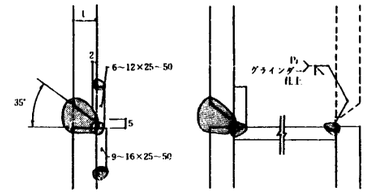
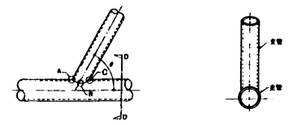


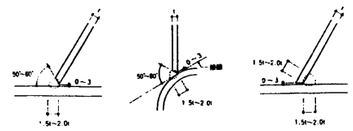
図2．8

2．6 鋼管分岐継手

適用管厚　3.2≦t≦12
交角　30°≦θ≦150°
主管外径は支管外径より大径のものを使用する。



D－D断面図
主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。



ただし、自動機械により開先加工を行う場合には、これ以外の形状をとることができる。

図2．9　鋼管分岐継手詳細

工事名	（仮称）肴町地区コミュニティ消防センター建設（建築主体）工事	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 鉄骨標準図1	縮尺 —	枚ノ内 図面番号 28
	工事設計図							区分 建築構造

2．7　エンドタブ

エンドタブの材質は，母材と同等以上のものとし，形状は同厚・同開先のものを用い，l_kは，図2.10及び表2.3のとおりとする。ただし，あらかじめ溶接付加試験によって溶接端部に欠陥が生じないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合は，この限りでない。

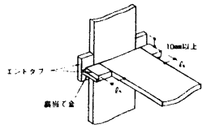


図2.10　エンドタブ

表2.3　エンドタブの長さ　（単位mm）

溶接工法	l_k
手溶接	35 以上
半自動溶接	35 以上
自動溶接	70 以上

（注）1　裏はつり

突合わせ溶接における両面溶接は，原則として裏はつりを行う。裏はつりは健全な溶着部分が現われるまではつり取った後，裏溶接を行う。ただし，自動溶接において完全溶込みが得られたことが超音波探傷試験等で確認できる場合は，裏はつりを省略することができる。

2　裏あて金

(1)　突合わせ溶接の片面溶接に用いる裏当て金は，原則としてフランジ内側に設置し，取付方法は，図2.11による断続隅肉溶接とし，溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。

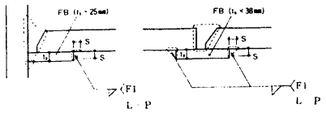


図2.11　裏あて金の厚さ及び溶接

(2)　裏当て金の厚さ，断続隅肉溶接のサイズ及び長さは表2.4，表2.5及び表2.6によるほか，裏当て金の材質は，原則として母材と同等以上のものとする。

表2.4　裏あて金の厚さ　（単位mm）

溶接工法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

表2.5　溶接のサイズ　（単位mm）

裏あて金の厚さ	S
t ≦ 9	5
t ＞ 9	9

表2.6　断続隅肉溶接の長さ　（単位mm）

l_k	溶接の長さ（L）	
	手溶接，半自動溶接	自動溶接
32 以下	30 程度	40 程度
32を越え25未満	40 程度	50 程度
25 以上	50 程度	70 程度

2．8　余盛り

突合わせ継手，かど継手，隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部は，余盛りを行う。その高さの上限は，表2.7による。

表2.7　余盛りの限度　（単位mm）

溶接継手	溶接工法	余盛りの限度
突合わせ継手	手溶接	3
	半自動溶接	4
かど継手	自動溶接	4
隅肉溶接 フレア溶接	手溶接 半自動溶接	3

2．9　スカラップ

スカラップ半径(Sr)は30mmを標準とする。ただし，組立H形鋼の場合は，スカラップ内ウェブフィレットの回し溶接部を避けるためスカラップ半径を35mmとし，現場溶接のトフランジの場合は，図2.13にホッ形状を用いることができる。

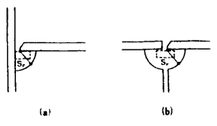


図2.12　スカラップ形状

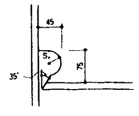


図2.13　現場溶接のトフランジ部スカラップ

2．10　溶接板の段差

突合わせ継手において，突合わせる部材の板厚に差があり，段差が手溶接及び半自動溶接で4mmを超え，自動溶接で3mmを超える場合は，厚い方の板に1／5以下の勾配をとり，突合わせ部の表面をそろえる。ただし，半自動溶接でI形鋼先の場合は，3mmを限度とする。

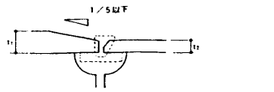


図2.14　溶接板の段差

2．11　線端部補強プレート

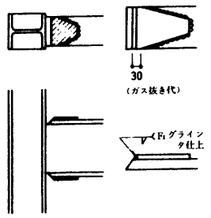


図2.15

第3章　ボルト接合

3．1　ボルトの種類

高力ボルトはJIS B 1186「摩擦接合用高力六角ボルト，六角ナット，平座金のセット」の規格品でセットの種類は2種（F10T）及び建築基準法に基づき認定されたトルシア形高力ボルト2種（S10T），溶融亜鉛めっき高力ボルト（1種F8T相当）とする。

普通ボルト及びナットはJIS B 0205「メートル並目ねじ」とし，下記による規格品とし，仕上げ程度は中とする。

JIS B 1180　（六角ボルト）

JIS B 1181　（六角ナット）

座金はJIS B 1256（平座金）の磨き丸の規格品とする。

3．2　ボルトの長さ，孔径

表3.1　締付け長さに加える長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ（mm）	
	JISの高力ボルト	トルシア形高力ボルト
M12	25	
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40

表3.2　ボルトの呼び径に加える大きさ

ボルトの呼び径	ボルトの呼び径に加える大きさ（mm）
M12，M16	2.0（0.5）
M20～M24	2.0（0.5）

（注）（　）内は，普通ボルトの場合とする。ただし，もや，胴縁の取付け用ボルトの場合は，1.0mmとすることができる。

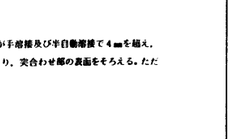
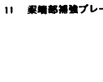


図3.1

3．3　縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は，表3.3を標準とする。ただし，引張材の接合部分において，せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は，ボルト軸径の2.5倍以上とする。



p：ボルト間隔
e：縁端距離

図3.2

表3.3　縁端距離及びボルト間隔　（単位mm）

呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M16	40	60
M20		
M22		
M24	45	70

3．4　千鳥打ちのゲージ及び間隔

千鳥打ちのゲージ及び間隔は，表3.4を標準とする。

g：ゲージ
Pt：千鳥打ちの間隔

図3.3　千鳥打ちのゲージ及び間隔

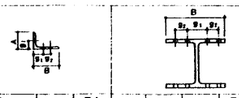
表3.4　千鳥打ちのゲージ及び間隔　（単位mm）

ゲージ g	千鳥打ちの間隔（pt） ねじの呼び	
	M16，M20，M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40

3．5　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は，表3.5の値を標準とする。

表3.5　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径　（単位：mm）



A又はB	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	H	g_3	最大軸径
40	22		10	100*	60		16	40	24	10
45	25		12	125	75		16	50	30	12
50*	30		16	150	90		22	65	35	20
60	35		16	175	105		22	70	40	20
65	35		20	200	120		24	75	40	22
70	40		20	250	150		24	80	45	22
75	40		22	300	150	40	24	90	50	24
80	45		22	350	140	70	24	100	55	24
90	50		24	400	140	90	24			
100	55		24							
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

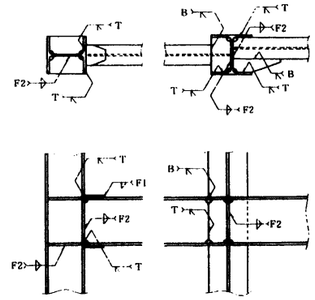
1　H形鋼のB＝300は，千鳥打ちとした時のゲージ標準である。

2　*印の欄のB，および最大軸径の値は，強度上支障がない場合で，最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

第4章　鉄骨標準詳細

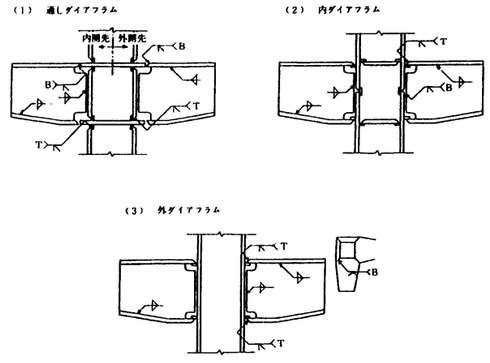
4．1　柱・はり仕口部（H形柱）

図4.1



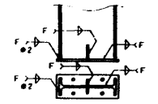
4．2　柱・はり仕口部（BOX柱）

図4.2



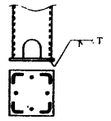
4．3　柱脚仕口部

図4.3

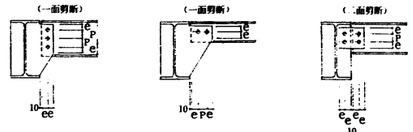


注）柱脚設計条件はピン支持とする。

図4.4



4．4　小ばり仕口部（ピン接合）



ピン接合の大ばり仕口についても上図を準用する。

図4.5

接合部の母材の板厚の差が1mmを超える場合は，フィラー板を用いて補う。

4．5　小ばり仕口部（剛接合）

直交するはりとのせいの差が100以上の場合

直交するはりとのせいの差が100未満の場合

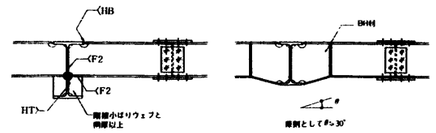


図4.6　剛接小ばり

4．6　はり貫通の補強

図4.7

条件D≦d／4かつℓ1≧3D
ただしDはD1・D2のうち大きい方の値

補強方法

長さがはり幅B～2　3B で，スリーブ径よりひと回り大きい

既製の鋼管の厚も厚いものをすみ肉溶接(脚長・0.7Tw)で補強

Tw：鋼ウェブの厚さか，鋼管の厚の厚いもの

4．7　アンカーボルト

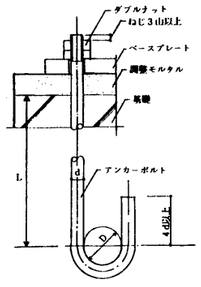


図4.8　アンカーボルト

ベースプレートのボルト穴径はボルト径に5mmを加える。

アンカーボルトはコンクリートに埋め込まれる場合を除きダブルナット締めとする。

アンカーボルトの台直し着手は基礎コンクリートの養生期間を共仕コンクリート工事「せき板の最小存置期間」以上とする。

柱底調整モルタルはモルタルに接するコンクリート面のレイタンスを除去し十分に目荒しを行なってモルタルとコンクリートが一体となるように施工する。

調整モルタルは厚さ30mmを標準とし調合（容積比）はセメント1：砂1とし鉄骨建方まで最低2日（5℃以上にて養生）以上とする。なおモルタル強度は基礎コンクリートと同等以上とする。

建方後のあと詰めモルタルの養生は最低3日（5℃以上にて養生）以上の経過日数後アンカーボルト本締めとする。

D～φ16以下の場合3d以上，φ19以上の場合4d以上とする。

L＝アンカーボルトの有効長さ

左図のアンカーボルト末端フック（180°）は径16mm以上の場合に適用し径13mm以下のボルトの末端フックは原則として135°とする。

4．8　折版の取付け

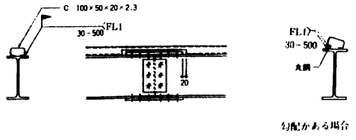
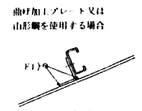


図4.9　折版の取付け

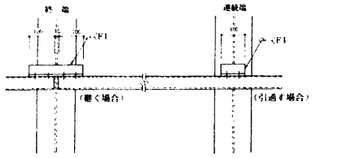
工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容：鉄骨標準図2	縮尺：—	枚ノ内 図面番号 29 区分　建築構造

4.9 母屋胴縁

曲げ加工プレート又は山形鋼を使用する場合



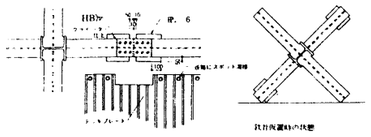
プレート又は平鋼を使用する場合



プレート又は平鋼を使用する場合も同様とする。

図4.10 母屋胴縁

4.10 デッキプレートの取付け



デッキプレート受板は、仮設時の破損を避けるため柱側で50mm、梁側10mmそれぞれ梁端とのあきをとる。

図4.11 デッキプレートの取付け

4.11 鉄筋貫通孔の径

はり筋の定着又は引通しのため鉄骨にあける貫通孔は、表4.1を標準とする。ただし、設計における鉄筋の貫通孔（フープ筋を除く）は、使われる主筋の貫通孔の内、最大の孔径に統一する。

表4.1 鉄筋貫通孔径

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔径 (mm)	24		28	31	35	38	43	46

第6章 大梁継手標準 （保有耐力接合）

継手部耐力表(第1種保有耐力接合)－1 ・SS400級　　高力ボルトF10T

継手部材寸法 H×B×t_w×t_f	ボルト本数 フランジ 配列	ボルト本数 フランジ 本数	ボルト本数 ウェブ 配列	ボルト本数 ウェブ 本数	ゲージ(mm) フランジ a	ゲージ(mm) フランジ a	ゲージ(mm) ウェブ a	添板寸法(mm) フランジ 外側板 厚 t1	幅 a1	内側板 厚 t2	幅 a2	ウェブ 厚 t3	幅 a3	所要応力度時中心間子間距離(見開) M_u 曲げモーメント (t·m)	Q_u せん断力 (t)	保有耐力接合継手部耐力 曲げモーメント (t·m) はり材 $_cM_u$	柱 $_sM_u$	高力ボルト $_{mv}M_u$	必要最大曲げ耐力 $1.2M_u$	せん断力 (t) はり材 $_cQ_u$	柱 $_sQ_u$	高力ボルト $_{mv}Q_u$	せん断耐力時中心間子間距離 (t·m) $Q=1.2M_u$
248×124×5×8	16	1列	4	1列	2	75		90	9	120	9	45	6	170	5.27	13.7	10.1	12.8	12.6*	9.19	23.4	30.6	39.4*	19.9
250×125×6×9	16	1列	4	1列	2	75		90	9	120	9	45	6	170	5.99	16.5	11.6	12.8	14.2*	10.5	28.1	30.6	39.4*	22.8
298×149×5.5×8	20	1列	4	1列	2	90		120	9	155	9	55	6	200	7.71	18.2	14.8	18.3	15.2*	13.7	31.1	44.6	39.4*	29.6
300×150×6.5×9	20	1列	4	1列	2	90		120	9	145	9	55	6	200	8.75	21.5	16.9	18.4	17.2*	15.6	36.8	44.6	39.4*	33.8
346×174×6×9	20	1列	6	1列	2	105		120	9	170	9	65	6	200	12.2	23.7	23.4	26.9	29.6*	20.6	40.5	44.6	39.4*	44.7
350×175×7×11	20	1列	6	1列	2	105		120	9	170	9	65	9	200	14.8	27.6	28.3	27.1	36.7*	25.0	47.2	66.9	59.9*	54.2
354×176×8×13	20	1列	6	1列	3	105		90	9	170	12	65	6	200	17.0	29.2	32.7	30.5	43.6*	29.4	49.9	55.5	59.0*	63.6
396×199×7×11	20	1列	6	1列	3	120		90	9	195	9	70	6	200	19.7	30.0	37.8	35.6	41.7*	32.5	51.3	55.5	59.0*	70.5
400×200×8×13	20	1列	6	1列	3	120		90	9	195	12	70	9	200	23.1	34.3	44.0	40.2	49.5*	38.3	58.6	83.3	88.6*	83.0
404×201×9×15	20	1列	6	1列	3	120		90	12	195	12	70	9	200	26.5	38.6	51.0	48.4	57.4*	44.1	65.9	83.3	88.6*	95.5
446×199×8×12	20	1列	6	1列	3	120		120	9	195	12	70	6	350	25.1	39.6	48.6	45.1	51.2*	41.8	67.7	72.6	59.0*	90.5
450×200×9×14	20	1列	6	1列	4	120		90	12	195	12	70	6	350	28.8	41.9	55.3	54.1	60.1*	48.4	71.6	75.0	76.7*	105
456×201×10×17	20	1列	6	1列	4	120		90	12	195	16	70	9	350	34.2	46.6	65.7	60.8	73.4*	57.8	79.5	112	118*	125
496×199×9×14	20	1列	6	1列	4	120		90	12	195	12	70	9	350	33.0	47.5	63.6	59.8	66.4*	55.9	81.4	112	118*	119
500×200×10×16	20	1列	6	1列	4	120		90	12	195	16	70	9	350	37.3	52.9	72.6	67.1	76.2*	62.8	90.4	112	118*	136
506×201×11×19	20	1列	6	1列	5	120		60	16	195	16	70	12	350	43.6	54.9	84.3	80.8	121*	73.2	93.9	121	177	158
596×199×10×15	20	1列	6	1列	5	120		90	12	195	16	70	9	440	45.2	63.5	88.5	80.5	85.8*	76.3	109	142	148*	165
600×200×11×17	20	1列	6	1列	5	120		90	16	195	16	70	9	440	50.6	69.9	99.5	96.4	130*	85.8	119	142	148*	186
606×201×12×20	20	1列	8	1列	6	120		60	16	195	19	70	12	380	58.6	72.7	114	103	154*	98.8	124	143	212	214
612×202×13×23	22	1列	8	1列	5	120		90	19	195	19	70	12	440	64.1	80.8	127	112	178*	112	138	183	197*	243

●：母材の板のはしあき部破断（端部の引裂き破壊）によりきまった値

継手部耐力表(第1種保有耐力接合)－2 ・SS400級　　高力ボルトF10T

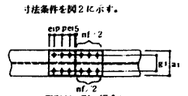
継手部材寸法 H×B×t_w×t_f	ボルト本数 フランジ 配列	ボルト本数 フランジ 本数	ボルト本数 ウェブ 配列	ボルト本数 ウェブ 本数	ゲージ(mm) フランジ a	ゲージ(mm) フランジ a	ゲージ(mm) ウェブ a	添板寸法(mm) フランジ 外側板 厚 t1	幅 a1	内側板 厚 t2	幅 a2	ウェブ 厚 t3	幅 a3	所要応力度時中心間子間距離(見開) M_u 曲げモーメント (t·m)	Q_u せん断力 (t)	保有耐力接合継手部耐力 曲げモーメント (t·m) はり材 $_cM_u$	柱 $_sM_u$	高力ボルト $_{mv}M_u$	必要最大曲げ耐力 $1.2M_u$	せん断力 (t) はり材 $_cQ_u$	柱 $_sQ_u$	高力ボルト $_{mv}Q_u$	せん断耐力時中心間子間距離 (t·m) $Q=1.2M_u$
194×150×6×9*	16	1列	4	1列	2	90		60	9	145	9	55	6	140	5.31	11.8	10.1	13.0	10.9*	8.90	20.2	30.1	39.4*	19.3
244×175×7×11	20	1列	4	1列	2	105		60	9	170	9	65	9	140	9.46	17.3	18.0	18.7	16.8*	16.1	29.7	41.3	59.9*	34.8
294×200×8×12	20	1列	6	1列	2	120		120	9	195	9	70	6	200	14.5	25.2	28.4	26.3	33.5*	24.7	43.8	44.6	39.4*	53.6
298×201×9×14	20	1列	6	1列	3	120		60	12	195	12	70	9	200	17.3	25.6	33.0	36.5	39.1*	28.8	43.8	57.7	88.6*	62.4
336×249×8×12	20	1列	6	1列	3	150		60	9	245	9	95	9	200	22.4	27.4	41.9	42.2	36.3*	34.8	46.9	57.7	88.6*	75.5
340×250×9×14	20	1列	6	1列	3	150		60	9	245	12	95	9	200	25.9	30.9	48.8	47.7	44.9*	40.6	52.7	57.7	88.6*	88.0
390×200×9×16	20	千鳥	8	1列	3	150	40	90	16	195	16	70	9	200	34.0	36.6	64.0	59.0	69.3*	53.3	82.8	112	88.6*	120
390×300×10×16	20	千鳥	8	1列	3	150	40	90	12	295	12	105	9	200	38.6	40.7	72.9	71.1	78.5*	63.1	89.5	83.3	88.6*	137
434×299×10×15	20	千鳥	8	1列	4	150	40	60	12	295	12	105	12	200	42.2	44.1	79.4	78.5	82.5*	68.5	75.3	98.9	141	149
440×300×11×18	20	千鳥	10	1列	4	150	40	60	12	295	16	105	12	200	49.6	48.5	93.9	89.3	125 *	81.2	82.8	98.9	141	176
446×302×13×21	20	千鳥	10	1列	5	150	40	60	16	295	16	105	12	220	57.6	53.4	109	108	146 *	95.6	91.2	121	177	207
482×300×11×15	20	千鳥	8	1列	4	150	40	90	12	295	12	105	9	300	49.0	56.8	93.0	88.5	91.9*	80.4	95.3	112	118 *	174
488×300×11×18	20	千鳥	10	1列	4	150	40	90	12	295	16	105	9	300	56.7	55.8	107	99.5	139 *	93.0	95.3	112	118 *	202
494×300×13×21	20	千鳥	10	1列	5	150	40	60	16	295	16	105	12	330	66.2	62.1	126	120	163 *	109	106	121	177	236
582×300×12×17	22	千鳥	8	1列	5	150	40	90	16	295	16	105	9	440	67.8	71.6	129	138	126 *	114	122	137	148 *	247
588×300×12×20	22	千鳥	8	1列	5	150	40	90	16	295	16	105	9	440	76.5	71.6	146	139	149 *	129	122	137	148 *	280
594×302×14×23	22	千鳥	10	1列	5	150	40	90	19	295	19	105	12	440	87.9	83.5	169	167	215 *	150	143	183	197 *	324
692×300×13×20	22	千鳥	10	1列	6	150	40	90	16	295	16	105	9	530	94.9	92.0	183	166	220 *	162	157	196	177 *	351
700×300×13×24	22	千鳥	10	1列	6	150	40	90	19	295	19	105	9	530	108	92.0	209	197	266 *	186	157	196	177 *	403
708×302×15×28	22	千鳥	12	1列	7	150	40	60	22	295	22	105	16	440	128	101	246	230	349	218	173	209	299 *	472
792×300×14×22	22	千鳥	10	1列	7	150	40	90	19	295	19	105	9	620	122	113	237	224	278 *	210	193	194	207 *	455
800×300×16×26	22	千鳥	12	1列	7	150	40	90	22	295	22	105	9	620	139	113	267	261	396 *	237	193	194	207 *	514
808×302×16×30	22	千鳥	14	1列	8	150	40	60	25	295	25	105	16	500	181	124	311	299	466	274	212	236	342	595
816×303×17×34	22	千鳥	14	1列	8	150	40	60	25	295	28	105	16	500	181	132	340	313	408	300	225	236	342	666
890×299×15×23	22	千鳥	10	1列	8	150	40	90	19	295	22	105	12	710	148	136	309	296	327 *	257	233	297	315 *	566
900×300×16×28	22	千鳥	12	1列	9	150	40	60	22	295	25	105	16	560	176	140	344	308	447	302	249	364	395	605
912×302×18×34	22	千鳥	14	1列	10	150	40	60	28	295	28	105	16	630	208	152	403	378	526	360	269	292	426	780
918×303×19×37	22	千鳥	16	1列	10	150	40	60	28	295	32	105	16	630	225	160	435	397	603	389	274	292	426	842

●：母材の板のはしあき部破断（端部の引裂き破壊）によりきまった値、1）ウェブの内側へりあきを70とする（右図参照）

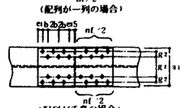
(4) はり・はり継手部

ここでは、フランジ・ウェブ共に高力ボルト接合の場合について示す。

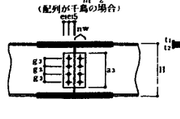
寸法条件を図2に示す。

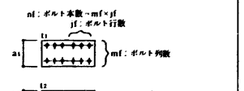


(配列が一列の場合)



(配列が千鳥の場合)





注：フランジの添板厚さは外側板t1、内側板t2とした。

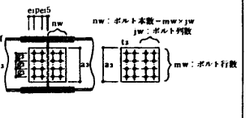


図2

p：ボルトピッチを示す。

e_1：ボルトはしあきで下表による。

	ボルト直径	穴径	p(g)	e_1
フランジ	M 16	17.0	60	40
	M 20	21.5	60	40
	M 22	23.5	60	40
ウェブ	M 16	17.0	40(30)	40
	M 20	21.5	40(30)	40
	M 22	23.5	40(30)	40

(注)H－194×150×6×9シリーズのみウェブの内側e_1を70とする。

b：45mm(千鳥のボルトピッチ)

a_4：ウェブボルト有効電心距離で下表による。

e_{ffmw}：ウェブボルト曲げ耐力有効本数で下表による。

ボルト行数	a_4	e_{ffmw}
1	0	0
2	g_3	1
3	$2\times g_3$	1
4	$2\times g_3$	2
5	$3\times g_3$	2
6	$3\times g_3$	3
7	$4\times g_3$	3
8	$4\times g_3$	4
9	$5\times g_3$	4
10	$5\times g_3$	5
11	$6\times g_3$	5
12	$6\times g_3$	6

第7章 建入れ精度の基準

（日本建築学会編「鉄骨精度検査基準」より）

名称	図		管理許容差	限界許容差
(1) 建物の倒れ e			e：H/4000＋7mm かつe≦30mm	e：H/2500＋10mm かつe≦50mm
(2) 建物のわん曲 e			e：L/4000 かつe≦20mm	e：L/2500 かつe≦25mm
(3) 通り心とアンカーボルトの位置のずれ e	通り心	A機	3mm≦e≦＋3mm	5mm≦e≦＋5mm
		B機	5mm≦e≦＋5mm	8mm≦e≦＋8mm
(4) 柱すえ付け面の高さ ΔH	基準高さ		3mm≦ΔH≦＋3mm	5mm≦ΔH≦＋5mm
(5) 工事現場継手階の階高 ΔH			5mm≦ΔH≦＋5mm	8mm≦ΔH≦＋8mm
(6) 梁の水平度 e			e≦L/1000＋3mm かつe≦10mm	e≦L/700＋5mm かつe≦15mm
(7) 柱の倒れ e			e≦H/1000 かつe≦10mm	e≦H/700 かつe≦15mm

第5章 筋かい

5.1 山形鋼・平鋼

HTB、F10T 鋼材SS400級

サイズ	高力ボルト 本数－径	ガセットプレート 厚×最小必要幅 gt×B	必要溶接長 TYPE1	TYPE2	TYPE3
L 65×65×6	5－M16	9×90	208	118	132
L 75×75×6	5－M16	9×90	241	135	149
L 75×75×9	5－M20	9×125	351	190	204
L 90×90×7	5－M20	9×120	338	183	197
L 90×90×10	5－M20	9×155	469	249	263
L 90×90×13	5－M20	9×195	599	314	328
L 100×100×10	5－M20	9×170	523	276	290
L 100×100×13	5－M20	9×215	671	350	364
注 L 130×130×12	7－M20	12×200	639	338	356
2L 65×65×6	5－M16	9×165	416	222	236
2L 75×75×6	5－M16	9×190	482	255	269
2L 75×75×9	5－M20	12×205	544	290	308
2L 90×90×7	5－M20	12×205	525	281	299
2L 90×90×10	5－M20	12×270	730	383	401
2L 90×90×13	7－M20	12×340	932	484	502
2L 100×100×10	6－M20	12×305	816	426	444
2L 100×100×13	8－M20	12×385	1044	540	558
2L 130×130×12	10－M20	16×365	958	503	527
F・B 75×12	3－M20	9×95	249	139	153
F・B 90×12	3－M20	9×115	298	163	177
F・B 100×12	4－M20	9×130	331	180	194
F・B 100×16	5－M20	12×130	344	190	208
F・B 100×19	6－M20	12×150	408	222	240

注 L－130×130×12のボルトの配置は千鳥打ちとする

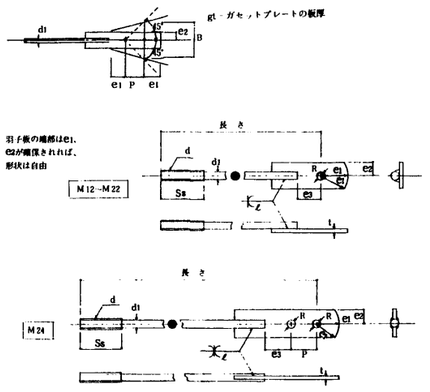
5.2 ターンバックル筋かい

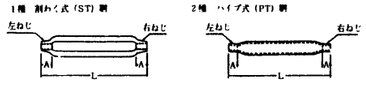
JISターンバックル筋かいHTB、F10T、鋼材SS400級

	サイズ ネジの呼び (d)		M10	M12	M16	M20	M22	M24
ターンバックル筋かい	高力ボルト	本数－径	*1－M12	*1－M16	1－16M	1－M20	1－M22	2－M20
	ガセットプレート	厚さ×必要幅gt×B	6×60	6×60	6×75	9×85	9×85	12×100
	ガセットプレートの最小必要溶接長	TYPE ①	50	50	50	70	70	90
		TYPE ②	35	35	35	49	49	63
		TYPE ③	45	45	45	63	63	81
羽子板ボルトの形状及び寸法	軸径d1	最大	8.99	10.81	14.65	18.33	20.33	21.99
		最小	8.82	10.64	14.46	18.11	20.11	21.77
	調整ネジの長さ Ss		75	100	125	150	165	175
	取付ボルトの穴径 R		12.5	16.5	17.0	21.5	23.5	21.5
	はしあき（最小） e1		30	35	45	50	55	50
	切板製	へりあき（最小）e2	22	22	28	34	38	38
		板厚 t	3.2	4.5	6	9	9	9
	平鋼製	へりあき（最小）e2	19	19	25	32.5	37.5	37.5
		板厚 t	4.5	4.5	6	9	9	9
	ボルト端から取付ボルト穴心のあき（最小）e3		40	47	59	66	73	70
	溶接長さ（最小）ℓ		35	40	55	75	85	85
ターンバックル鋼	1種	L	150	200	250	300	330	350
	2種	A	14以上	17以上	23以上	28以上	31以上	34以上
	1種	重量 kg	0.153以上	0.30以上	0.64以上	1.20以上	1.54以上	2.09以上

注1 *普通ボルトを使用　　注3 作業方法(2)として

注2 2種パイプ式(PT)鋼には、重量規定なし　　破断強度90%の表

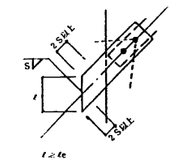




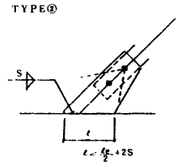
L：鋼の長さ　　A：有効ねじ部の長さ

5.3 ガセットプレートの必要溶接長

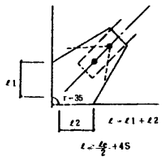
TYPE①



TYPE②

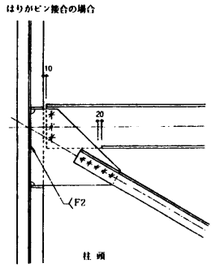


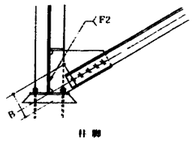
TYPE③



5.4 各部詳細

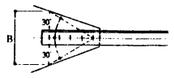
はりがピン接合の場合



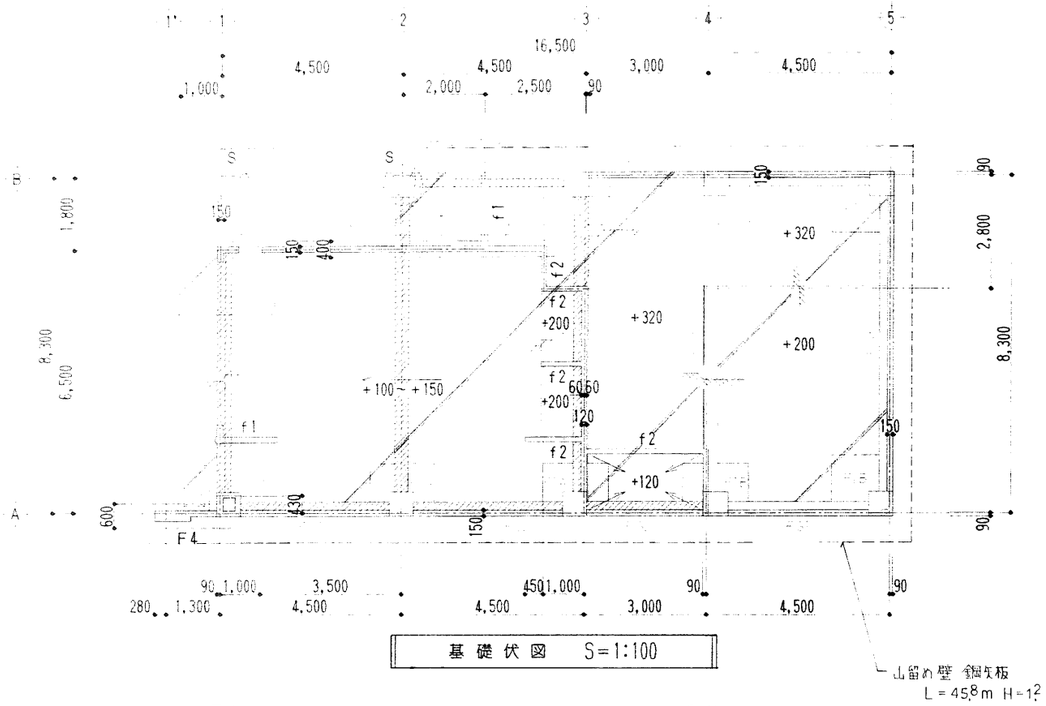


原則としてガセットプレートの幅は材端ボルト位置で上図に示すBの長さを確保することとする。

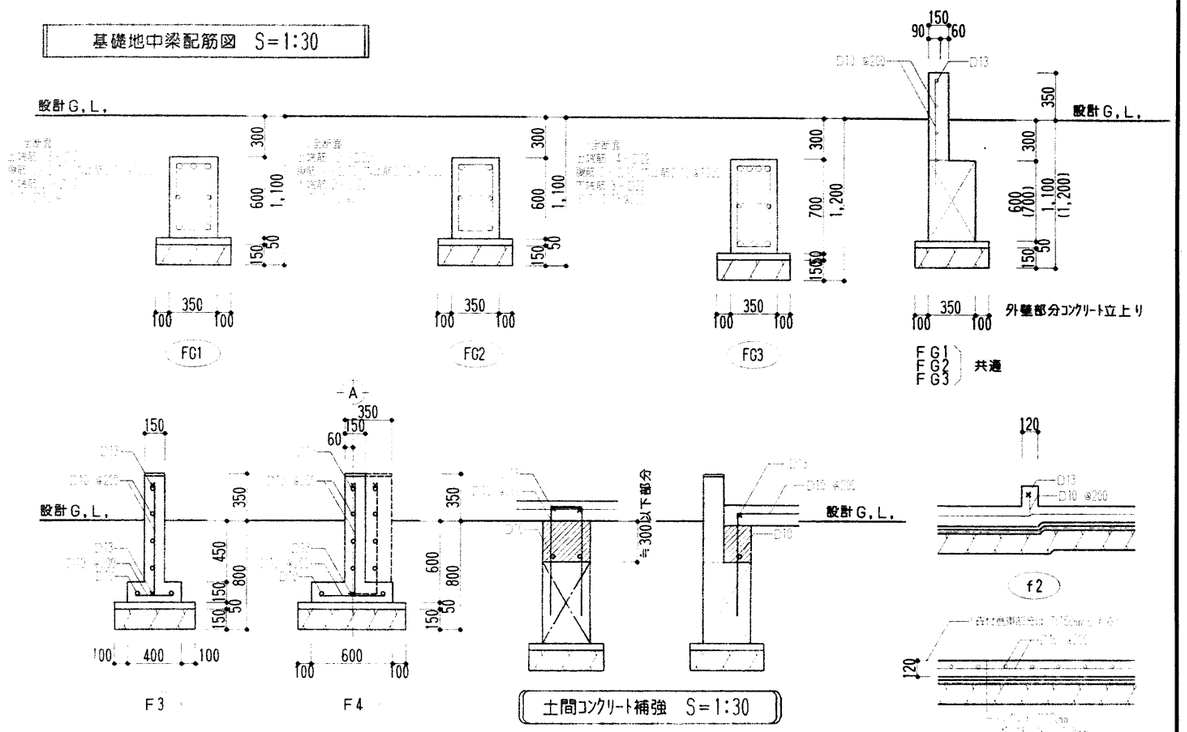
ただし、それによりゲージラインが不一致となる場合はこの限りではない。

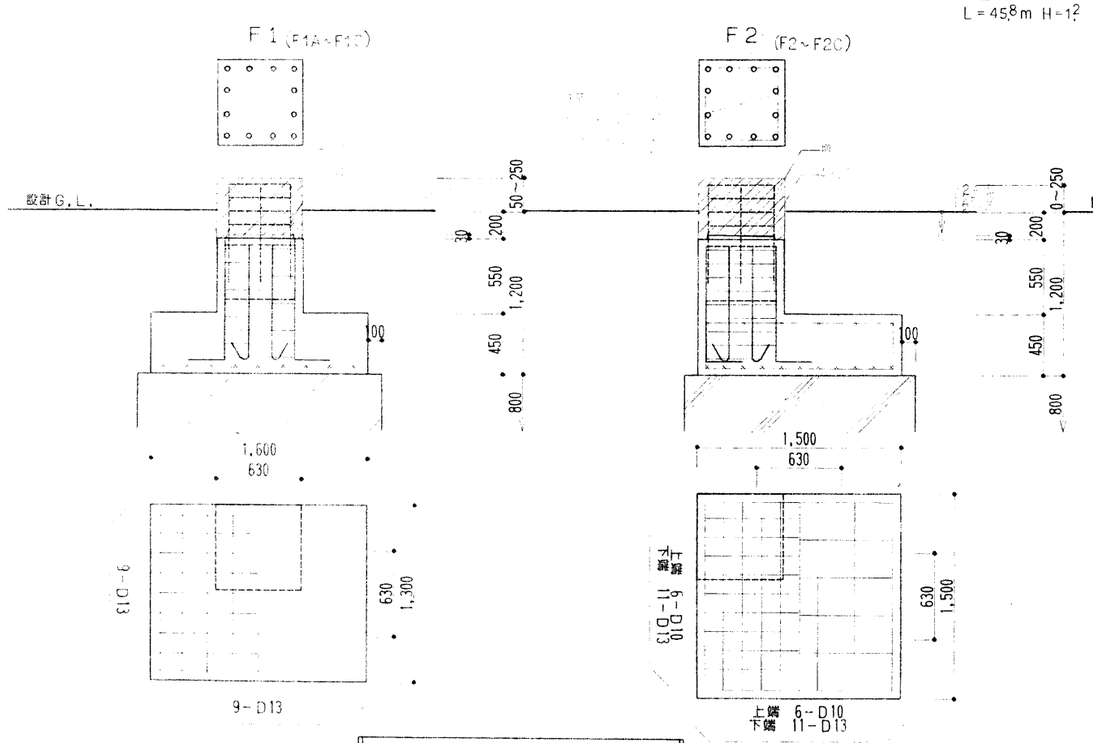


工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 鉄骨標準図3	縮尺 枚ノ内 図面番号 30 区分 建築構造

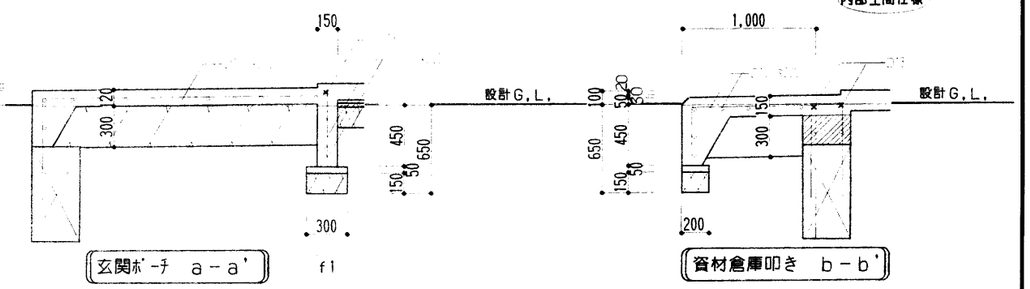


基礎伏図 S=1:100



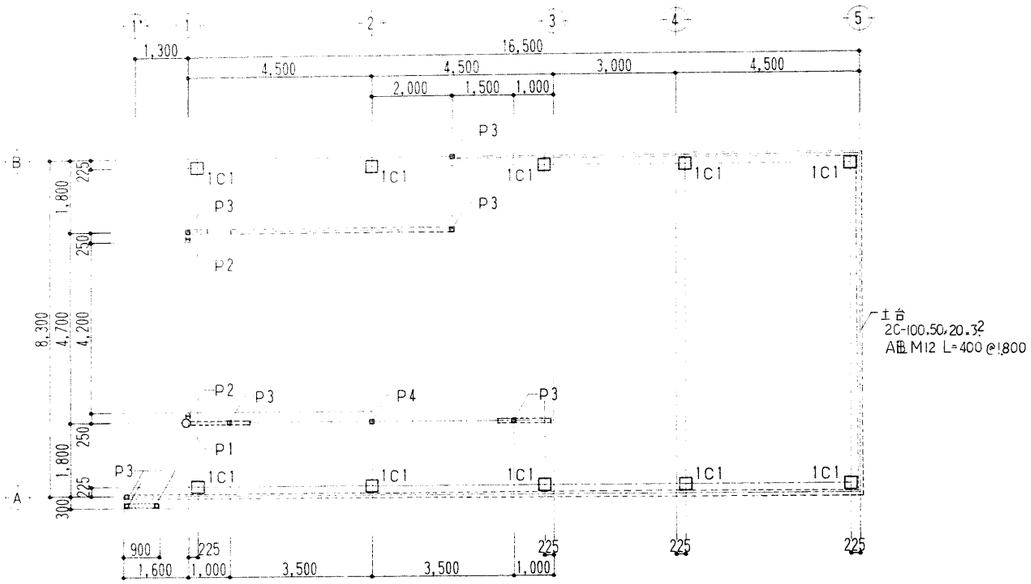


配筋図 S=1:30



名称	仕様
捨コンクリート	Fc 18N－15－25
土間コンクリート	Fc 21N－15－25
躯体コンクリート	Fc 21N－18－25
鉄筋	D10～D16－SD295A　D19以上 SD345
設計地耐力(長期)	200 KN/m²

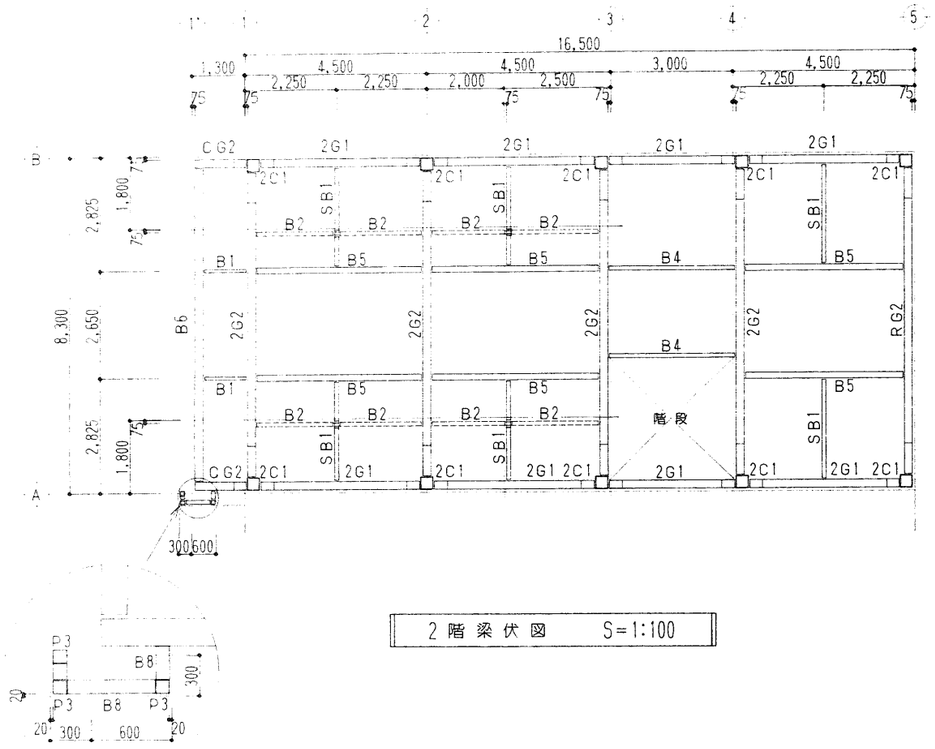
工事名	(仮称)肴町地区コミュニティー 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 基礎伏図 基礎配筋図	縮尺 S=1:100 S=1:30
枚ノ内	図面番号 31	区分 建築構造					



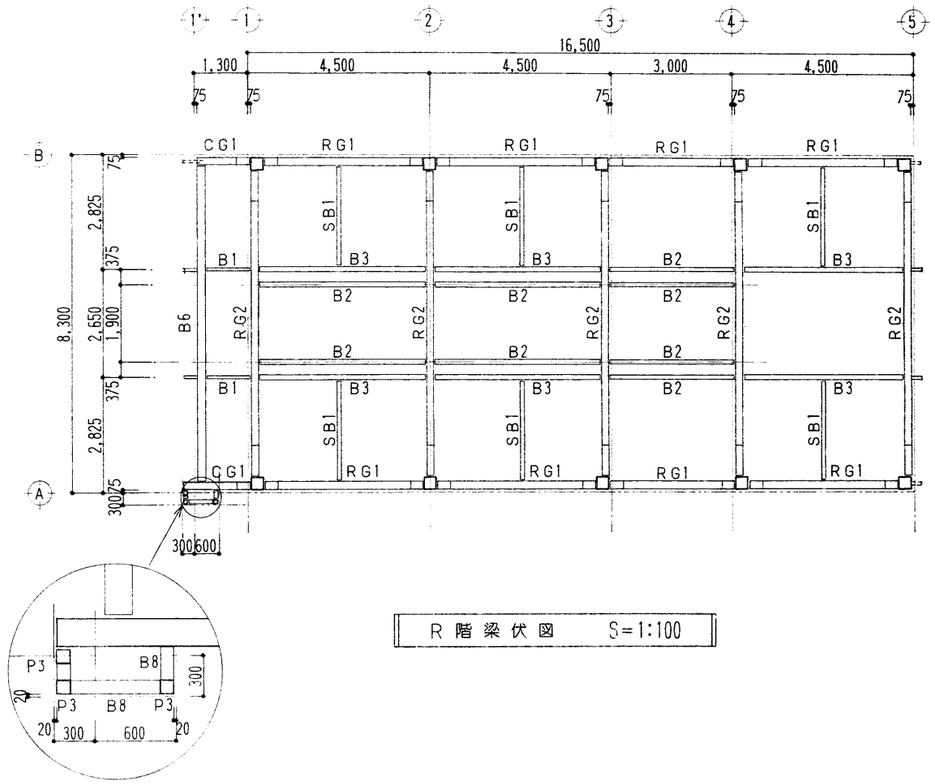
柱伏図　S=1:100

	符号	断面	備考
梁	RG1	H－350×175×7×11	剛接合JOINTは別仕様書参照
	RG2	H－350×175×7×11　端部 BH－350×175×9×12	〃
	2G1	H－450×200×9×14	〃
	2G2	H－450×200×9×14　端部 BH－450×200×9×16	〃
	CG1	H－350×175×7×11	〃
	CG2	H－450×200×9×14	〃
	SB1	2C－100×50×20×3.2　ﾌｨﾗｰPL-6 @500	GPL-6 中BL 2－M16
	B1	H－150×75×5×7	GPL-6 HTBL 2-M16
	B2、B4	H－200×100×5.5×8	GPL-6 HTBL 2-M16
	B3	H－250×125×6×9	GPL-6 HTBL 2-M16
	B5	H－300×150×6.5×9	GPL-9 HTBL 2-M20
	B6	H－350×175×7×11	GPL-9 HTBL 3-M20
	B7	H－148×100×6×9	GPL-6 HTBL 2-M16
	B8	H－100×100×6×8	GPL-6 中BL 2-M16
柱	2C1	□－300×300×12	
	1C1	□－300×300×16	BPL 32×500×500　ABL 4－M27ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ L=800(首下)
	P1	SGP 白 216.3φ×5.8　柱脚 □－100×100×6	BPL 9-120×260 ABL 2-M16 L=400 2PL-6 中BL 2-M16
	P2	H－100×100×6×8	BPL－9×110×140　ABL 2－M16　L=500(ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ) GPL-6 HTBL 2－M16
	P3	□－100×100×3.2	2PL－6　中BL 2－M16
	P4	□－100×100×3.2	BPL－9×115×260　ABL 2－M16 L=500　2PL－6 中BL 2－M16
	P5	□－100×100×2.3	2PL－6　中BL 2－M16
その他	ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	ｺﾝｸﾘｰﾄ合成床版型ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ(ｱ)1.2mm ｺﾝｸﾘｰﾄ止め　PL－1.6×H130	ｺﾝｸﾘｰﾄF C18N/mm², 山上(ｱ)80mm ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ 6φ－150×150　専用ｽﾍﾟｰｻｰ使用
	胴縁	C－100×50×20×2.3 @600	

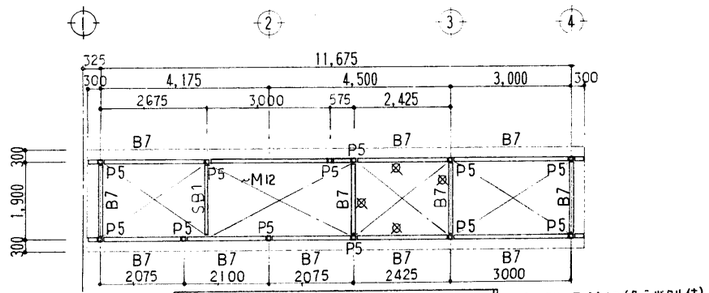
工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号　伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 1階柱伏図 鉄骨リスト	縮尺 S=1:100	枚ノ内 図面番号 32 区分 建築構造



2 階 梁 伏 図　　S=1:100



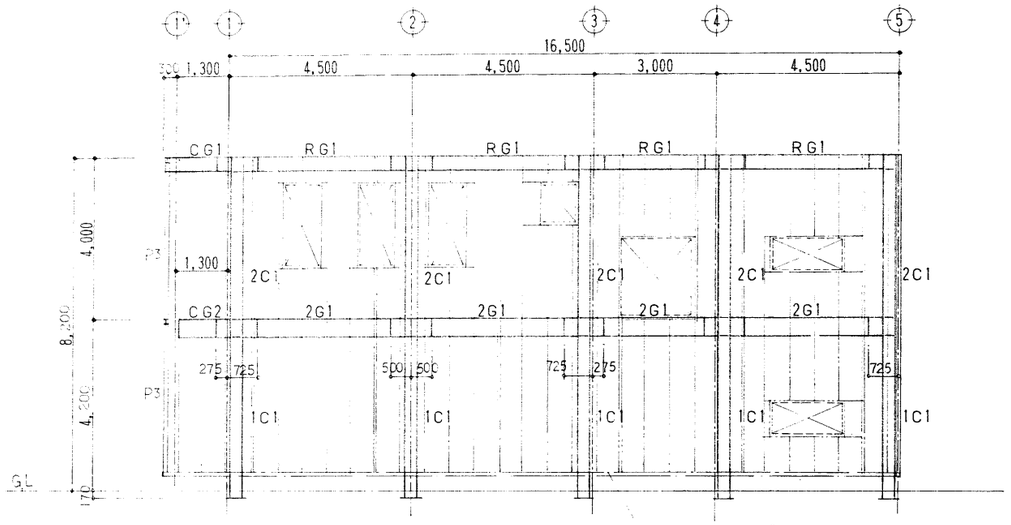
R 階 梁 伏 図　　S=1:100



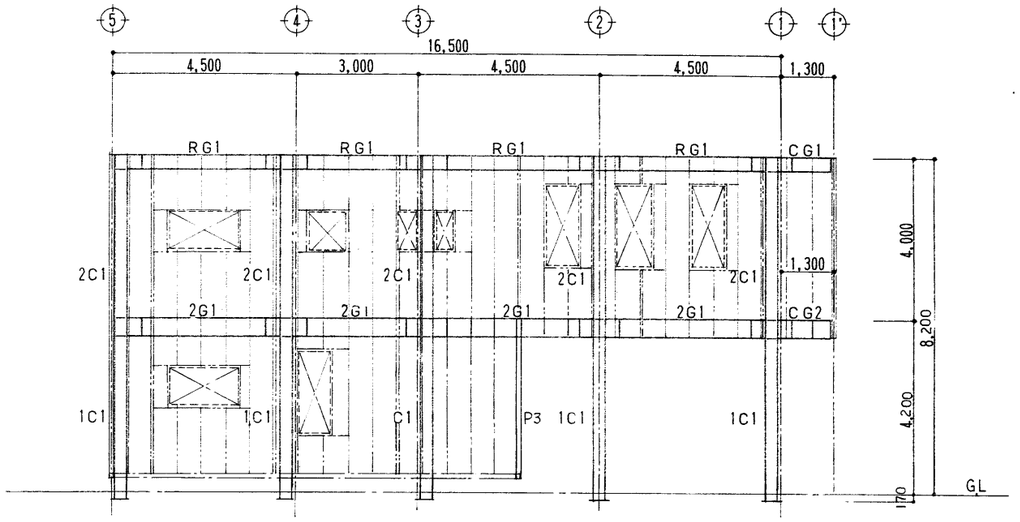
吹 抜 部 分 梁 伏 図　S=1:100

⊠ ブレース M12（ターンバックル付）

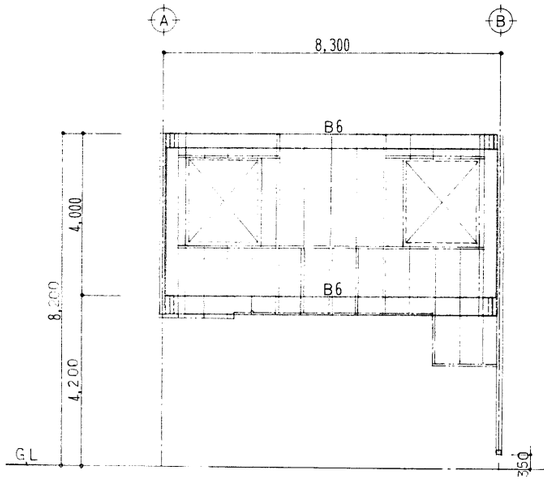
工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1 級建築士事務所 有限会社 伊 五 沢 設 計 1 級建築士登録61377号　伊 五 沢　賢 次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検 図	製 図	特記	図面内容 2 階 梁 伏 図 R 階 梁 伏 図	縮尺 S=1:100	枚ノ内 図面番号 33 区分 建 築 構 造



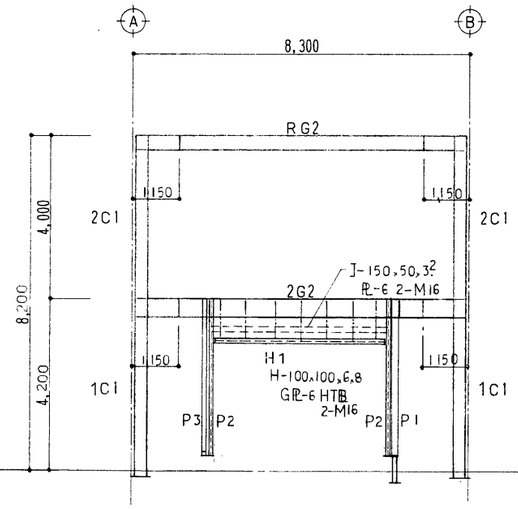
A通り



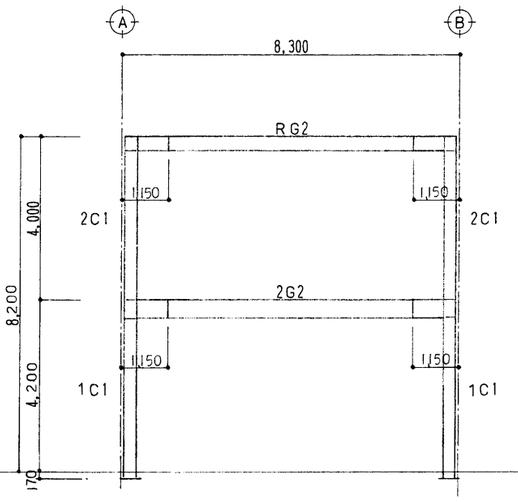
B通り



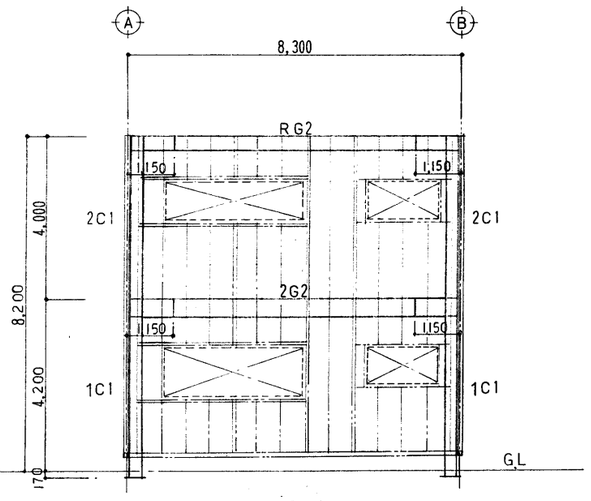
1'通り



1通り



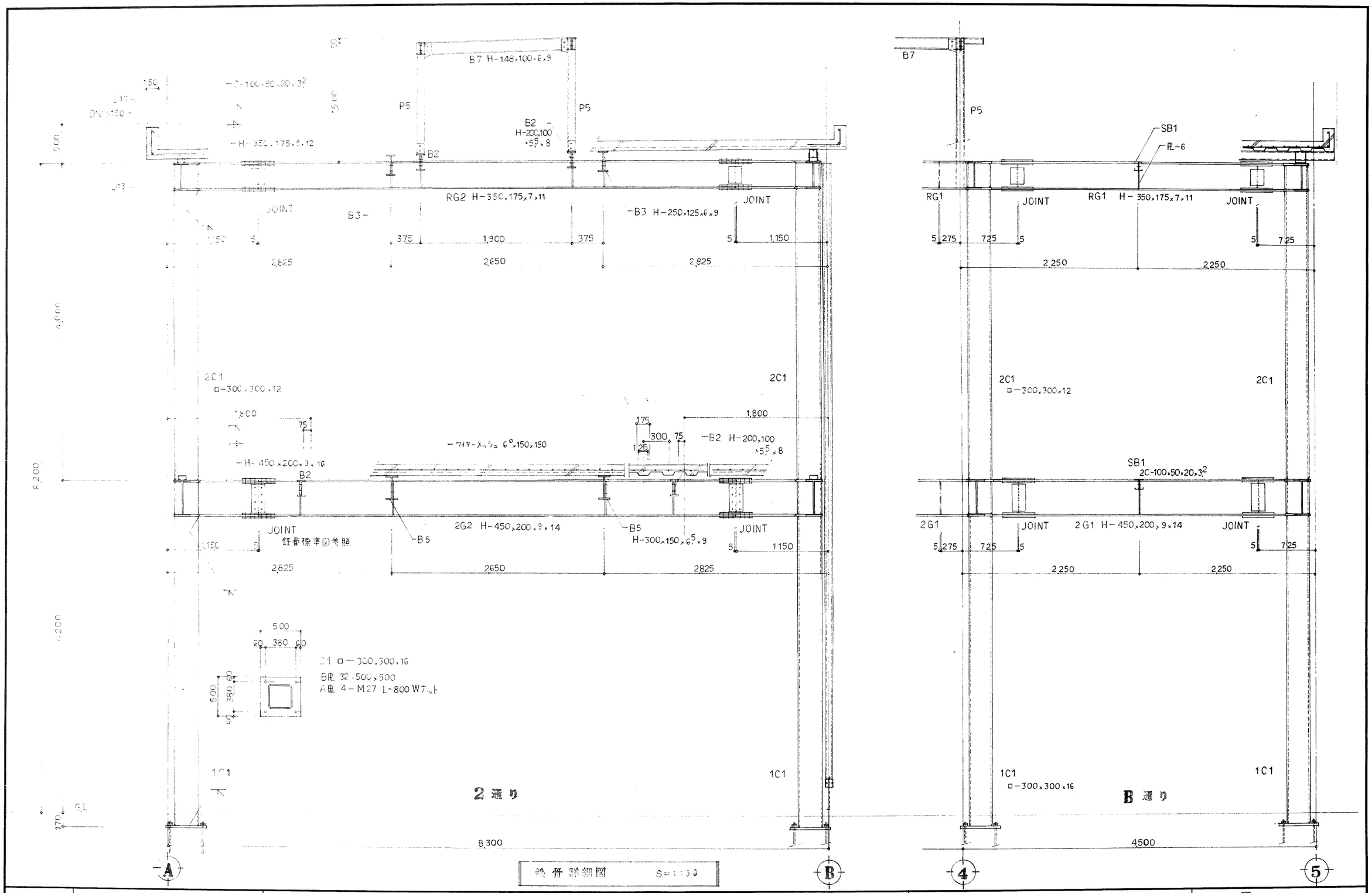
2～4通り



5通り

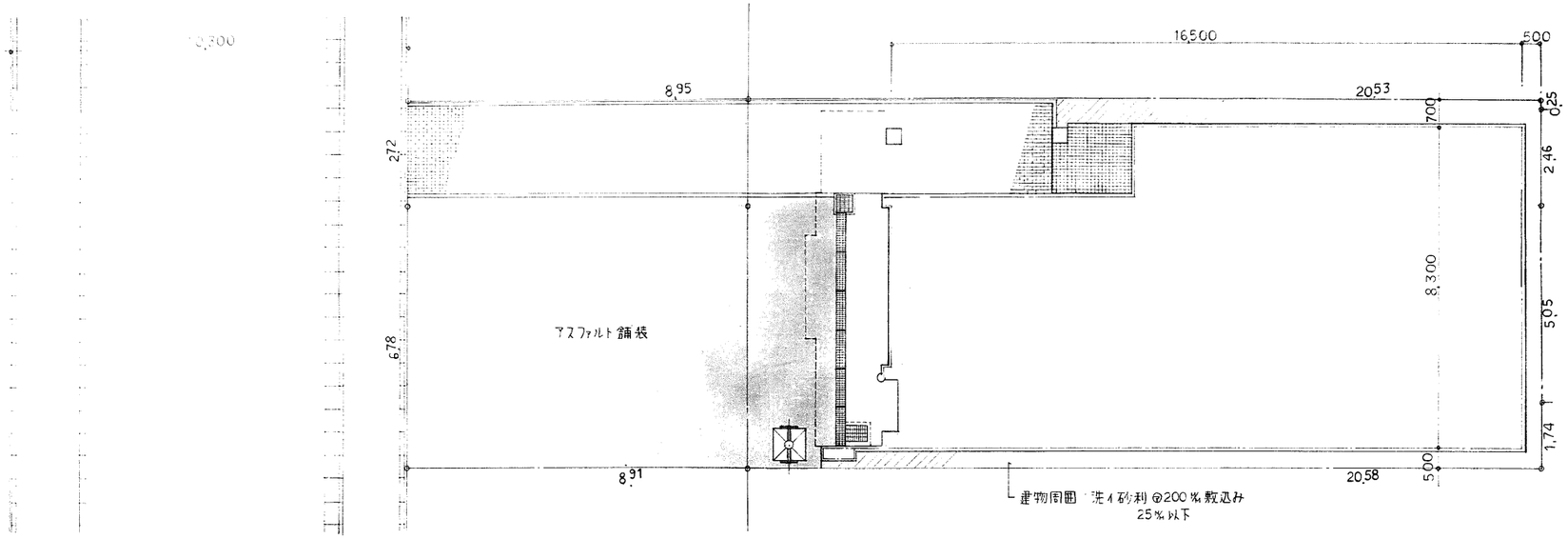
軸　組　図　S=1：100

工事名	(仮称)肴町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)－5755	検図	製図	特記	図面内容 軸組図	縮尺 S=1：100
	工事設計図						枚ノ内 図面番号 34
							区分 建築構造

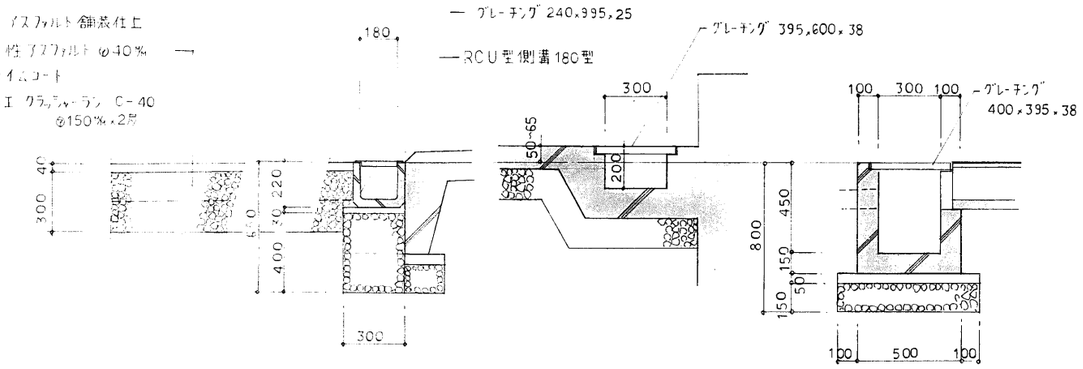


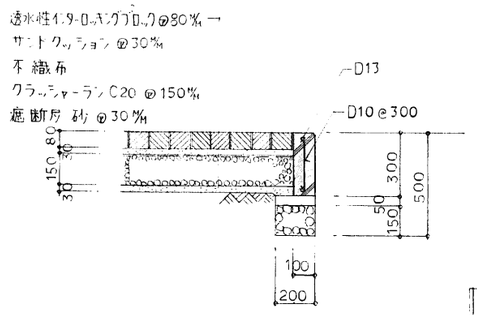
鉄骨詳細図 S=1:30

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1級建築士事務所 有限会社 伊五沢設計 1級建築士登録61377号 伊五沢賢次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641)-5755	検図	製図	特記	図面内容 鉄骨詳細図	縮尺 S=1:30	枚ノ内 図面番号 35 区分 建築構造

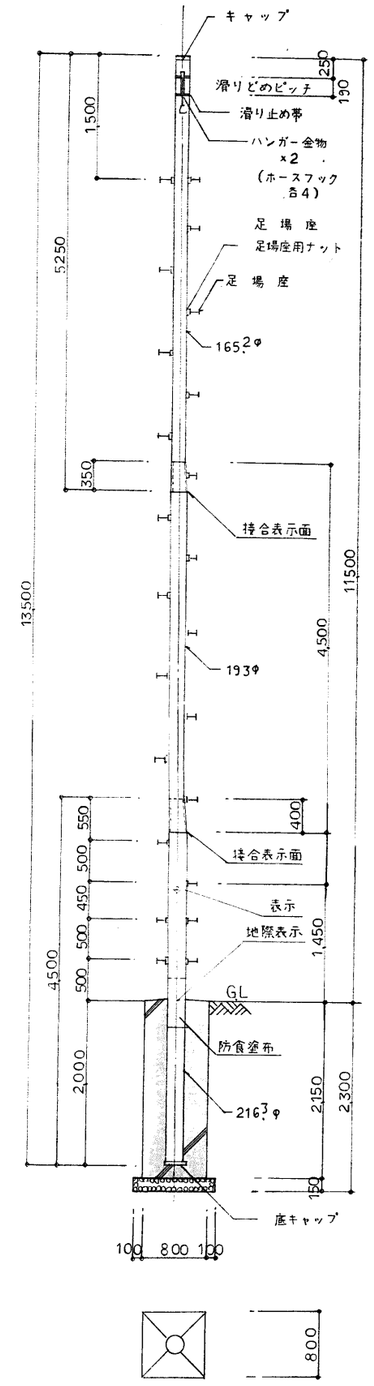


外 構 図 S=1:100



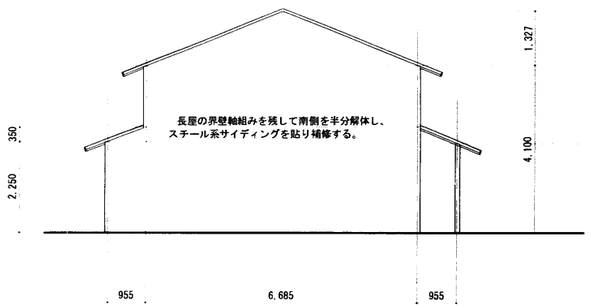


詳 細 図 S=1:30

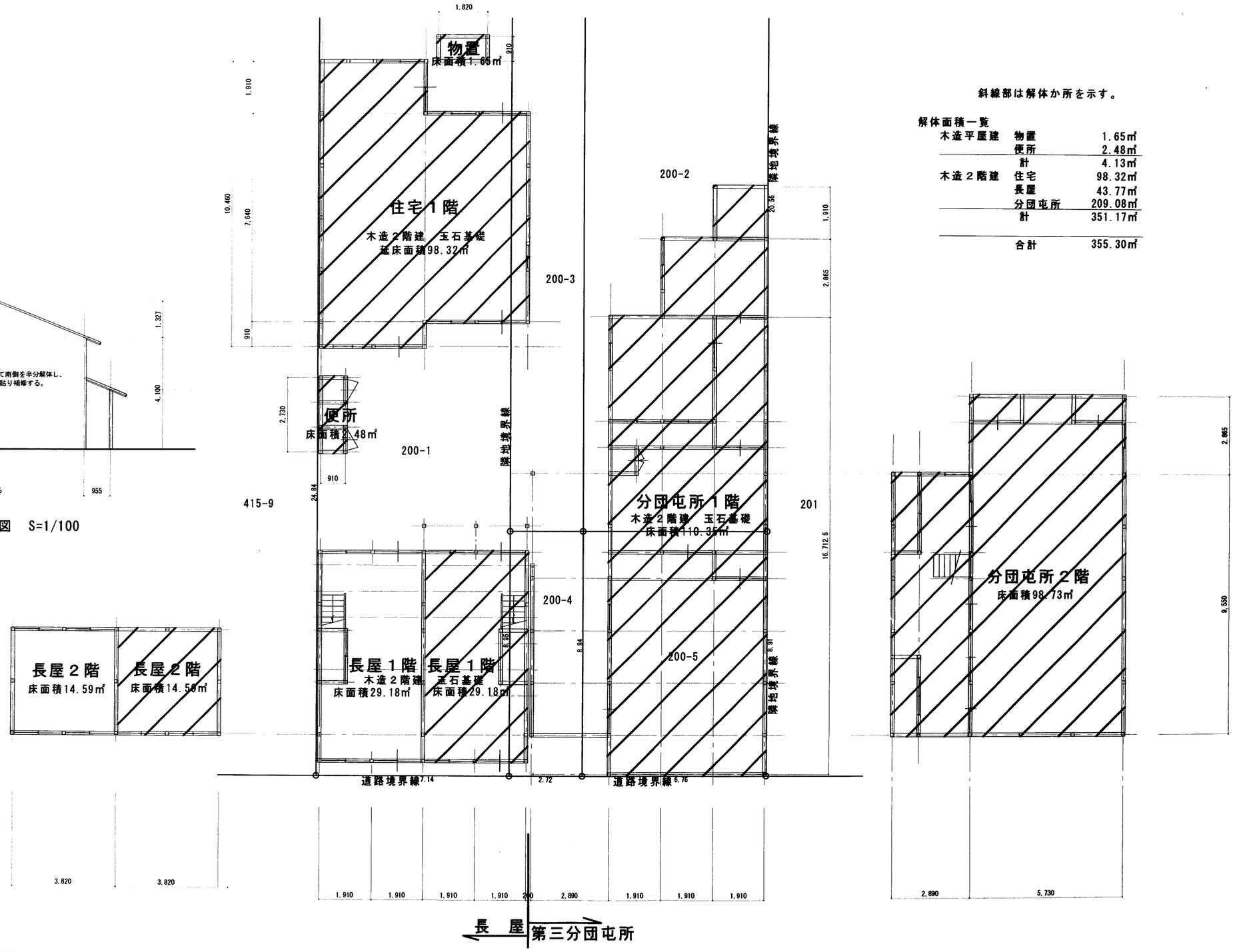


消防用ホースポール 詳細図 S=1:50

工事名	(仮称)看町地区コミュニティ 消防センター建設(建築主体)工事 工事設計図	1 級建築士事務所 有限会社 伊 五 沢 設 計 1 級建築士登録61377号 伊 五 沢 賢 次 盛岡市みたけ四丁目8番40号 TEL 019(641) − 5755	検 図	製 図	特記	図面内容 外 構 図 詳 細 図	縮尺 S=1:100 S=1:50 S=1:30	図面番号 36 枚ノ内 区分 外 構 図



長屋南側立面図　S=1/100



斜線部は解体か所を示す。

解体面積一覧

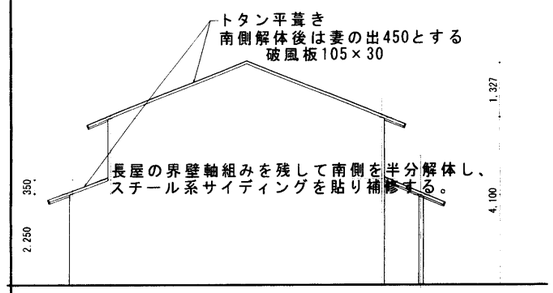
木造平屋建	物置	1.65㎡
	便所	2.48㎡
	計	4.13㎡
木造２階建	住宅	98.32㎡
	長屋	43.77㎡
	分団屯所	209.08㎡
	計	351.17㎡
	合計	355.30㎡

年度	施設番号	工事名称			設計担当	特記	図面内容	縮尺		図面番号
平成13年度			(仮称)肴町コミュニティ消防センター建設	盛岡市建設部建築営繕課	藤澤		解体建築物平面図	1/100	枚ノ内	37
2001			(建築主体)工事　設計図	盛岡市内丸１２番２号 電話 (019) 651-4111	検図				区分	

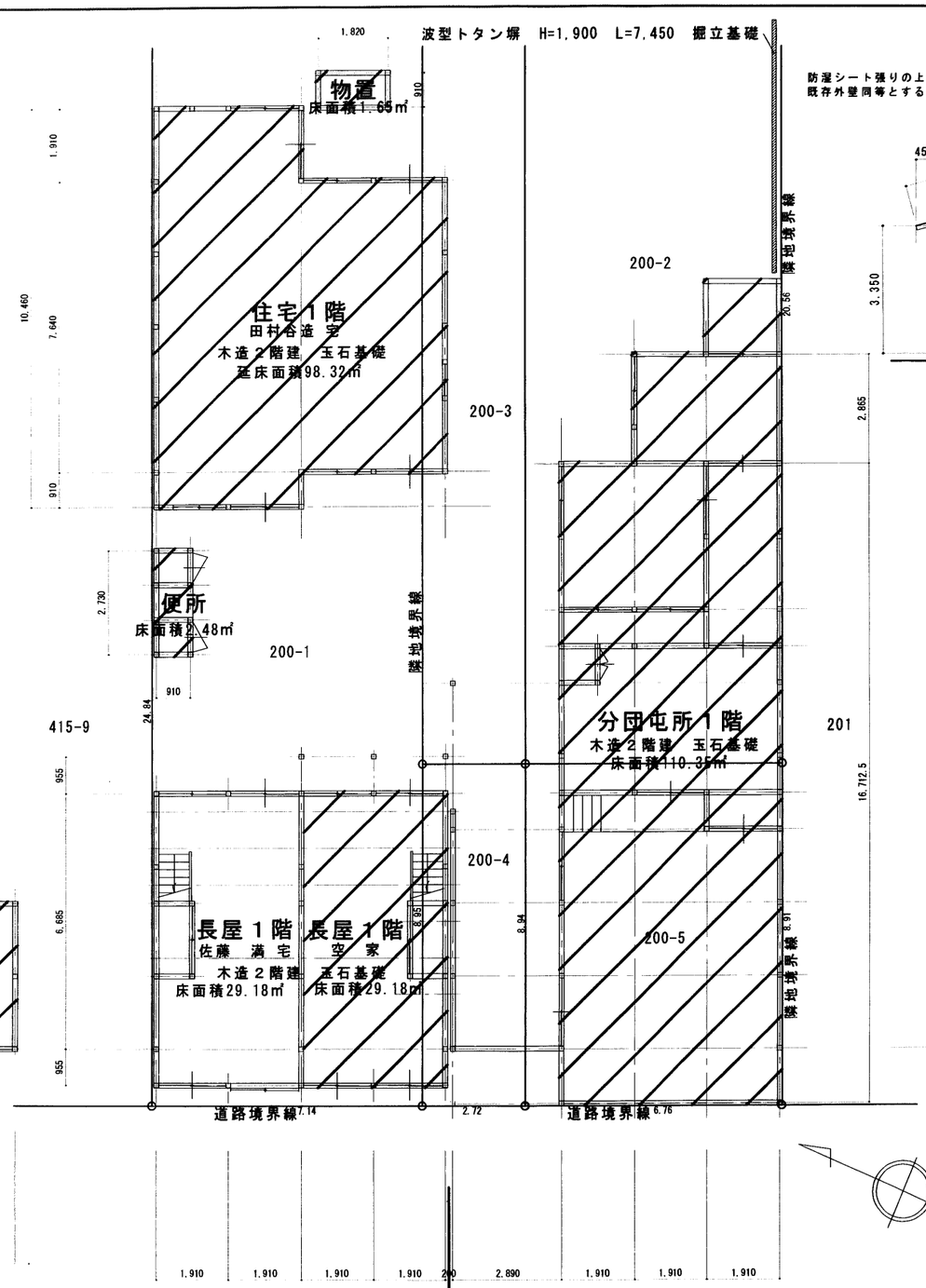
※斜線部は解体か所を示す。

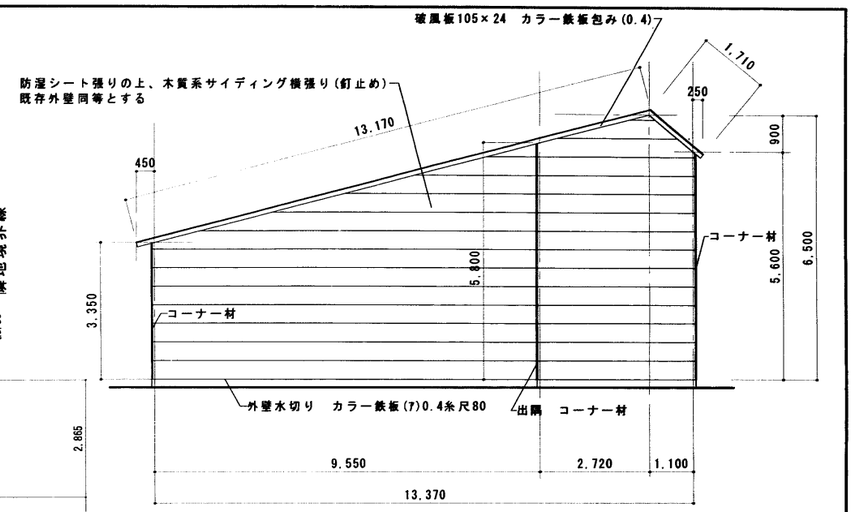
解体面積一覧

木造平屋建	物置	1.65㎡
	便所	2.48㎡
	計	4.13㎡
木造２階建	住宅	98.32㎡
	長屋	43.77㎡
	分団屯所	209.08㎡
	計	351.17㎡
	合計	355.30㎡

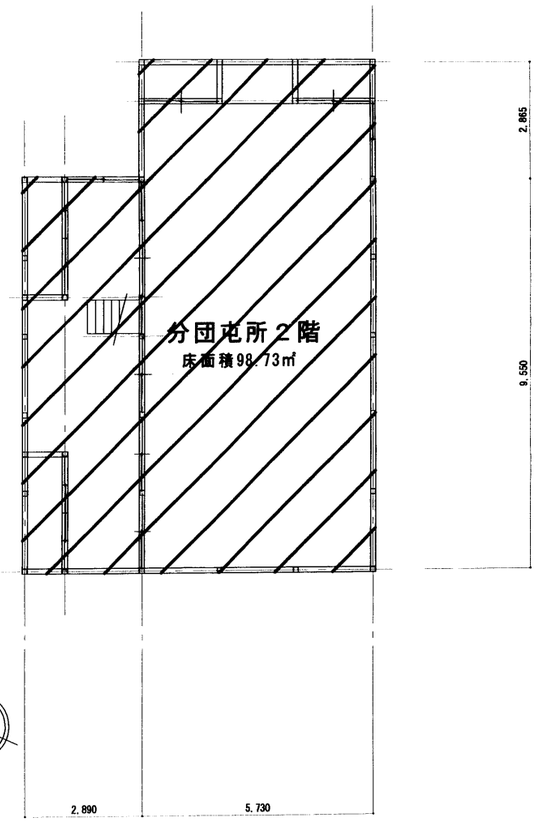


長屋南側立面図　S=1/100





隣地　吉田新一宅北側立面図



長　屋　第三分団屯所

年度	施設番号	工事名称		設計担当	特記	図面内容	縮尺	図面番号
平成13年度		(仮称)肴町コミュニティ消防センター建設	盛岡市建設部建築営繕課	藤澤		解体建築物平面図	1/100	枚ノ内
2001		(建築主体)工事　設計図	盛岡市内丸１２番２号 電話 (019) 651-4111	検図				区分